

ウ之部 (上) 植(垣)

一郎に嫁せり(和歌山、有田、保田村)
参照 石橋八九郎、上山静藏、上山英一郎、山口孫七、石橋三郎の項

上山英一郎

大日本除蟲粉専務取締役、共同信託取締役、和歌山縣在籍
妻 文久二、二生、和歌山、上市市
男 英三 明三二、一一生
男 英次 明三三、一一生
男 昌子 明四〇、二生、三男英夫妻、和歌山、山口孫七長女

上山英三

從五位勳六等、銀行検査官、日本勸業銀行監理官、和歌山縣在籍
父 英一郎 明三二、一一生、現戸主
妻 英子 明四二、二生、法學博士松波仁一
男 紀志雄 大七、九生

上山英二

君は和歌山縣人上山英一郎の二男にして同勤太郎の弟なり明治二十六年三月を以て生る大正六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試験に合格す爾來稅務監督局屬大藏副司法官西稅務署長司稅官神田橋稅務署長稅務監督局事務官古屋稅務監督局經理部長大阪稅務監督局副部長等を歴任し昭和三年銀行検査官に任ぜられ現に日本勸業銀行監理官たり家族は尙長女眞紀子(昭三、一八生)二女眞里子(同一三、一八生)三女美知子(昭三、一八生)あり(東京市外千駄ヶ谷田一七八電青山六八四〇)

(※印は姻族關係)

参照 上山英一郎、上山勤太郎、松波仁一郎、泉至剛の項

上山勤太郎

大日本除蟲粉代表取締役、南海電力電氣、上山製糖、岸和田煉瓦、各業各業監査役、天産物輸出商
妻 明三二、一一生、和歌山、御前綱一妹
君は和歌山縣人上山英一郎の長男同英三の兄にして明治二十二年九月を以て生れ先代勤太郎の養子となり同四十二年家督を相続し前名英之助を改め製糖天産物輸出商を営み現時大日本除蟲粉社長たる外前記各會社の重役を兼ぬ家族は尙長女綾子(大一一、一〇生)二女富美子(昭三、四生)あり叔母たつ(慶應元、一一生)は和歌山縣人御前綱一先代利平次に嫁せり(大五九九八(大阪、西、土佐堀通三)一九電土佐堀六二七)
参照 上山英一郎、上山英三、御前綱一の項

上山静藏

内外除蟲粉代表取締役、上山製糖取締役、大正商事監査役、大阪砂糖取引所理事、和歌山縣在籍
妻 明一八、二生、和歌山、上市市郎兵衛
男 静治 明三八、一一生、和歌山高女出身
女 静子 明四四、一一生、樟蔭高女出身

上山與作

君は和歌山縣人玉置彌兵衛の四男にして同傳三郎の弟なり明治十五年十二月を以て生れ上市市郎兵衛の養子となり大正八年分れて一家を創立す明治三十七年大阪高等商業學校を卒業し獨立して除蟲粉製造業を起し傍ら糖業界に入る現時前記各會社の重役たり又大阪砂糖取引所會員にして創立以來常任理事として今日に至る園藝を趣味としA二〇〇〇B五〇〇(大阪、南、鹽町二ノ三電船場九七五)
参照 上山市郎兵衛、玉置傳三郎、上山英一郎、泉山口孫七の項

男 茂 明四〇、七生、慶大在學
女 千代 明四一、八生、神戸女學院高等部出身
女 静子 明四四、四生、神戸市立第二高女出身
女 時子 大五、八生

上山良吉

君は靜岡縣人石川源三郎の二男にして明治六年五月を以て生れ兵庫縣人上山常三郎の養子となり同三十二年分れて一家を創立す夙に大阪に出で貿易商岩井勝三郎商店に入り勤続十七年に及ぶ後獨立して印刷業を創め桔梗製糖よく今日の基を爲す現に備前原料商を營み兵庫縣多額納稅者の列に在り諸曲を嗜む家族は尙五男慶一(大四、一一生)孫夫佐子(昭三、二生、長男政治長女)同元一(同四、七生、同長男)あり(神戸、大開通一)五一電湊川二二六六)
参照 逢坂彌一の項

上山静江

君は兵庫縣土族上山道順の長男にして慶應二年十一月を以て生れ明治六年家督を相続す同二十五年慶應義塾を卒業し現時森村同族會社取締役たり兼に京王電氣軌道會社監査役たりし事あり(東京、牛込、砂土原町三八電牛込二五五四)
参照 濱有川鷹一の項

植垣彌一郎

明治商店庶務取締役、明治製菓總取締役、京都府在籍
妻 よね 明一七、五生、京都、下田三喜藏
女 太刀子 明四四、六生、佛英和高女出身
君は京都府人中江磯次郎の三男にして同利郎の兄なり明治十八年六月を以て生れ先代チエの養子となり大正十年家督を相続す嘗て小樽石油商會を支配し明治四十四年小樽の荷馬車五丁頭の合同統一を企てたることあり同四十二年明治製菓會社に入り現時傍系たる明治商店庶務取締役の外前記會社の重役にして義に歐米の製糖製菓製乳の諸事業を視察せりA一七一(東京市外中

野町桃園六電中野三三七七

参照 中江利郎の項

植木金松

山口商店庶務取締役、大阪府在籍
妻 とよ 明一五、一一生、滋賀、楠井喜三
男 英三 明三五、三生
女 とし 明四〇、七生
男 鍊之助 明四四、一一生
君は三重縣人植木市兵衛の長男にして明治五年九月を以て生れ同三十四年兄由松方より分れて一家を創立す現時山口商店取締役たり(大阪、天王寺、松ヶ鼻町一電南三三七七)

植木憲吉

日本竹材代表取締役、日本工船漁業、共同漁業、共同水産各取締役、日本毛皮、日本毛皮貿易各取締査役、兵庫縣在籍
妻 惠美子 明二五、四生、京都、平和三郎二
男 太郎 大四、一一生
君は兵庫縣人植木政一(二男)にして明治十九年八月を以て生れ大正四年兄靖夫より分れて一家を創立す明治四十四年水産講習所漁務科を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙長女あや子(大七、一一生)二男次郎(同八、七生)二女ふさ(同一〇、二生)三女雪子(同一二、八生)三男三郎(同一四、九生)四女佳子(昭三、一一生)ありA三八〇(東京、牛込、新小川町三ノ一七電牛込四六五二)

植木瀧藏

牛込區會議員、製本業
妻 ノア 明一〇、一一生、東京、船山與兵衛二女
男 政次郎 明三八、一一生
男 勇次郎 明四〇、九生
君は東京府人河原源五郎の二男にして明治四年一月を以て生れ先代新吉の養子となり同十七年家督を相続す製本業を營み現時牛込區會議員たり(東京、牛込、水道町三八電牛込三三三七)

植木長治

從四位勳四等、札幌市電氣局長、東京府在籍

植木秀幹

正五位勳五等、農學博士、朝鮮總督府林業試驗所技師、九州帝國大學講師、愛媛縣土族
妻 ユキエ 明二二、一一生、愛媛、加藤良三二女
男 秀樹 明四三、一〇生
君は愛媛縣土族植木秀村の二男にして明治十五年七月を以て生れ同十六年家督を相続す同三十七年東京帝國大學農科大學林學科を卒業後米國ハバート大學に生物學を専攻し「マスター・オブ・サイエンス」の學位を得て昭和三年農學博士の學位を受く明治三十七年宮城縣立農學校教諭に任ぜられ尋で韓國政府に招聘せられ林業技術同農林學校教授兼林業技師に任ぜられ後同校の朝鮮總督府水原高等農林學校に昇格すると共に陸任し現時前記の官職に在り著述多し家族は尙二男正秀(大二、五生)三男行秀(同四、一一生)四男秀秀(同四、一四生)長女千枝子(同一四、五生)五男博秀(昭四、一〇生)あり姉サチエ(明八、一〇生)は愛媛縣土族桑野唯一郎に嫁せり(同二、一〇生)は同縣人谷村銀一郎に嫁せり(朝鮮、水原高等農林學校官舎)

植木房太郎

三井物産盤谷出張所長、東京府在籍
妻 イト 明二九、六生、東京、垣内徳三郎
男 備太 大二〇、九生
君は東京府人植木留吉の長男にして明治二十一年十一月を以て生れ同四十三年叔父清吉より分れて一家を創立す同四十四年東京高等商業學校を卒業し三井物産

植木平之允

正六位上、工學博士
妻 ウサ 明三〇、八生
男 豊吉 明三〇、八生
女 萬佐子 明三八、一一生、三男豊吉妻、東京、精合陽二長女
君は山口縣土族植木忠一の長男にして文久元年一月を以て生れ明治二十三年家督を相続す同十五年工部大學校土木工學科を卒業し官界に入り山口縣出仕鐵道局技師大阪府技師大阪府技師に歴任し後三井鐵道會社に入り同社九州炭礦事務所長同社常務取締役たりし事あり大正四年工學博士の學位を受く現時同地に在り三女榮子(明三四、一一生)は京都府人山崎寅次郎長男武雄に嫁し弟治郎(慶應元、一一生)は山口縣土族雜賀マの養子となり同芳太郎(明七、八生)は同縣人奥平ミのの夫となれりA七三八(東京市外澁谷町一八電青山五二七)
参照 子爵杉七郎、奥村寅次郎、青木梅三郎、河村金五郎の項

植木又藏

口之津鐵道總社長、長崎縣在籍
妻 マイ 明四三、三生、荒木銀平四女
男 信一 明二六、八生
男 松齡 明三二、一一生、長男信一妻、長崎、石川勘治郎二女
男 要次郎 明二九、二生
男 クニ 明三九、七生、二男要次郎妻、長崎、松藤恒彦妹
女 敏子 大元、九生
君は長崎縣人南佐八郎の四男にして慶應元年四月を以て生れ植木三郎の養子となり明治三十四年分れて一家を創立す現時口之津鐵道會社社長たり家族は尙孫後夫(大八、一一生、長男信一)同都(同一一、二生、同長女)同高男(同一四、一〇生、同二男)同直(昭五、七生、同二女)同キク(大一一、〇生、二男要次郎長女)同

ウ之部 植(木)

(※印は姻族關係)

植原嘉次郎 土木建築請負業
大阪府在籍
妻 岸 江 明二九、四生、岡山、森本カツ私生子
男 榮一 大四、八生

君は香川縣人植原金造の三男にして明治二十一年八月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す土木建築請負業を營む(大阪、北、川崎町五一電北四四五二)

植原泰藏 家主
大阪府在籍
妻 明一 明一、七生、大阪、田中余太郎妹
男 明二 明三、六生
女 綾子 明三、三三、三三
静子 明四、五生

君は大阪府人植原善兵衛の三男にして明治五年八月を以て生れ同三十七年養父兄藏の後を受け家督を相続す家主たり家族は尙姉(喜水四、一一生)あり三女(明四〇、一〇生)は大阪府人石崎芳太郎に嫁せり(大阪、東淀川、上新庄町四四七)

植松 健 小樽商工會議所議員、湯澤木材、小樽木材倉庫、北海道在籍
妻 さと 明二一、三三、京都、島川猪久次郎長女
男 淳 大八、七生
女 マミ 大五、二生

君は舊尾州藩士植松有輝の四男にして同安の兄なり明治十三年七月を以て生れ大正九年兄京一方より分れて一家を創立す明治三十五年東京帝國大學農科大學實科を卒業し大阪大林区署大藏省臨時建築部臺灣總督府等に勤務し後實業界に入り現時現記各會社の重役たり大正十三年外遊農務省山林局の嘱託を受け林業調査をなす目下推されて小樽商工會議所議員たり家族は尙四女(昭二、九生)あり(小樽、相生町一ノ一五電八七)

植松 雅道 正四位勳六等、子爵、陸軍監軍
時内匠家出所長心得、舊公卿家
妻 こてる 明四三、六生、兵庫、印部所一長女
男 雅俊 明四三、六生
女 信子 明四一、五生
正子 大元、八生

當家は權大納言千種有能の末子參議雅水の後なり雅水別一家を成し植松と稱す夫より九代を経て雅平に至り明治十七年子爵を授けらる君は雅平の二男にして明治十年十月を以て生れ大正四年襲爵す陸軍監軍に任じ官内省主殿寮出所長心得を兼ぶ家族は尙二男(雅英大七、四生)あり姉多賀子(明七、六生)は宮崎縣土族伊東駒千代に妹(慶應二、二生)は同府人毛利正道に通婚し叔母(慶應二、二生)は同府人毛利正道(同三、一〇生)は滋賀縣人近松俊丸に同芳子(同三、一〇生)は京都府人藤野卓爾叔父友彦に嫁し弟雅尙(同二、五生)同雅尹(同二、三三)は各分家し叔父雅行(同二、八生)は京都府人田中平藏の養子となり(京都市御苑内匠家出所長官舎電一五)

植松 傳 福島縣多額納稅者、中ノ澤温泉産取締役、農業、福島縣在籍
妻 紋 平 嘉永六、九生
男 敏 明七、四生、養父紋平長女
女 サノ 明三一、一〇生、長男敏妻、福島佐渡寺左衛門長女
男 健 明三六、六生
女 淳 明三九、一一生

君は福島縣人高橋牛四郎の弟にして明治二年十月を以て生れ先代紋平の養子となり大正八年家督を相続す農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅千二百五圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙四男(大四、一〇生)孫健(同九、九生、長男敏長男)同健二(同二、八生、同二女)同幸子(同四、九生、同長女)同千枝子(明四、九生、同二女)あり長女(明三三、八生)は福島縣人淺羽茂通四男茂興に養子貞子(同三六、一一生、福島、鈴木秀吾長女)は同縣人森川錦壽に妹(同二七、四生)は同縣人五十嵐清に嫁せり(福島、大沼、本郷町)

植松 安 從四位勳五等、臺北帝國大學教授
文政學部勤務、東京府在籍
妻 淑子 明二四、八生、埼玉、土、志方殿
男 一郎 明四四、九生
女 八重子 大五、六生

君は京都府人植松常助の長男にして明治十四年十月を以て生れ同十九年家督を相続す現時前記會社の重役たり家族は尙三男永吉(明四五、二生、慶大在學)あり(四七四(大阪、中河内、龍華町電八尾三三三))

植松 家治 從四位、子爵、貴族院議員
舊和州高取藩
妻 幸 大三、一一生
男 治子 明四四、四生、女子學習院出身
女 家幸 明四四、一一生

當家は源頼光の末裔土岐伊勢守光兼の源三郎持益の後なり持益初め植松と稱す後二代氏明に至り徳川氏に仕へ三河安祥七譜代の一なり數世を経て出羽守家政に至り大和國高取二萬五千石に封ぜらる十餘世を経て先代從二位家憲に至り明治十七年子爵を授けられ久しく陸軍監軍として神武天皇御代に奉務す君は家憲の三男にして子爵多涉の從兄に當る明治二十年三月を以て生れ大正九年襲爵す同二年東京外國語學校佛語專修科

植村 久五郎 植久、洋服商
東京府在籍
妻 なを 嘉永五、一一生、東京、鈴木初五郎長女
男 松太郎 大五一、九生
女 静枝 明三六、二生、東京高女出身

君は東京府人先代久五郎の長男にして明治七年十月を以て生れ同十九年家督を相続し後襲名して前名松太郎を改む幼少より父を扶けて家業に従事し植久と號し同業者間に知らる君は東京洋服商工組合副組長芝區會議員等に擧げらる家族は尙四女登美枝(大八、二生)五女(同二、七生)あり二女喜久(明三二、一一生)五女(同六、六生)は同夫十郎(同三、三三)愛知、鈴木太兵衛(長男)及其四女と共に弟益次郎(同三、一一生)は同妻み(同二、一〇生)東京、清田勇養妹)及其一男を伴ひ各分家し同久三郎(同二、一〇生)も亦分家せり(東京、芝、愛宕下町四ノ一電芝一三八九)

植村 一四 岩井商店、日本興業無盡各種取締役、東京府士族
妻 つね 明一七、七生、兵庫、増田虎造妹
男 四郎 明三三、七生
女 京子 明四四、七生

君は兵庫縣人永井米郎の二男にして明治十年十月を以て生れ後先代虎造の養子となり同四十二年家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尙三男英介(大七、九生)三女滿里子(同二、一〇生)あり四男敏三(同七、一一生)は神奈川縣人細井ハマの養子となり(東京市外濠谷町神泉九)

植村 卯三郎 正五位勳四等、醫學博士、製鐵所醫官、醫務部長、病院長
三重縣在籍
妻 田 鶴 明二三、一一生、福岡、植田與六三女
男 剛 大四、一一生
女 夏子 大二、七生、日本女大英文科在學

君は三重縣人樋口彦藏の三男にして明治十二年二月を以て生れ叔父傳治郎の養子となり大正九年家督を相続す明治三十八年東京帝國大學醫學部を卒業し更に大學院に入る同四十年製鐵所附屬病院副院長となり同院長を繼いで大正七年歐米に出張其間製鐵所醫官病院院長に任じ同八年歸朝す同九年醫學博士の學位を受け昭和二年同所醫務部長に擧げらる同四年再度歐洲各國に出張す家族は尙二男陸男(大六、一一生)あり(八幡、高見町六丁目製鐵所官舎)

植村 克巳 大林組經營取締役、日本ビヂュマルス取締役、奈良縣在籍
妻 さぶ 明二八、八生、青森、土、淺川道長女、青山女學院出身
養子 武治 明二四、五生、父傳重郎五男、日本石油會社員、工學士

君は東京府人植村澄三郎の長男同泰二の兄同金吾の弟にして明治二十七年三月を以て生れ大正七年東京帝國大學法科大學を卒業し農商務省農工書記官を経て現時農務局事務官にして總務部調査課長たり家族は尙

植村 金吾 オリエンタル寫眞工業監査役
東京府在籍

植村 甲午郎 從五位、農務局事務官、總務部調査課長、東京府士族
妻 澄三郎 文久二、一〇生、現戸主
女 淑 明三三、一〇生、男爵富井政章三女、お茶の水高女出身

植村 倉吉 神奈川縣多額納稅者
妻 シヅ 明三三、一〇生、神奈川、田村徳太郎妹
男 伊知郎 明三四、一一生
女 ミハ子 明四一、三三、長男伊知郎妻、神奈川、吉川佳五郎四女、平塚高女出身

植村 克三 明一三、七生、長野、岡村竹四郎長女
妻 明二四、五生、長女つる、東京生方一哉三男
養子 克三 明三三、一〇生、養子克三妻
女 つる 明三三、一〇生、養子克三妻

君は東京府士族植村澄三郎の弟にして同甲午郎同泰二の叔父なり慶應三年九月を以て生れ明治三十三年分れて一家を創立す現時オリエンタル寫眞工業會社監査役たり家族は尙孫哲夫(大五一、五生、養子克三長男)同耕三(昭四、二生、同二男)あり(四五八(東京市外神倉町神文谷一三五))

ウ之部 植村

ウ之部 植(村)

(※印は姻族関係)

長女弘(大一二、七生)二女敏子(同一四、四生)三女和子(昭三、一)...

植村治三郎 大阪府在籍 妻 八重 明二四、四生、大阪、竹村松之助...

植村茂夫 正五位勳二等、海軍少將、水路部長、和歌山縣士族...

妻 龍 昭三、一 妹 明三五、一一生、熊本、山崎宗直...

植村静 從五位勳四等、陸軍三等參謀官、大阪府在籍...

植村俊平 正五位勳四等、大和護謄栽培社社長、百十銀行...

利子 山口孝吉三女 君は山口縣士族植村島之丞の二男にして文久三年十月...

植村泰二 オリエタル寫眞工業、オリエタル母工業各取締役...

植村澄三郎 日本電機製造、三共、電氣化學工業、南米土地、理化學工業各取締役...

ウ之部 植(村) 殖(栗、田)

(※印は姻族関係)

植村恒三郎 從四位勳三等、林學博士、九州帝國大學教授、農學部附屬演習林長...

植村傳助 東京府多額納稅者、植村商店、羅紗輸入卸商、東京府在籍...

植村直藏 滋賀縣在籍 妻 よね 明三〇、四生、滋賀、竹内政次郎...

植村東彦 正五位勳三等、陸軍少將、陸軍省兵器局長、東京府士族...

殖栗文造 京橋銀座郵便局長 妻 文 明三四、六生、新潟、水澤爲吉四男...

殖田俊吉 正五位勳四等、拓務省殖産局長 妻 菊江 明三三、六生、東京、大築志夫姉...

庶子 政夫 明四三、一一生、生母、望月すゝ
君は兵庫縣人牛尾政五郎の二男にして元治元年十一月を以て生れ明治十五年兄政次郎方より分れて一家を創立す...

牛尾健治

君は兵庫縣人牛尾梅吉の長男にして明治三十一年十一月を以て生れ東京商科大学を卒業し現時前記各會社の重役にして推され...

牛尾竹之助

君は兵庫縣人牛尾延郎の二男にして明治二十年八月を以て生れ同三十九年神戸商業學校を卒業し現時臺灣銀行整理部第一課長兼第二課長にして兼され...

牛尾彦十郎 中播銀行監査役
君は兵庫縣人牛尾彦次郎の長男にして明治十四年一月を以て生れ同四十一年家督を相続す現時大阪堂島米穀取引所正米部精算部取引員たり...

牛尾量一 福岡製鉄所主、鉄砲火藥商
君は福岡縣人牛尾量藏の長男にして明治四十年七月を以て生れ...

牛島實常 從五位勳三等功四級、陸軍工兵大佐
君は熊本縣人牛島義雄の五男にして明治九年一月を以て生れ大正十二年兄續方より分れて一家を創立す...

牛島貞雄 從四位勳二等功五級、陸軍少將
君は佐賀縣人大塚源次郎の長男にして明治十八年四月を以て生れ大正二年母方の實家牛島家に入り家督を相続す...

牛島省三

君は鹿兒島縣人牛島鐵之助の弟にして明治十六年三月を以て生れ同四十四年家督を相続す同四十三年東京帝國大學法政科を卒業し...

牛島航

君は福岡縣人牛島清民の二男にして明治十八年七月を以て生れ同三十三年家督を相続す同四十二年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し...

牛塚虎太郎

君は富山縣人牛塚太平の長男にして明治十二年四月を以て生れ大正十一年家督を相続す明治三十八年東京帝國大學法政科を卒業し...

牛造昌彦

君は大阪府人牛造末太郎の長男にして大正三年一月を以て生れ同十三年家督を相続す...

牛丸喜一

君は山梨縣人牛山儀助の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ昭和二年家督を相続す...

牛山三郎

君は山梨縣人牛山儀助の長男にして明治二十一年十二月を以て生れ昭和二年家督を相続す...

日本橋、長谷川町一六電通花一九一九

内田金太郎

從五位勳五等、專賣局副參事、名古屋地方專賣局濱松出張所長、德島縣在籍

妻

カシ 明四、三三、德島、山本政五郎二

君は德島縣人内田伊八郎の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十六年家督を相続す同二十六年德島縣廳となり更に同縣收稅廳專賣所長に任じ同四十四年法政大學專門部法律科を卒業し大正七年專賣局參事補に任じ同十三年現職に補せられ今日に至る家族は尙妹マサ(明七、一三)あり(濱松、專賣局濱松出張所内)

内田玄英

内田商事取締役、金融業、福岡縣在籍

妻

文久二、八生、福岡、井上榮太郎

君は福岡縣人山崎春英の二男にして明治十七年五月を以て生れ先代内田の養子となり大正十五年家督を相続す命業を營み内田商事取締役たり家族は尙長女セキ子(六一、一四、七生)二男典次(昭三、一三)妹キミ代(六一、一三、一三)ありA三二一B七三(福岡、精屋、字美町)

内田虎三郎

正四位勳二等功五級、海軍中將、熊本縣在籍

妻

明一七、一三、福岡、土、山本

君は東京府人矢部文四郎の長女にして嘉永四年九月を以て生れ先々代其右衛門に嫁し大正九年繼子其右衛門の後を承け家督を相続す乾物商を營み傍ら内田保全會社取締役たり(東京、四谷、新宿二ノ九電四谷一三三五)

内田玄英

醫學博士、九ビル眼科醫院長、乃木坂内田眼科醫院長、醫師

妻

嘉永元、一〇生、長野、土、中林

君は長野縣士族内田文三郎の三男にして須田卓爾の弟なり明治十四年九月を以て生れ同四十三年家督を相続す大正元年九州帝國大學醫學科を卒業し後醫學博士の學位を受く醫を開業し乃木坂内田眼科醫院長にして九ビル眼科醫院長を兼ねる家族は尙長女妙子(昭二、一三)ありA三八〇(東京、赤坂、青山南町一ノ五電青山四三七五)

内田茂

大和貿易社長、東京府在籍

妻

明二七、七生、重久篤健二女

君は東京府士族内田耕作の三男にして明治十三年十一月を以て生れ大正二年兄業を承けより分れて一家を創立す現時大和貿易社長たり家族は尙三男寅男(大六一二生)四男正三郎(同八、二生)二女錫子(同九、七生)五男稔(同二、八生)三女政(同二、一五、一三)あり(東京、神田、駿河臺東紅梅町一三)

内田七之助

滋谷運送倉庫專務取締役、東京府在籍

妻

明四〇、一三

君は東京府人内田三郎の二男にして明治十八年七月を以て生れ大正元年兄業を承けより分れて一家を創立す現時滋谷運送倉庫專務取締役にして東京市外世田ヶ谷町太子堂三一九

内田信也

正五位勳三等、衆議院議員(茨城縣選出)、内田汽船取締役、東京府在籍

妻

大二、七生、兄窪田四郎長男

君は茨城縣人内田寛の六男にして窪田四郎の弟なり明治十三年十二月を以て生れ同四十四年兄業を承けより分れて一家を創立す同三十八年東京高等商業學校を卒業し海運業を營み内田汽船内田商事帝國商業各會社々長明治海運東京毛布團内田造船朝日海上火災保險會社取締役たり現時衆議院議員に當選すること三回現に其任にあり立憲政友會所屬にして現時内田汽船會社取締役たり(東京、麻布、三河町二八電赤坂三〇八)

内田重成

從三位勳一等、貴族院議員、山口縣在籍

妻

明五、八生、養父護長女

君は山口縣士族平井健助の弟にして明治元年一月を以て生れ先代護の養子となり大正八年家督を相続す明治三十二年文官高等試験に合格し司法官試補となり検事及海軍法務官海軍省法務局長等に歴任し更に貴族院議員に勅選せられ今日に至る家族は尙長女正子(昭六、一三)孫博氣(同四、四生)長男護文(昭六、一三)五男、同二男あり(二男護文、昭三、一三)あり(山口、豊浦、清木村)

内田正二

從五位勳四等、檢事、栃木縣裁判所檢事、大分縣在籍

妻

明三三、五生、大分、村上庸

君は大分縣人内田重太郎の長男にして明治十年二月を以て生れ大正十一年家督を相続す明治三十五年明治法律學校を卒業し判事任用試験に合格同三十九年判事に任じ鹿島地方同區加治木區大島區知野區川内區各裁判所判事を經て檢事に轉じ爾來大分區日野區久留米區福岡區同地方中深田區橋本區岩見澤區丸龜區小田原區各裁判所檢事滋谷區裁判所檢事家族は尙養子濱所檢事等に歴補し昭和三年現職に轉じ(同二、一五、七生、亡養子一夫養子ありA一二〇(栃木、下都賀、栃木町區裁判所内)

内田祥三

正五位勳四等、工學博士、東京帝國大學教授、工學部勤務、地震研究所員、東京帝國大學醫學部勤務、衛生研究所員、東京府在籍

妻

明三三、五生、大分、村上庸

君は東京府人内田重太郎の長男にして明治十年二月を以て生れ大正十一年家督を相続す明治三十五年明治法律學校を卒業し判事任用試験に合格同三十九年判事に任じ鹿島地方同區加治木區大島區知野區川内區各裁判所判事を經て檢事に轉じ爾來大分區日野區久留米區福岡區同地方中深田區橋本區岩見澤區丸龜區小田原區各裁判所檢事滋谷區裁判所檢事家族は尙養子濱所檢事等に歴補し昭和三年現職に轉じ(同二、一五、七生、亡養子一夫養子ありA一二〇(栃木、下都賀、栃木町區裁判所内)

君は熊本縣士族内田繁太郎の三男にして明治五年七月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す同二十八年海軍兵學校を卒業し同三十年海軍少尉に任じ累進して海軍中將に任ぜらる其間並置金剛各艦回航委員として隊米に出張し爾來海軍兵學校教官佐世保鎮守府參謀海軍省軍務局々員海軍大學校教官矢野凌間安藝攝津各艦長第三艦隊及舞鶴鎮守府參謀長水師部長等に歴補し大正十四年豫備隊に入る日露戰役の功により功五級金勳章を賜ふ家族は尙三男成和(大五、八生)あり(東京市外澁谷町大和田六三)

内田孝藏

醫學博士、九ビル眼科醫院長、乃木坂内田眼科醫院長、醫師

妻

嘉永元、一〇生、長野、土、中林

君は長野縣士族内田文三郎の三男にして須田卓爾の弟なり明治十四年九月を以て生れ同四十三年家督を相続す大正元年九州帝國大學醫學科を卒業し後醫學博士の學位を受く醫を開業し乃木坂内田眼科醫院長にして九ビル眼科醫院長を兼ねる家族は尙長女妙子(昭二、一三)ありA三八〇(東京、赤坂、青山南町一ノ五電青山四三七五)

内田耕三

大和貿易社長、東京府在籍

妻

明二七、七生、重久篤健二女

君は東京府士族内田耕作の三男にして明治十三年十一月を以て生れ大正二年兄業を承けより分れて一家を創立す現時大和貿易社長たり家族は尙三男寅男(大六一二生)四男正三郎(同八、二生)二女錫子(同九、七生)五男稔(同二、八生)三女政(同二、一五、一三)あり(東京、神田、駿河臺東紅梅町一三)

内田茂

大分縣在籍

妻

明二七、八生、長崎、松岡精一妹

君は大分縣士族内田登也の三男にして明治十六年九月を以て生れ大正元年兄業を承け家督を相続す夙に早稲田大學を卒業し大阪商船會社に入り紐育廈門各在勤員を經て再び紐育在勤員となり同十三年タコマ支店長に擧げられ昭和三年支店長に轉じ現在に及ぶ(沙都、大阪商船會社支店内)

内田七之助

滋谷運送倉庫專務取締役、東京府在籍

妻

明四〇、一三

君は東京府人内田三郎の二男にして明治十八年七月を以て生れ大正元年兄業を承けより分れて一家を創立す現時滋谷運送倉庫專務取締役にして東京市外世田ヶ谷町太子堂三一九

内田信也

正五位勳三等、衆議院議員(茨城縣選出)、内田汽船取締役、東京府在籍

妻

大二、七生、兄窪田四郎長男

君は茨城縣人内田寛の六男にして窪田四郎の弟なり明治十三年十二月を以て生れ同四十四年兄業を承けより分れて一家を創立す同三十八年東京高等商業學校を卒業し海運業を營み内田汽船内田商事帝國商業各會社々長明治海運東京毛布團内田造船朝日海上火災保險會社取締役たり現時衆議院議員に當選すること三回現に其任にあり立憲政友會所屬にして現時内田汽船會社取締役たり(東京、麻布、三河町二八電赤坂三〇八)

内田信也

正五位勳三等、衆議院議員(茨城縣選出)、内田汽船取締役、東京府在籍

妻

大二、七生、兄窪田四郎長男

君は茨城縣人内田寛の六男にして窪田四郎の弟なり明治十三年十二月を以て生れ同四十四年兄業を承けより分れて一家を創立す同三十八年東京高等商業學校を卒業し海運業を營み内田汽船内田商事帝國商業各會社々長明治海運東京毛布團内田造船朝日海上火災保險會社取締役たり現時衆議院議員に當選すること三回現に其任にあり立憲政友會所屬にして現時内田汽船會社取締役たり(東京、麻布、三河町二八電赤坂三〇八)

内田信也

正五位勳三等、衆議院議員(茨城縣選出)、内田汽船取締役、東京府在籍

妻

大二、七生、兄窪田四郎長男

君は茨城縣人内田寛の六男にして窪田四郎の弟なり明治十三年十二月を以て生れ同四十四年兄業を承けより分れて一家を創立す同三十八年東京高等商業學校を卒業し海運業を營み内田汽船内田商事帝國商業各會社々長明治海運東京毛布團内田造船朝日海上火災保險會社取締役たり現時衆議院議員に當選すること三回現に其任にあり立憲政友會所屬にして現時内田汽船會社取締役たり(東京、麻布、三河町二八電赤坂三〇八)

内田信也

正五位勳三等、衆議院議員(茨城縣選出)、内田汽船取締役、東京府在籍

妻

大二、七生、兄窪田四郎長男

君は茨城縣人内田寛の六男にして窪田四郎の弟なり明治十三年十二月を以て生れ同四十四年兄業を承けより分れて一家を創立す同三十八年東京高等商業學校を卒業し海運業を營み内田汽船内田商事帝國商業各會社々長明治海運東京毛布團内田造船朝日海上火災保險會社取締役たり現時衆議院議員に當選すること三回現に其任にあり立憲政友會所屬にして現時内田汽船會社取締役たり(東京、麻布、三河町二八電赤坂三〇八)

内田信也

正五位勳三等、衆議院議員(茨城縣選出)、内田汽船取締役、東京府在籍

妻

大二、七生、兄窪田四郎長男

君は茨城縣人内田寛の六男にして窪田四郎の弟なり明治十三年十二月を以て生れ同四十四年兄業を承けより分れて一家を創立す同三十八年東京高等商業學校を卒業し海運業を營み内田汽船内田商事帝國商業各會社々長明治海運東京毛布團内田造船朝日海上火災保險會社取締役たり現時衆議院議員に當選すること三回現に其任にあり立憲政友會所屬にして現時内田汽船會社取締役たり(東京、麻布、三河町二八電赤坂三〇八)

内丸 廉 從五位勳六等、檢事兼少年審判官
父 休一郎 東京區裁判所檢事、鹿兒島縣士族
母 ミヨ 文久元、七生、現戸主
妻 キキ 須賀利右衛門五女
男 忠彦 明二八、一〇生、鹿兒島、谷山初
女 七郎二女

内丸 勝二 正四位、男爵、内海化學研究所長
妻 トミ 明二八、九生、神奈川、高島長政
妹、佛英和高女出身
男 勝正 大二、三生

内丸 勝一 正四位、男爵、内海化學研究所長
妻 トミ 明二八、九生、神奈川、高島長政
妹、佛英和高女出身
男 勝正 大二、三生

内海 軍治 住友銀行盛備後町支店長
妻 園枝 明二七、一〇生、東京、海老名彈
男 庸治 大九、一〇生
女 静枝 大九、一〇生

内海 静太郎 帝國人造絹絲專務取締役、日本
妻 ヨウ 安政五、四生、大阪、櫻垣助二女
男 暢生 大九、七生、長崎、吉田龜太郎
女 鈴子 明四三、六生、廣島高女出身、同
女 朋子 志社女學校專門部在學

内海 忠司 正五位勳六等、臺灣總督府事務
妻 サキ子 明二一、一〇生、兵庫、木村成太
男 昭郎 昭二、一〇生
女 武子 昭三、五生

内海 長太郎 武蔵電線取締役
妻 つる 文久元、六生、東京、池田佐太郎
男 車一郎 明四五、七生

内海 鶴松 内海組、土木建築請負業並材木商
妻 千代 明二九、三生、長男龜之助妻、奈
男 龜之助 明二九、三生、長男龜之助妻、奈
女 保子 明二七、四生、三女キミ夫、熊本
女 十雄 明四〇、七生、養子保三妻
女 松五郎 明四四、七生、生母、大阪、今井

内海 鶴松 内海組、土木建築請負業並材木商
妻 千代 明二九、三生、長男龜之助妻、奈
男 龜之助 明二九、三生、長男龜之助妻、奈
女 保子 明二七、四生、三女キミ夫、熊本
女 十雄 明四〇、七生、養子保三妻
女 松五郎 明四四、七生、生母、大阪、今井

内海 弘藏 明治大學農科教授
妻 とめ 明一〇、二生、東京、中村さく姉
男 健弘 明三三、五生
男 健三 明三四、八生
男 健四 明三六、三生
女 小江 明三七、一〇生
女 妙明 明三九、三生
男 篤明 明四一、一〇生

内海 正性 資産家
君は東京府人内海謙太の四男にして明治三十五年十月
を以て生れ大正三年兄謙孝の跡を承け家督を相続す資
産家たり姉秀子(明二三、三生)は東京府士族二徳商會
監査役櫻井源一郎に嫁し弟行貴(同三九、一〇生)は分家
せりA一九九八(東京、本郷、千駄木町七〇)

内村 保 藤本ビルプロカー銀行取締役
妻 靖 昭三、七生
男 正 昭三、七生
女 正 昭三、七生

内山 岩太郎 從五位勳五等、總領事、サンパワ
父 岩吉 安政五、一〇生、現戸主
母 ちか 文久二、一〇生、群馬、岩佐五郎
妻 登志子 明三六、五生、宮城、十文字信雄
男 小太郎 昭三、二生

内村 正治郎 盛岡商工會議所理事
妻 田鶴子 明三九、一〇生、岩手、松本與五
男 家苗 明四二、三生
女 岩手 明四二、三生

内村 直俊 正五位勳四等、日本黒鉛工業、東
妻 ヤサ 明二四、八生、三女治夫、男爵瓜
男 治 明三四、二生、養子義男妻
女 義子 明三四、二生、養子義男妻

梅咲直愛 八木銀行監事取締役兼支配人
 妻 カツ 明二四、三三、奈良、岡島嘉平次
 男 直昌 六一、一一一
 君は奈良縣人梅咲嘉吉郎の二男にして明治二十二年八月を以て生れ同四年伯父嘉八の後を承けて家督を相続す凡に八木銀行に入り常務取締役を経て現に同行取締役兼支配人たり(奈良、磯城、安倍村)

梅崎繁馬 鹿島銀行頭取
 妻 ヲツ 文久二、八生、佐賀、土、梅崎手誠四女
 男 彌惣 明二二、八生、千葉園藝專門學校出身、佐賀縣農事試験場技師
 女 ミナ 明三一、一〇生、長男彌惣妻、佐賀、綾部幸輝五女、鹿島島高女出ガ子(同一、一一生、同二女)同久次、同四、九生、同二男)同久三(昭二、一一生、同三男)あり長女ツラ(明一五、八生)は佐賀縣士族矢川謙堂三男四郎に三女キ(同二五、一一生)は同縣人梅崎長次郎長男三三に四女

梅澤力助 正四位勳三等功五級、陸軍少將、山形縣士族
 妻 てい 明二四、三三、山形、小池新太郎長女
 男 治雄 明四四、一〇生
 君は山形縣士族梅澤綱條の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正七年家督を相続す明治三十三年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍砲兵少尉に任じ昭和二年陸軍少將に累進す其間野砲兵第二十聯隊長陸軍科學研究所第二部長等に歴補し昭和三年現職陸軍砲兵學校砲兵科長に補せらるる家族は尙二男利暢(大五、七生)あり長女淑(明四一、一一生)は高知縣人岡田重久長男重一に嫁し弟力(同一、一一生)は同妻ヲム(同二七、八生、茨城、内務義武妹)及其子女を伴ひ分家し妹ヲム(同二四、一一生)は福島縣人安田ヤタの養子となれり(東京市外中野町三〇七)

梅崎延太郎 從四位勳三等、陸軍少將、軍馬補給部本部長、東京府士族
 母 千賀 安政二、一一生、高知、荒尾恭順二女
 妻 くに 明二三、一一生、東京、肥田金一
 男 國夫 大元、一一生
 君は東京府士族梅崎信景の長男にして明治十三年七月を以て生れ大正五年家督を相続す凡に陸軍幼年學校及陸軍士官學校を卒業し明治三十四年陸軍砲兵少尉に任じ大正十五年陸軍少將に累進す同三年獨逸及瑞典に留學し後瑞典丁抹公使館附武官を経て騎兵第十八聯隊長陸軍大學校兵學教官陸軍騎兵學校校長騎兵第一旅團長等に補せられ現時前記の職にあり家族は尙長女貞子(大〇、一〇生)二女宮子(同一四、五生)あり弟長雄(明一九、一一生)同妻キ(同二六、五生、東京、荻野常吉妹)は共に弟長雄(同二九、六生)同妻正(同三三、三三、新潟、西卷正教妹)は共に各其一子を伴ひ分家し弟尙(同二七、二生)も亦分家せり(東京市外落合町上落合五三二)

梅澤源吉 大泊商工會議所議員、南樺鐵道取締役、栃木縣在籍
 妻 イク 明二八、六生、栃木、横田謙次妹
 男 太郎 大五、八生
 君は栃木縣人梅澤美徳の二男にして明治十八年三月を以て生れ昭和五年兄長太郎方より分れて一家を創立す明治四十年盛岡高等農林學校を卒業し現時前記の職に在り推されて大泊商工會議所議員たり家族は尙長女貞子(大七、一〇生)二男泰雄(同九、一〇生)二女幸子(同一、一一生)三女君子(同一四、二生)三男宏之(昭三、四生)四女貞子(同五、二生)あり(樺太、大泊、大泊町)

梅澤純一 正五位、醫學博士、鐵道局技師、門司鐵道病院院長兼内科部長
 妻 たか 明二三、一一生、山梨、佐藤藤策長女
 男 純夫 明四二、一一生
 君は埼玉縣人梅澤良三の長男にして明治十八年一月を以て生れ昭和五年家督を相続す明治四十三年東京帝國大學醫學科大學を卒業し同大學衛生學教室に於て細菌研究生を命ぜらるる次で大學副手となり爾後福井縣鐵道部立小濱病院院長となり後鐵道局技師に任ぜられ札幌鐵道病院院長兼内科部長を経て現時前記の職にあり大正十三年醫學博士の學位を受く家族は尙二男濱夫(大三、一〇生)三男邦臣(同五、七生)四男勉(同七、一一生)五男實(同一、一一生)六男博臣(同三、九生)の外從妹(明二九、二生)あり父良三(安政六、一一生)母なか(慶應二、一一生、埼玉、秋庭善之助妹)は共に叔父藤造(同一、一一生)は各分家し弟突巳(同二六、一一生)同妻英(同二八、八生、埼玉、秋庭憲治二女)は其二女を伴ひ弟崎三(同三三、一一生)同妻ふみ(同三五、一〇生、茨城、西村辨藏四女)は其一男を伴ひ叔父辰三(同一三、一〇生)同妻キ(同一五、三三、富山、金岡勝吉二女)も亦其子女を伴ひ各分家し妹直江(同一、一一生)は東京府人松本鈴四郎に叔母き(同六、六生)は

梅澤力助 正四位勳三等功五級、陸軍少將、山形縣士族
 妻 てい 明二四、三三、山形、小池新太郎長女
 男 治雄 明四四、一〇生
 君は山形縣士族梅澤綱條の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正七年家督を相続す明治三十三年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍砲兵少尉に任じ昭和二年陸軍少將に累進す其間野砲兵第二十聯隊長陸軍科學研究所第二部長等に歴補し昭和三年現職陸軍砲兵學校砲兵科長に補せらるる家族は尙二男利暢(大五、七生)あり長女淑(明四一、一一生)は高知縣人岡田重久長男重一に嫁し弟力(同一、一一生)は同妻ヲム(同二七、八生、茨城、内務義武妹)及其子女を伴ひ分家し妹ヲム(同二四、一一生)は福島縣人安田ヤタの養子となれり(東京市外中野町三〇七)

梅田三太郎 會社員、大阪府在籍
 妻 あい 明四〇、一一生、京都、金澤豐二
 男 省三 明三一、五生
 男 喜三 明四〇、五生、二男省三妻、島田晃妹
 男 實三 明三八、一一生
 男 六郎 明四五、一〇生
 男 露子 明四四、一一生
 女 文子 大四、四生
 君は東京府人梅田源左衛門の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治二十九年家督を相続す金澤豐を替むるに創まる三藏來阪後湯屋業を替み刻苦奮闘業況大いに揚る君は其の庶子にして明治三十四年六月を以て生れ大正二年家督を相続す明星商業學校を経て同五年明治大學を卒業し現に京阪電氣鐵道會社に勤務す幼時より野球の技に長じ明治中學野球部選手として海外に遠征する事二回に及びり家族は尙長女泰子(昭四、四生)あり姉水菜(明二七、一一生)は分家せり(大阪、北、曾根崎新地二〇二)

梅田實造 金融業、東京府在籍
 妻 でん 明八、二生、東京、新泉常右衛門長女
 男 省三 明三一、五生
 男 喜三 明四〇、五生、二男省三妻、島田晃妹
 男 實三 明三八、一一生
 男 六郎 明四五、一〇生
 男 露子 明四四、一一生
 女 文子 大四、四生
 君は東京府人梅田源左衛門の長男にして慶應三年六月を以て生れ明治二十九年家督を相続す金澤豐を替むるに創まる三藏來阪後湯屋業を替み刻苦奮闘業況大いに揚る君は其の庶子にして明治三十四年六月を以て生れ大正二年家督を相続す明星商業學校を経て同五年明治大學を卒業し現に京阪電氣鐵道會社に勤務す幼時より野球の技に長じ明治中學野球部選手として海外に遠征する事二回に及びり家族は尙長女泰子(昭四、四生)あり姉水菜(明二七、一一生)は分家せり(大阪、北、曾根崎新地二〇二)

梅園篤彦 從四位、子爵、貴族院議員、京都醫學專門學校講師、舊公卿家
 妻 まち 明二二、一〇生、滋賀、吉田羊治
 男 龍子 明四二、三三
 女 玉枝 明四四、九生
 君は青森縣人梅園吉之助の弟にして明治六年四月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す現時東京製糸會社長の外前記會社の重役に於て梅園商會社長及日米生絲會社取締役たりしことあり家族は尙四男晃(大九、八生)あり二男義雄(明四一、一一生)は外祖母小具ていの養子となれり(東京、四谷、愛住町七六電四谷三四二〇)

梅田建次郎 白木屋應取役兼營業部長、滋賀縣在籍
 父 石松 文久三、一〇生、現戸主
 母 ナカ 明四、二生、大阪、井田久治郎長女
 妻 ナカ 明二〇、八生、京都、林興吉長女
 女 初枝 明四二、二生
 君は滋賀縣人梅田石松の長男にして明治十九年十二月を以て生れ現時白木屋應取役兼營業部長たり叔父新次郎(明五、八生)は大阪府人宮本テルの入夫となれり(東京市外日暮里町七〇電下谷五九七)

梅田多平 岐阜商工會議所常議員、大い海陸物産總社長、岐阜縣在籍
 妻 かよ 明一〇、七生、岐阜、梅田太作妹
 男 太郎 明三四、五生
 男 三郎 明三六、九生、長男太郎妻、愛知祖父江仁三郎四女
 君は岐阜縣人梅田久七の長男にして明治八年十月を以て生れ後先代多平の養子となり大正十三年家督を相続す

梅田猪之助 金融業、兵庫縣在籍
 參照 男爵野行和、吉田羊治郎次子山本公富次
 猪田岩藏の項

梅田建次郎 白木屋應取役兼營業部長、滋賀縣在籍
 父 石松 文久三、一〇生、現戸主
 母 ナカ 明四、二生、大阪、井田久治郎長女
 妻 ナカ 明二〇、八生、京都、林興吉長女
 女 初枝 明四二、二生
 君は滋賀縣人梅田石松の長男にして明治十九年十二月を以て生れ現時白木屋應取役兼營業部長たり叔父新次郎(明五、八生)は大阪府人宮本テルの入夫となれり(東京市外日暮里町七〇電下谷五九七)

梅田多平 岐阜商工會議所常議員、大い海陸物産總社長、岐阜縣在籍
 妻 かよ 明一〇、七生、岐阜、梅田太作妹
 男 太郎 明三四、五生
 男 三郎 明三六、九生、長男太郎妻、愛知祖父江仁三郎四女
 君は岐阜縣人梅田久七の長男にして明治八年十月を以て生れ後先代多平の養子となり大正十三年家督を相続す

ウ之部 梅(田、溪、津)

(※印は姻族關係)

ウ七四

梅田千代松 梅田製鋼所専務取締役 三重縣在籍

梅田雄三 山陽中央電燈取締役兼電氣課長 岡山電燈取締役 大阪府在籍

梅田通虎 舊公卿、子爵 富家は権大納言久我敦通の男左中將通世の後なり家號を梅溪と稱し八世を経て通善に至り明治十七年子爵を授けらる長男通治繼ぎ平野神社司司山八幡宮大宮司等に歴任す先代通善は其弟にして應徳義塾を卒業し三井銀行に勤務すること多年後戸籍簿物株式會社監査役に就任す其後を享く君實は三重縣人松平家見の二男にして明治三十五年三月を以て生れ通善の養子となり

梅津美治郎 正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第一旅團長、大分縣在籍

梅津福次郎 北海多額納税者、大沼愛媛運取 兼役、酒類商、北海道在籍

梅津次郎 正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第一旅團長、大分縣在籍

梅野清太 從七位、陸軍歩兵中尉、頂双溪炭 礦、花港港木村、花港港電氣各 専務取締役、朝田組各専務取締役 兼役、銀行、賀田組各専務取締役 兼役、銀行、賀田組各専務取締役

梅野安太郎 大阪府多額納税者、車輛製造梅野 鐵工場、鐵工業、大阪府在籍

梅原逸太郎 梅原商店社長、相模銀行取締役 兼役、地主、神奈川縣在籍

梅林福松 廣島縣多額納税者、かめ福運取 兼役、割烹業、廣島縣在籍

梅津藤吉 札幌商工會議所議員、明治組運取 兼役、北海道在籍

梅津東四郎 岩手縣農工銀行、岩手輕便鐵道、 盛岡信託各取締役、花巻温泉、 電氣鐵道、盛岡電燈各専務取締役 兼役、岩手縣在籍

梅津小次郎 從五位、醫學博士、鐵道醫、東京 鐵道病院皮膚泌尿科部長、日本大 學教授、醫師、山形縣在籍

梅津秀義 明二、六生、現戶主

梅津美代子 明二、三、四生、東京、小谷野末吉 女

梅津武 大五、四生

梅津静子 大二、九生

梅津健吉 花巻温泉運取取締役 兼役、岩手縣在籍

梅津禾七 東京府在籍

梅津健吉 花巻温泉運取取締役 兼役、岩手縣在籍

梅津藤吉 札幌商工會議所議員、明治組運取 兼役、北海道在籍

梅津東四郎 岩手縣農工銀行、岩手輕便鐵道、 盛岡信託各取締役、花巻温泉、 電氣鐵道、盛岡電燈各専務取締役 兼役、岩手縣在籍

梅津小次郎 從五位、醫學博士、鐵道醫、東京 鐵道病院皮膚泌尿科部長、日本大 學教授、醫師、山形縣在籍

梅津秀義 明二、六生、現戶主

梅津美代子 明二、三、四生、東京、小谷野末吉 女

ウ之部 梅(津、戸、野、鉢、林、原)

(※印は姻族關係)

ウ七五

梅津美治郎 正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第一旅團長、大分縣在籍

梅津福次郎 北海多額納税者、大沼愛媛運取 兼役、酒類商、北海道在籍

梅津次郎 正五位勳三等功五級、陸軍少將、歩兵第一旅團長、大分縣在籍

梅野清太 從七位、陸軍歩兵中尉、頂双溪炭 礦、花港港木村、花港港電氣各 専務取締役、朝田組各専務取締役 兼役、銀行、賀田組各専務取締役

梅野安太郎 大阪府多額納税者、車輛製造梅野 鐵工場、鐵工業、大阪府在籍

梅原逸太郎 梅原商店社長、相模銀行取締役 兼役、地主、神奈川縣在籍

梅林福松 廣島縣多額納税者、かめ福運取 兼役、割烹業、廣島縣在籍

梅津藤吉 札幌商工會議所議員、明治組運取 兼役、北海道在籍

梅津東四郎 岩手縣農工銀行、岩手輕便鐵道、 盛岡信託各取締役、花巻温泉、 電氣鐵道、盛岡電燈各専務取締役 兼役、岩手縣在籍

梅津小次郎 從五位、醫學博士、鐵道醫、東京 鐵道病院皮膚泌尿科部長、日本大 學教授、醫師、山形縣在籍

梅津秀義 明二、六生、現戶主

梅津美代子 明二、三、四生、東京、小谷野末吉 女

梅津武 大五、四生

ウ之部 梅(原、村)

老塚徳三郎長男進一郎に姉フエ(同九、九生)は陸軍少将矢島峰太郎に嫁せり(東京市外港谷町青葉一九電山一六九四)

梅原錦三郎 東京府在籍 母 文久三、一〇生、東京、鹽野友次 妻 眞子 次郎長女 明二六、一〇生、東京、山田甲子

梅原長兵衛 京都府多額納税者、宇治屋、染吳 妻 ミチ 明二四、五生、京都、士、小林深

梅原藤次郎 金庫製造業 大阪府在籍 妻 エツ 明二二、二生、大阪、水野エイ 次郎 明三九、二生

梅村四郎 豊岡自動車、奈良モーターズ、和歌山モーターズ各社取締役、自動車販賣業、兵庫縣在籍 妻 ちりみ 明二九、九生、東京、小澤宜義 男 甲子郎 大一一、二生

梅村甚兵衛 八幡銀行専務取締役、近江信託 妻 信 明一八、一〇生、二女 孫 夫 明四二、七生、二女 孫 禮 大三、四生、二女 孫 長女

梅村清一 地主 妻 ひさ 明一九、一〇生、愛知、小中榮一 男 博 明四五、三三 女 田鶴子 大四、二生

梅村宗七 東京府在籍 妻 カネ 安政三、八生、養父宗七長女 養子 龍 明一八、七生、長女ヒサ夫、滋賀 赤松龍二男

(※印は姻族關係)

梅原徳三郎 九十商會、日華製油各社取締役 妻 徳兵衛 安政六、七生、現戸主 父 徳兵衛 明二四、四生、大阪、米津しか 母 初枝 大五、八生

梅原延廣 從四位勳六等、警務局長、大館 妻 久三 明二六、七生、静岡、鈴木八郎 父 久三 明二六、七生、静岡、鈴木八郎 母 久三 明二六、七生、静岡、鈴木八郎

梅原誠 大阪府在籍 妻 ヲ 明一五、七生、愛媛、士、片山テ 母 ヲ 明一五、七生、愛媛、士、片山テ

梅村惣左衛門 梅原徳三郎の長男にして明治十六年一月 妻 惣之助 明一七、八生、宮城、渡邊利兵衛 父 惣之助 明一七、八生、宮城、渡邊利兵衛 母 明一七、八生、宮城、渡邊利兵衛

梅村萬藏 愛知縣多額納税者、地主 妻 明二〇、一〇生、愛知、山本儀一 父 明二〇、一〇生、愛知、山本儀一 母 明二〇、一〇生、愛知、山本儀一

梅村吉次郎 愛知縣多額納税者、家主 妻 さとよ 大九、九生、藤枝養子彦八郎長女 父 大九、九生、藤枝養子彦八郎長女 母 さとよ 大九、九生、藤枝養子彦八郎長女

梅村衡平 大阪千日前土地建物、有馬瑞寶寺 妻 つね 安政元、七生、現戸主 父 安政元、七生、現戸主 母 安政元、七生、現戸主

梅村鑛次郎 名古屋味噌醸造専務取締役、堀田 妻 ます 明二八、一〇生、養子紀子夫、愛 父 明二八、一〇生、養子紀子夫、愛 母 明二八、一〇生、養子紀子夫、愛

梅本徳次郎 板橋子卸商 妻 きぬ 明三三、五生、大阪、梅本利右衛 父 明三三、五生、大阪、梅本利右衛 母 明三三、五生、大阪、梅本利右衛

梅本利右衛門 金物商 妻 益 明二八、八生、大阪、菊田藤七 父 明二八、八生、大阪、菊田藤七 母 明二八、八生、大阪、菊田藤七

梅山實明 從五位勳三等、判事、名古屋地方 妻 よし 明二八、一〇生、愛知、小出敬三 父 明二八、一〇生、愛知、小出敬三 母 明二八、一〇生、愛知、小出敬三

ウ之部 梅(村、本、山)

梅村惣左衛門 梅原徳三郎の長男にして明治十六年一月 妻 惣之助 明一七、八生、宮城、渡邊利兵衛 父 惣之助 明一七、八生、宮城、渡邊利兵衛 母 明一七、八生、宮城、渡邊利兵衛

梅村萬藏 愛知縣多額納税者、地主 妻 明二〇、一〇生、愛知、山本儀一 父 明二〇、一〇生、愛知、山本儀一 母 明二〇、一〇生、愛知、山本儀一

梅村吉次郎 愛知縣多額納税者、家主 妻 さとよ 大九、九生、藤枝養子彦八郎長女 父 大九、九生、藤枝養子彦八郎長女 母 さとよ 大九、九生、藤枝養子彦八郎長女

梅村衡平 大阪千日前土地建物、有馬瑞寶寺 妻 つね 安政元、七生、現戸主 父 安政元、七生、現戸主 母 安政元、七生、現戸主

梅村鑛次郎 名古屋味噌醸造専務取締役、堀田 妻 ます 明二八、一〇生、養子紀子夫、愛 父 明二八、一〇生、養子紀子夫、愛 母 明二八、一〇生、養子紀子夫、愛

梅本徳次郎 板橋子卸商 妻 きぬ 明三三、五生、大阪、梅本利右衛 父 明三三、五生、大阪、梅本利右衛 母 明三三、五生、大阪、梅本利右衛

梅本利右衛門 金物商 妻 益 明二八、八生、大阪、菊田藤七 父 明二八、八生、大阪、菊田藤七 母 明二八、八生、大阪、菊田藤七

梅山實明 從五位勳三等、判事、名古屋地方 妻 よし 明二八、一〇生、愛知、小出敬三 父 明二八、一〇生、愛知、小出敬三 母 明二八、一〇生、愛知、小出敬三

(※印は姻族關係)

君は東京府人瓜生復の庶子にして明治十九年十一月を以て生れ大正九年家督を相続す...

瓜谷 長造

大連商工會議所常議員、大連取引所信託監査役、滿洲特産物輸出貿易商、兵庫縣在籍

妻 敬 明二〇、一〇生、前江伊兵衛長女

瓜谷 良藏

兵庫縣在籍

妻 と う 明二、五生、兵庫、水田熊太郎

瓜本 政吉

白米商、兵庫縣在籍

養母 は る 文久三、三生、兵庫、吉川忠友三

漆 昌巖

品川白煉瓦、京濱運河各監査役

妻 昌 昌 明七、一〇生、庶子雅子夫、東京

漆 起一

湖南興業監査役、三菱製紙中川工場長、東京府士族

妻 か つ 明二、九生、東京、伊藤岩吉長

第七〇八電四谷三六〇〇

漆野 佐一郎

入山探炭、大倉礦業、大濱炭礦各

妻 正 明三、六生、栃木、福田元一郎

漆原 辰雄

香川縣多額納稅者、高松木村整取

妻 サ エ 明四、二生、香川、遠藤嘉三郎二

漆原 辰雄

香川縣多額納稅者、高松木村整取

圓を納む家族は尙長女淑子(大一一、一生)二女迪子(同四、九生)二男昭二(昭二、一〇生)三女禮子(同五、一生)妹文子(明三一、八生)大伯爵トヨ(同七九生)あり姉壽榮(同二二、六生)は香川縣人中村貞七

漆間 眞學

日本通信社長、東京府士族

妻 れ ん 明六、七生、東京、土、水野正連五女

漆山 雅喜

臺灣製糖取締役、熱帯産業、臺灣拓殖製茶各監査役、三井色山

妻 ま き 明一五、四生、東京、土、師岡政

母 す み 弘化二、三生、長野、土、神戸立

當家は舊高遠藩譜代の家臣にして祖父は内藤家の家老職たり君は先代高遠の長男にして明治七年九月を以て生れ同三十三年家督を相続す同二十九年東京帝國大學農科大學林學乙科を卒業し古河鐵業所鴻池銀行の山林事業に従事し同四十年三井家に入り現に三井合名會社山林課長たる外前記各會社の重役たり家族は尙四男小四郎(大元、八生)四女俊子(同六、七生)五男雅教(同八、五生)六男睦夫(同二〇、四生)あり長女雅樂子(明四一、一〇生、東京府立第三高女出身)は東京府人伊知地壯長男工學士壯一に嫁し五女惠美子(大一一、三生)は茨城縣人松田善三郎の養子となれりA三四六一(東京、牛込、戸山町三〇電牛込四七七八)

當家は舊高遠藩譜代の家臣にして祖父は内藤家の家老職たり君は先代高遠の長男にして明治七年九月を以て生れ同三十三年家督を相続す同二十九年東京帝國大學農科大學林學乙科を卒業し古河鐵業所鴻池銀行の山林事業に従事し同四十年三井家に入り現に三井合名會社山林課長たる外前記各會社の重役たり家族は尙四男小四郎(大元、八生)四女俊子(同六、七生)五男雅教(同八、五生)六男睦夫(同二〇、四生)あり長女雅樂子(明四一、一〇生、東京府立第三高女出身)は東京府人伊知地壯長男工學士壯一に嫁し五女惠美子(大一一、三生)は茨城縣人松田善三郎の養子となれりA三四六一(東京、牛込、戸山町三〇電牛込四七七八)

工(工)之部

江上 恒之

臺灣商工銀行專務取締役、臺灣貯蓄銀行監査役、熊本縣士族

江上 彦助

白山産産取締役、福岡醸造酒造監査役、南州商會支店配人

江上 次平

福岡縣會議員、福岡縣多額納稅者、肥後物産、旭セメント各種取締役、福岡縣造試験所監査役、酒造業、福岡縣在籍

江川 治一郎

江川同族取締役、大阪府在籍、現戸主、嘉永三、八生、現戸主、元治元、九生、大阪、吉岡清兵衛、明三七、四生、大阪、西出榮三郎、長女

江川 金平

東京府在籍、君は東京府人大久保源五衛門の庶子にして前川孫三郎の兄なり明治十年八月を以て生れ先代くめの養子となり大正元年家督を相続すブレイガイドを経営す(東京京橋、銀座二ノ二電回京橋二二五九) 参照||前川孫三郎の項

江川 常右衛門

鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島縣在籍、明一〇、一生、鹿兒島、佐藤熊太郎、明三四、九生

江川 時三郎

横濱商工會議所議員、共同運輸、國際運送各取締役、三菱倉庫、横濱支店長、神奈川縣在籍、明一九、四生、長崎、吉村豊松二

江川 英武

正六位、静岡縣多額納稅者、農業、靜岡縣士族、明三二、七生、男爵伊丹重雄叔母、文久二、二生、男爵伊丹重雄叔母、大學助教、明三一、七生、法學士、東京帝國

江川 英文

當家は遠く鎮守府將軍源滿仲の次子頼親より出で世々大和國宇野に住す後九世宇野太郎親信伊豆菰山に移り

江崎規矩

三州平和銀行代表取締役
福岡縣士族
安政三、一、生、福岡、三谷翁林長

江指卯之助

日本國民禁酒同盟理事、帽子並帽
子原料商、大阪府在籍
妻 豊治郎 嘉永元、六、生、大阪、渡邊ひさ

江澤淺吉

東京中央市場運轉取締役、萬淺
商店、青物商、東京府在籍
妻 はま 明一、三、九、生、東京、岡林長兵衛

君は千葉縣人島田勘右衛門の二男にして慶應三年二月
を以て生れ先代くわの養子となり明治三十八年家督を
相續し前名峯吉を改む萬淺商店と稱し青物商を營み前
記會社の重役たり家族は尙二男正平(大元、七、生)あり
(東京、神田、駿河臺鈴木町五電神田七三三)

江澤浦吉

東京中央市場運轉監査役、萬浦
商店、果物問屋業、東京府在籍
妻 孝一郎 明二、八、六、生、長男孝一郎妻、
東京、岡田今之助長女

江澤謙二郎

日本メタリコン工業所代表取締役
父 富吉 明三、七、一、生、和歌山、木澤和姉
妻 清 明三、七、一、生、和歌山、木澤和姉

江澤金五郎

天賞堂代表取締役、日本メタリ
コン工業所取締役、天賞堂代
表社員、東京府在籍
妻 ちか 明一、四、一、〇、生、千葉、吉田甚左
衛門妹

江澤富吉

日本メタリコン工業所取締役、
妻 謙二郎 明二、四、三、生
父 謙二郎 明二、四、三、生

江島信次郎

千代田火災保險會社古屋支店長
京都府在籍
妻 マシ 明一、七、四、生、島根、川上求馬長

江島興義

島根縣多額納稅者、雲陽實業銀行
取締役、農業、島根縣在籍
妻 シヅ 明二、〇、一、二、生、養父千代次郎長

江島泰助

島根縣多額納稅者、雲陽實業銀行
取締役、農業、島根縣在籍
妻 スエ 明一、四、九、生、島根、田部長右衛
門義妹

江島鐵雄

從五位勳五等、工學博士、下關市
參事會、山口縣在籍
妻 ミヨ 安政六、六、生、山口、江上與八二

江角金五郎

從五位勳六等、朝鮮總督府農事試
驗場技師、島根縣在籍
妻 新一郎 昭二、九、生

江角千代次郎

勳四等、農業
島根縣在籍
妻 セイ 明三、四、生、島根、佐藤吉太郎

江尻博孝

福島縣多額納稅者、警東銀行頭
取、農業及金融業、福島縣在籍
妻 ヨシ 治長女

江角金五郎

從五位勳六等、朝鮮總督府農事試
驗場技師、島根縣在籍
妻 新一郎 昭二、九、生

江角千代次郎

勳四等、農業
島根縣在籍
妻 セイ 明三、四、生、島根、佐藤吉太郎

弟常太郎(明三、三生)は島根縣人江角仙七の養子となり其當主たり(島根、藤川、出東村)

江角常太郎

鳥根縣多額納稅者、出雲電氣、靜岡軌道、木次製紙各社取締役、雲陽實業銀行監査役、農業

養母 カメ 安政六、八生、父權藏長女
妻 ツカ 明一五、一、生、島根、矢野爲左衛門六女
男 一 雄 大一二、一、生

江副孫右衛門

日本得子懲務取締役、伊奈製陶監査役、愛知縣在籍

母 レイ 萬延元、五生、佐賀、山本源四郎
妻 たき 明二三、九生、岐阜、三輪かつ二
男 岩夫 大三、三生
女 芳枝 明四五、一、生

江田忠吉

大日本自轉車專務取締役兼第二工場長、栃木縣在籍

妻 琳 明三二、二、生、神奈川、鈴木柚藏
男 啓 一 大一一、一〇、生
君は栃木縣人江田啓藏の長男にして明治二十二年二月を以て生れ同三十七年家督を相続す同四十一年大倉高

等商業學校を卒業し現時大日本自轉車專務取締役兼第二工場長たり家族は尙長女和子(大八、一、生)二女英子(同一〇、六、生)ありA二六二(東京、牛込、余丁町八五)

江藤榮吉郎

製造及萬古ペンシル製造販賣業、大阪府在籍

妻 シメ 嘉永四、一、生、大阪、備江武兵衛長女
母 長女
妻 ぬい 明一四、一二、生、兵庫、石田庄三郎長女
男 順藏 明三三、九生、尙美堂、江藤各務
女 幹枝 明三六、六生、長男順藏妻、京都人見鹿太郎三女
男 喜一 明三七、二、生
女 和 明四〇、九、生

江藤嘉吉

尙美堂、江藤各務專務取締役、兵庫縣在籍

妻 あい 明一九、一、生、兵庫、石田庄三郎二女
男 輝 明四〇、三、生
女 眞 明四一、一〇、生

江藤惣六

從五位勳六等、典獄、名古屋刑務所長、福岡縣在籍

妻 ハツ 明二二、五、生、福岡、菊地元俊四女
男 總 大六、四、生
君は福岡縣人江藤惣六の三男にして明治二十年八月を以て生れ昭和四年兄長太郎より分れて一家を創立す大正四年日本大學法科を卒業し司法官となり判事より典獄に轉じ大分福岡長崎各刑務所長に歴補し昭和六年現職に轉じ家族は尙二男成總(大一一、〇、七、生)三男吉總(同一四、二、生)四男光總(同一〇、一、〇、生)五男守總(同一五、二、生)あり(名古屋、刑務所長官舎)

東京中野銀行監査役、阿波屋吳服商、東京府在籍

江藤喜三郎

養子 龍太郎 明三一、九、生、長女こう夫、東京
女 まさ 明四一、二、生、三輪田高女出身

君は東京府人江藤喜次郎の長男にして明治十年八月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名春吉を改め異名す阿波屋と稱し吳服商を營み傍ら東京中野銀行監査役たり家族は尙孫喜久子(大一二、一、二、生)、養子龍太郎(長女)あり二女みづ(明三九、三、生、三輪田高女出身)は分家し姉喜津(同五、五、生、亡養兄喜太郎妻)は其子女を伴ひ叔母クリ(安政六、四、生)も其子女を伴ひ各分家せりA三〇四五B四八七(東京市外中野町本町通四ノ三二電四六〇三)

江藤治吉

尙美堂、江藤各務專務取締役、大阪府在籍

妻 ハカ 明二〇、五、生、兵庫、首藤政藏長女
男 道雄 明四四、八、生
女 淑子 大五、一、生

江藤茂

熊本縣多額納稅者、農業、熊本縣在籍

妻 ヒテ 安政六、二、生、熊本、士、増永佐七郎四女
男 繁雄 明一四、八、生、現戸主
男 逸雄 明二一、八、生、醫學博士、醫師
女 サダノ 明三三、一〇、生、四男逸雄妻、熊本、大塚治妹

を納む家族は尙孫雄一(大六、一〇、生、四男逸雄長男)同雄三(同九、一、生、同二男)同和(昭四、一、生、同長女)あり女子ヨチユ(明三二、九、生)は熊本縣人江藤護に嫁せり(熊本、菊池、陣内村)

江藤繁雄

熊本縣多額納稅者、九州新聞社監査役、農業、熊本縣在籍

妻 シツノ 明二七、六、生、熊本、光永貞三六女
男 武彦 明四四、一〇、生
君は熊本縣人江藤茂の長男にして明治十四年八月を以て生れ大正十五年家督を相続す先是明治四十二年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し農業と傍ら九州新聞社監査役に就任し縣下の多額納稅者にして直接納稅千五百二十四圓を納む家族は尙二男邦彦(大三八、八、生)三男信彦(同六、七、生)四男義彦(同一〇、一、生)長女美恵(同一三、三、生)二女昭子(昭二、九、生)あり(熊本、菊池、陣内村)

江藤甚三郎

取報堂、第一ビルディング各種代表取締役、東京、護國工業、東京煉瓦各種取締役、九州電力電氣、博多海軍工廠、九州電力電氣、博多海軍工廠、九州電力電氣、博多海軍工廠

妻 テルヨ 明三五、五、生、慶大出身、弘報堂第一ビルディング各種取締役、三井生命保險會社員
男 直輔 明四三、八、生、二男直輔妻、東京、大河原榮之助長女、雙葉高女出身
女 博 明三六、五、生、慶大出身、弘報堂第一ビルディング各種取締役

當家の祖江藤外記は藤原氏に土地大友氏に仕へて功あり後耶馬溪に移り爾來十數世土地の豪族たり君は先代直純の三男にして慶應元年六月を以て生れるに實業に從事し諸種の業に携りしが後上京して廣告取次業を開き弘報堂と稱す大正九年更に之を擴張して株式組織となし同會社社長として經營に任じ其他前記諸會社の重役に擧げられ東京商工會議所議員待遇者にして大日本新聞協合理事日本工業俱樂部日本貿易協會生活改善同

市外大崎町上大崎二六六ノ一電高輪一九五一)

江藤豊一

中日實業專務取締役、鹿児島縣在籍

妻 とよ 明二五、一、生、故藥學博士高松秀松五女
君は鹿児島縣人江藤治兵衛の長男にして明治十五年一月を以て生れ大正十三年家督を相続す現に東京立教大學

江藤得三

三井信託專務取締役副社長、福岡縣在籍

妻 良 明二七、三、生、千葉、鹿野吾一郎長女
男 秀夫 大一一、四、生
女 百合子 明四二、六、生、聖心女子學院出身
女 京子 大九、七、生、聖心女子學院出身

江藤惣三

君は福岡縣人江藤惣三の三男にして明治十一年一月を以て生れ大正六年兄長太郎より分れて一家を創立す先是明治三十七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し後三井銀行に入り内國課長に進み更に三井信託會社に轉じ現時同社取締役副社長の要職に在り家族は尙三女恵美子(大一一、八、生)四女弘子(同一五、四、生)五女順子(昭三、一、生)あり(東京市外大崎町上大崎二六六ノ一電高輪一九五一)

院を出で嘗て三井物産會社員たりしが現時中日實業會社取締役に就任し且中華民國陸海軍副司令官兼東北邊防軍司令官長官張學良氏顧問たり弟篤志(明三〇、八、生)同利八(同三四、五、生)は各分家せり(奉天、浪速通二四)

江藤増實

地主、熊本縣在籍

妻 シモ 明一七、七、生、出羽龜吉長女
男 逸司 明三一、七、生
女 靜 明三二、一、生、二男逸司妻、熊本、松尾實章二女
男 舜次 明三三、九、生
男 久實 明四五、一、生
女 久子 明四五、一、生

江藤林太郎

沼津銀行專務取締役、静岡縣在籍

妻 壽 明一〇、八、生、静岡、士、羽山嶺吉妹
男 欣三 大六、一二、生
女 きみ子 明四二、一、生、東京家政學院出身
女 さき子 明四五、三、生、東京家政學院出身

君は静岡縣人江藤舒三郎の長男にして同得三の兄なり明治元年四月を以て生れ同三十七年家督を相続す同二十三年慶應義塾を卒業し現時沼津銀行取締役に家族は尙四男修(大九、一、生)及叔父龜吉郎(安政六、五、生)あり長女みわ(明三五、一、生)は東京府人森泰治に二女しづ(同三九、三、生)は山梨縣人秋山鐵雄に妹とし(同一八、六、生)は福岡縣人常次郎に同さだ(同一〇、五、生)は東京府人木幸吉に嫁し長男俊吉(同二七、一、生)は分家し弟廣藏(同一五、一、二、生)も亦同妻ふみ(同二七、四、生)、東京、山田巽二女)を伴ひ分家せり(静岡、駿東、金岡村)

妻 明一九、一〇生、宮崎、三輪次郎姉
男 明二八、八生、二男榮藏妻、宮崎
女 明三六、七生、二男榮藏妻、宮崎
男 明三三、一〇生、三男精一妻、弟
女 明三三、一〇生、三男精一妻、弟
男 明三三、一〇生、三男精一妻、弟
女 明三三、一〇生、三男精一妻、弟
男 明三三、一〇生、三男精一妻、弟
女 明三三、一〇生、三男精一妻、弟

江夏喜兵衛
 君は宮崎縣人江崎計佐吉の五男にして現戸主岩吉並江夏芳太郎同吉助の弟に當り明治十三年九月を以て生る砂糖製糖油商を營み傍ら前記諸會社の重役を擧げられ縣下の多額納税者にして直接國稅二千八十圓を納む

江橋 芳雄
 君は茨城縣人江橋克巳の二男にして明治二十一年一月を以て生れ大正十五年家督を相續す現水戸中學校を卒業し後川崎銀行に入り現に同行八王子支店長たり家族は尙長女佳子(大九、八生)弟博(明二八、七生)同妻うめ(同三八、二生、茨城、宇島新太郎三女)及其二子あり二女登美子(六一〇、二生)は東京府人江橋活朗の養子となり(八一八王子、八日町一七)

江橋 修
 君は茨城縣人江橋克巳の三男にして明治二十三年八月を以て生れ同三十二年家督を相續す大正四年文官高等試験に合格し同五年東京帝國大學法科大學法科を卒業し同七年檢事に任じ爾來高松地方兼岡田地方兼同區熊本地方兼同區各裁判所檢事小倉區兼福岡地方小倉支店久留米區兼福岡地方久留米支店各裁判所檢事長崎縣裁判所檢事を経て現に長崎縣裁判所檢事たり家族は尙二女華子(六一五、三三)二男忠敬(昭三、七生)あり(長崎市長崎控訴院内)

江畑新之助
 君は秋田縣人江畑三郎の長男にして明治四年七月を以て生れ同三十四年家督を相續す農を營み前記銀行會社の重役にして縣下の多額納税者にして直接國稅一萬

江夏吉助
 君は宮崎縣人江夏計佐吉の四男にして現戸主岩吉並江夏芳太郎の弟同喜兵衛の兄に當り明治九年二月を以て生る米穀商を營み傍ら北諸縣郡製糖會社社長に擧げられ縣下の多額納税者にして直接國稅三千二百二十一圓を納む家族は尙五女登記子(大八、一三)三男登壽(同一〇、二生)あり長女フミ(明三五、一〇生)は兄弟吉三男精一に嫁せり(宮崎、北諸縣、沖水村)
 參照 江夏岩吉、江夏喜兵衛、江夏芳太郎の項

江夏芳太郎
 君は宮崎縣人江夏計佐吉の三男にして現戸主岩吉の弟江夏吉助同喜兵衛の兄に當り明治七年七月を以て生る砂糖製糖油商を營み現に宮崎縣多額納税者にして直接國稅四千八百八十八圓を納め推されて宮崎縣會議員たり家族は尙孫由布子(昭三、三三)二男眞二(長女)同昇(同四、五生)同長男あり(都、城西、西町)
 參照 江夏岩吉、江夏喜兵衛、江夏吉助の項

江波利三郎
 君は東京府人江波榮次郎の長男にして明治十六年三月

江畑 之允
 君は奈良縣人江畑知守の二男にして明治十一年五月を以て生れ大正五年家督を相續す明治三十七年東京帝國大學農科大學農學科を卒業し替林技手に任じ爾來林務官補山林技師長野岐阜山梨各縣技師を歴任し地方技師に任ぜられ昭和二年靜岡縣内務部山林課長となり同五年滋賀縣内務部山林課長に轉じ今日に至る家族は尙三男稔(大元、一三)二女キミ(同六、一三)弟祐之(明一五、六生)同妻タカ(同一九、八生)村井吉五郎(二女)及其三子あり(靜岡市縣内務部内)

江幡 新
 君は茨城縣人江幡重三郎の三男にして慶應二年十二月を以て生れ先代重三郎の養子となり明治十九年家督を相續す現に常磐銀行取締役取組の外部記銀行家族の重役にして推されて水戸商工會議所議員たり家族は尙孫和雄(大八、二生)長男亮(長男)同眞知子(同一二、一〇生)同長女(同四、九生)同二男(同高志、昭三、一〇生)同三女あり長女清子(明三三、一〇生)水戸高女出身)は茨城縣人江幡四郎に嫁せり(八一〇七八(水戸、上市常磐町五七七二四五))

江波戸常吉
 君は滋賀縣人藤村德兵衛の二男にして明治十八年十二月を以て生れ先代德兵衛の養子となり同二十九年家督を相續す現時前記各會社の重役たり家族は尙長女靜(大一二、一〇生)二女美代子(同一三、八生)あり(兵庫、武庫、住吉村反高林一八七六電御影二二八)

江波戸盛博
 君は東京府人江波戸善之助の二男にして明治三十七年三月を以て生れ昭和五年家督を相續す土木建築請負業を營み東京土木建築業組合第四支部理事に推される家族は尙弟厚藏(明四一、一〇生)高等造園學校出身)同靖(大六、二生)妹登志子(明四四、一〇生)上野高女出身)同靜江(大六、一〇生)第一高女在學)同君代(同一

江濱傳兵衛
 君は長崎縣人江濱傳之助の長男にして明治十二年九月を以て生れ大正三年家督を相續す海産物商を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙孫雄(大一一、一〇生)長男傳雄(同清平)同三、四生、同眞一(昭二、一〇生)同眞二(昭二、一〇生)同眞三(昭二、一〇生)同眞四(昭二、一〇生)同眞五(昭二、一〇生)同眞六(昭二、一〇生)同眞七(昭二、一〇生)同眞八(昭二、一〇生)同眞九(昭二、一〇生)同眞十(昭二、一〇生)同眞十一(昭二、一〇生)同眞十二(昭二、一〇生)同眞十三(昭二、一〇生)同眞十四(昭二、一〇生)同眞十五(昭二、一〇生)同眞十六(昭二、一〇生)同眞十七(昭二、一〇生)同眞十八(昭二、一〇生)同眞十九(昭二、一〇生)同眞二十(昭二、一〇生)同眞二十一(昭二、一〇生)同眞二十二(昭二、一〇生)同眞二十三(昭二、一〇生)同眞二十四(昭二、一〇生)同眞二十五(昭二、一〇生)同眞二十六(昭二、一〇生)同眞二十七(昭二、一〇生)同眞二十八(昭二、一〇生)同眞二十九(昭二、一〇生)同眞三十(昭二、一〇生)同眞三十一(昭二、一〇生)同眞三十二(昭二、一〇生)同眞三十三(昭二、一〇生)同眞三十四(昭二、一〇生)同眞三十五(昭二、一〇生)同眞三十六(昭二、一〇生)同眞三十七(昭二、一〇生)同眞三十八(昭二、一〇生)同眞三十九(昭二、一〇生)同眞四十(昭二、一〇生)同眞四十一(昭二、一〇生)同眞四十二(昭二、一〇生)同眞四十三(昭二、一〇生)同眞四十四(昭二、一〇生)同眞四十五(昭二、一〇生)同眞四十六(昭二、一〇生)同眞四十七(昭二、一〇生)同眞四十八(昭二、一〇生)同眞四十九(昭二、一〇生)同眞五十(昭二、一〇生)同眞五十一(昭二、一〇生)同眞五十二(昭二、一〇生)同眞五十三(昭二、一〇生)同眞五十四(昭二、一〇生)同眞五十五(昭二、一〇生)同眞五十六(昭二、一〇生)同眞五十七(昭二、一〇生)同眞五十八(昭二、一〇生)同眞五十九(昭二、一〇生)同眞六十(昭二、一〇生)同眞六十一(昭二、一〇生)同眞六十二(昭二、一〇生)同眞六十三(昭二、一〇生)同眞六十四(昭二、一〇生)同眞六十五(昭二、一〇生)同眞六十六(昭二、一〇生)同眞六十七(昭二、一〇生)同眞六十八(昭二、一〇生)同眞六十九(昭二、一〇生)同眞七十(昭二、一〇生)同眞七十一(昭二、一〇生)同眞七十二(昭二、一〇生)同眞七十三(昭二、一〇生)同眞七十四(昭二、一〇生)同眞七十五(昭二、一〇生)同眞七十六(昭二、一〇生)同眞七十七(昭二、一〇生)同眞七十八(昭二、一〇生)同眞七十九(昭二、一〇生)同眞八十(昭二、一〇生)同眞八十一(昭二、一〇生)同眞八十二(昭二、一〇生)同眞八十三(昭二、一〇生)同眞八十四(昭二、一〇生)同眞八十五(昭二、一〇生)同眞八十六(昭二、一〇生)同眞八十七(昭二、一〇生)同眞八十八(昭二、一〇生)同眞八十九(昭二、一〇生)同眞九十(昭二、一〇生)同眞九十一(昭二、一〇生)同眞九十二(昭二、一〇生)同眞九十三(昭二、一〇生)同眞九十四(昭二、一〇生)同眞九十五(昭二、一〇生)同眞九十六(昭二、一〇生)同眞九十七(昭二、一〇生)同眞九十八(昭二、一〇生)同眞九十九(昭二、一〇生)同眞一百(昭二、一〇生)

江原吉之助
 君は東京府人江原嘉吉の長男にして明治十一年九月を以て生れ大正九年家督を相續す現時北樺太コソサナ炭礦會社取締役たり家族は尙三男嘉雄(大三三、一〇生)二女安役(同六、八生)三男健吉(同八、八生)は東京府人西村光夫に嫁せり(東京、芝、二本榎西町二)

江原三郎
 君は群馬縣人江原芳平の三男にして同俊夫の叔父なり明治十七年一月を以て生れ同三十二年姉ひさの死跡を

相續し本江原家より分家す現時各銀行會社の重役にして縣下の多額納税者に列し往年商會議所二號議員に選ばれ且無投票を以て縣會議員に選舉せらるる文學美術に造詣深く又莫千家の茶道に通ず家族は尙四女貞子(大八、二生)五女房子(同九、一生)あり(前橋、北曲輪町三八電一四八)

江原 貞助

江原商店各代表取締役、群馬縣在籍

妻 キチ 明三六、一生、群馬、江原長平長女
男 雄一 明三六、一生、法大經濟科出身
女 マサ 明二九、二生、長女マサ夫、長野坂口紀之助四男、京都高工藝出身
養子 三郎 明二六、一生、養子南長女
女 フク 明二七、九生、養子三郎妻
孫 隆子 明二七、九生、養子南長女

君は埼玉縣人倉上福藏の長男にして明治六年七月を以て生れ先代貞藏の養子となり同三十一年家督を相續し前名由太郎を改め養父の舊名を襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫俊子(大六、八生、養子南二女)同賢(同一、三生、同長男)あり三女かつ(明四〇、一生)は群馬縣人稻垣繁に嫁せり(桐生、新道通一、二二〇電一〇八、一〇八)

江原 松三郎

一直、割柴業 東京府在籍

妻 マス 明一九、二生、東京、池田多三郎三女
男 林造 明四一、七生
女 しのぶ 明四四、一生、長男林造妻、東京福井久吉郎三女

君は千葉縣人大竹四郎の五男にして明治九年十一月を以て生れ先代惣八の養子となり大正六年家督を相續し一直と稱し割柴業を營む養父の大正製氷會社重役たりしことあり家族は尙五男三郎(大二、一生、養妹なつ)(明三一、七生)あり四女花子(同三七、三生)は兵庫縣人本庄三郎に嫁し六女古満子(同四四、一生)は外祖父池田多三郎の養子となり(東京、淺草、淺草公園五號四電淺草一八〇〇)

江部 順治

下野酒造營業務取締役、郡須商業銀行監査役、栃木縣在籍

妻 シゲコ 同一、三生、養父源助二女、山口高女出身
男 俊吉 明三三、五生、農學士、農林省勤務
男 英雄 明四〇、九生、京大法學部在學
男 勤三 明四二、二生、京大理學部在學
男 孝之 明四三、一生
女 昌子 大二、八生、大手前高女出身
女 敦子 大四、八生、大前高女在學

君は舊三田尻藩士にして家老職を勤めたる田上由平の三男にして明治五年一月を以て生れ先代源助の養子となり大正四年家督を相續す明治三十一年東京帝國大學工科大学を卒業し大阪鐵工所に入り技師長となり海外に派遣さる、事四回後同社本津川工場長となり大正十一年同工場の戸畑轉物會社に讓渡せらる、や入りて同社取締役に擧げられ今日に至る傍ら田中機械製作所社長にして大阪鐵工組合副會長たり長女ムメ(明三二、三生、梅田高女出身)は岡山縣人醫學博士皆木泰一郎に三女美代子(同三八、一生、出身同上)は福岡縣人平賀義美四男農學士五郎に嫁せり(大正一、一七)大正、此花、玉川町四〇八八電土佐堀三三六) 參照ノ平賀義美の項

江本 伊三吉

酒類商 大阪府在籍

妻 八千代 明二六、一生、大阪、笠松まさ三女
男 種楠 大一〇、一生
君は兵庫縣人江本重吉の三男にして明治二十三年九月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す酒類商を營む家族は尙五女澄子(大二、一生)二男幸雄(同一四九生)七女和子(昭四、一生)あり(大阪、浪速、櫻川町四一、四〇二電櫻川八四六)

江本 謙藏

江本製鐵廠社長、能勢電氣軌道專務取締役、金剛山護謨、妙見鋼索鐵道、カール護謨各取締役、兵庫縣在籍

妻 せい 明二四、五生、大阪、若間平七長女、夕陽丘高女出身
男 憲一郎 大五、一〇生
君は岐阜縣人淺井利作の二男にして同柳三の兄なり明治十三年七月を以て生れ同三十七年兄鶴吉方より入りて叔母江本とくとの死跡を相續す現時江本製鐵廠社長たり

妻 アサ 明二三、八生、養父惣四郎長女
男 福太郎 明四五、二生
君は秋田縣人高堂兵右衛門の五男石川信助の弟にして明治十六年一月を以て生れ先代惣四郎の養子となり同四十四年家督を相續す同三十九年東京高等工業學校應用化學科を卒業し現時前記銀行會社の重役たり家族は尙二男圓次郎(大三、一〇生)三男敏三郎(同六、二生)四男貞四郎(同一〇、一生)あり(栃木、那須、金田村) 參照ノ石川信助の項

江間 俊一

勸業、江間式心身鍛錬法教授 東京府在籍

男 俊雄 明二九、九生、文學士、慶應義塾大學教授
女 美代子 明三五、二生、長男俊雄妻、東京吉野新太郎長女

君は遠州見付の豪家として知られたる山本幸七の三男にして文久元年五月を以て生れ明治十一年先代つれの入夫となり家督を相續す明治法律學校に法律を修め同二十三年代官となり同二十六年辯護士を開設す爾來東京辯護士會會員同議長東京府會議員同議長東京市會議員同議長等に擧げられ又衆議院議員に當選すること四回同職事務の功に依り勳四等に敘せらるるに就て鐵道會社取締役社長たり江間式心身鍛錬法創案者として知らる趣味としては詩文書畫を能くし又篆刻に長じ片石共語齋印譜の著あり家族は尙養子具子(大七、三生、岩倉縣長女)孫俊子(同一三、二生、長男俊雄長女)同務津世(昭四、一〇生、長女光子養子、東京、金澤勝市長女)あり長女光子(明三二、二生、京華高女出身)は公費岩倉具榮叔父具顯に嫁し二女貞子(同三五小石川一三六)は他に嫁せり(東京、小石川、白山前町七三電小石川一三六) 參照ノ公費岩倉具榮の項

江見 清風

從四位勳四等、官幣大社春日神社宮司、新潟縣士族

妻 清操 明二五、四生、金澤三四郎長女
男 清鷹 明二九、二生、經濟學士
女 清とみ 明三三、八生、長男清鷹妻、京都大八木角右衛門三女
男 喬平 明三六、一生
君は新潟縣士族金子豐雄の二男にして明治元年五月を以て生れ先代田鶴雄の養子となり同四十四年家督を相

續す同二十七年國學院を卒業し神宮禰宜に任ぜられ明治神宮權宮司神宮外苑管理署長事務取扱内務省神祕調查會委員國學院大學講師となり現時官幣大社春日神社宮司たり家族は尙孫敬二(昭三、一生、長男清鷹二男)あり長女トミ(明二四、一〇生)は福岡縣人河野豐作に同實雄に嫁せり(奈良市高畑町六二七)

江見 隆信

江見工業所、自動車用品商 熊本縣士族

妻 スミ 明二六、二生、熊本、士、谷川宜智妹
男 高章 昭二、二生
君は熊本縣士族江見就道の二男にして明治二十一年三月を以て生れ同三十六年祖父昌信の後を承け家督を相續す江見工業所を經營し自動車用品商を營む家族は尙二女リョ(大一二、一生)二男高志(昭四、一生)あり叔母サダ(明一二、二生)は福岡縣人河野豐作に同マサ(同一七、三生)は熊本縣人阿部明淨に嫁せり(一二四B四七三熊本市市街町八電二〇八一)

江見 節男

正五位勳六等、浦和高等學校教授 兼生徒主事、岡山縣在籍

妻 馬太郎 明三二、一生、東京、士、海軍造明三二、一生、現戸主
男 季子 大佐山田三太郎三女
君は岡山縣人多賀實右衛門の二男にして明治二十三年一月を以て生れ同二十八年江見馬太郎の養子となる同四十五年東京帝國大學理科大學純正化學科を卒業し大正七年第八高等學校教授に任じ同十二年浦和高等學校教授に轉じ現に其任に在り昭和十二年化學及化學教授法研究のため英米獨に留學を命ぜらるる家族は尙長女裕江(大六、一生)二女元子(同八、三生)三女明子(同一〇、一生)の外養妹勝代(明二八、二生)同文字子(同三八八生)同睦子(同四一、五生)同仁子(同四五、六生)あり養父雅助(同七一、一〇生)は分家し養叔母よし(同一四、七生)養叔父清助(同一七、四生)は共に其の家籍に入り養叔母けい(同一〇、二生)は岡山縣人中村武市に嫁せり(埼玉、北足立、浦和町浦和高等學校官會)

江村 義三郎

田中機械製作所専務社長、戸畑轉物廠取締役、大阪鐵工組合副會長 大阪府士族

君は福岡縣人平位義信に嫁せり(大分、玖珠、森町) 參照ノ義足立純一郎の項

る外前記諸會社の重役たり兼に野口汽船會社事務取締役たりしことあり家族は尙二男吉三(大七、九生)三男五郎(同一〇、四生)三女トミ(同一三、九生)四男善五郎(同一五、七生)四女篤(昭二、九生)あり(兵庫、川邊、東谷村) 參照ノ淺井柳三の項

衛藤 顯

從五位、判事、佐賀地方裁判所部長、大分縣在籍

父 忠藏 現戸主
母 忠藏 明二八、二生、大分、衛藤又三郎妹
妻 久 明二八、二生、大分、三浦數平長女、大分高女出身

衛藤 幸六

大分縣銀行頭取 大分縣在籍

妻 芳江 明一一、二生、大分、大塚直雄長女
男 義六 明三三、三生
養子 忠彦 明二八、二生、二女チヨウ夫、大分、藤繁策弟
女 チヨウ 明三〇、二生、養子忠彦妻
女 リョウ 明四一、四生
女 ユキ 明四三、八生

衛藤 祐盛

從五位、朝鮮總督府鐵道局技師、運輸課長、大分縣在籍

妻 ユキ 明二七、一生、大分、矢野半之助二女
男 祐吉 大七、三生
女 トシ 大三、一生
女 美津代 大五、九生

君は大分縣人衛藤源十の二男にして明治十六年十二月を以て生れ先代庄八の養子となり同三十九年家督を相續す同四十二年京都帝國大學工科大学機械工學科を卒業し同年南滿洲鐵道會社に奉職し次いで同八年歐米各業に出張し同十年朝鮮鐵道の滿鐵委任經營に渡り京城鐵道局技師に任じ運輸課長に補せられ今日に至る家族は尙二男洋吉(大八、八生)あり(朝鮮、龍山、鐵道官會二〇號)

繪川 長三良

金礦業 大阪府在籍

母 ×イ 明一〇、四生、大阪、茶珍新兵衛妹

君は大阪府人繪野鶴松の長男にして明治三十四年四月を以て生れ同年家督を相続す...

繪野幸次郎 大阪株式取引所取引員 兵庫縣在籍 繼母カメ 文久二、六生、大阪、寺川利平三女...

永瀧久吉

君は新潟縣人永瀧源治の長男にして慶應二年十二月を以て生れ明治十四年家督を相続す...

榮國嘉七 東京瓦斯電氣工業 大阪府在籍 妻 志津 明二七、二生、大阪、山本徳三郎...

枝重武良 高知縣多額納稅者、製紙原料商 高知縣在籍 妻 鶴喜 明二九、一一生、高知、森木寅右衛門...

枝原百合一

君は山口縣人枝原原吉の二男にして明治十四年七月を以て生れ大正五年兄幸太郎方より分れて一家を創立す...

枝松 關西製氷、宇和島製氷、池田製氷 高松製氷、宇和島製氷、池田製氷...

榎太郎 京都府在籍 妻 シツ 明一三、一〇生、京都、四手井源...

榎重太郎

君は京都府人榎重太郎の二男にして同重太郎の弟喜多見長兵衛の兄なり...

榎田萬藏 山陰實業銀行取務 鳥取縣在籍 妻 幸太 明三〇、三三、三三、三三、三三、三三...

榎並吉太郎 榎並鐵道商店取務 新潟縣在籍 妻 ツネ 明二二、二二、二二、二二、二二、二二...

榎並充造 神戸商工會議所副會頭、東神土地 興業、日本液體アスファルト、明...

榎並庄兵衛 愛知縣多額納稅者、東海養魚、名 古屋製糖各取務、便宜運漕、名...

榎並直三郎 日本茶業肥料取務 大阪府在籍 妻 幸子 明二五、一一生、大阪、開合定吉...

榎本卯一郎 日本印刷製糖取務 大阪府在籍 妻 健一 明四三、一一生、大阪、開合定吉...

榎本善兵衛 埼玉縣多額納稅者、農業
 母 善 行 明四一、一五
 男 善 行 明四一、一五
 女 善 行 明四一、一五

君は埼玉縣人先代善兵衛の二男にして明治十一年四月を以て生れ同四十二年家督を相続し前名善亮を改め襲名す先是同三十五年中央大學を卒業し農を業とし義に埼玉農工銀行監査役に擧げられ埼玉縣多額納稅者にして直接國稅三十四百八十九圓を納む家族は尙三女多喜子(大七、四生)四女君子(同九、九生)六女都留子(昭二、四生)あり長女侑子(明三四、一〇生)は埼玉縣人小山三省に姉よし(同三一、二生)は同縣人福島貞次郎に妹よし(同二六、二生)は同縣人宮内勲助長男純に嫁せり(埼玉、南埼玉、久喜町)

參照 小山三省の項

榎本重治 從五位勳四等、海軍書記官兼海軍教授、大臣官房勤務、東京府在籍
 妻 孝 明三一、一五、生、岡山、士、杉山岩三郎妹

君は東京府人榎本善治の四男にして明治二十三年一月を以て生れ大正八年明善雄方より分れて一家を創立す同二年文官高等試験に合格し翌三年東京帝國大學法學部英法科を卒業す直ちに鐵道院書記となり爾來海軍教授兼海軍省參事官專任海軍省參事官等に歴任し現時海軍書記官兼海軍教授にして大臣官房勤務なり義に華府軍縮會議海軍會議海軍に於ける戦争法規會議及ロンドン軍縮會議に參列せり家族は尙長女豐(大六、四生)二女繁(同八、三)二男賢(同二、一)三男(同二、一)あり(東京市外池袋町松濤五電新山七二八)參照 杉山岩三郎家速水篤治郎の項

榎本次郎右衛門 農業
 妻 美 代 明三七、一五、生、茨城、古川興志郎

君は千葉縣人先代次郎右衛門の長男にして明治三十四年十月を以て生れ大正十五年家督を相続し前名侃一を改め襲名す先代次郎右衛門は義に衆議院議員に推され又布川銀行取締役帝國鐵道會社社長たりし事あり君家業を繼承し農に従事す家族は尙二女調子(昭二、七)三女和子(同三、九)妹敏子(同四、五)あり同幾(同三、〇)七生、女子美術學校裁縫科出身(千葉縣人大家敬太郎に嫁せり(千葉、東葛飾、布佐町))

榎本惣五郎 武藏製粉廠取締役
 妻 德三郎 明三三、一〇、生、埼玉、櫻井彌助長女

君は埼玉縣人榎本啓次郎の三男にして明治二年四月を以て生れ同二十五年分れて一家を創立す現に武藏製粉會社取締役たり家族は尙孫浩昌(昭三、一)生、養子藤吾(長男)同(昭五、四)生、同(昭二、一)ありA五五四〇B一六六(川越、川越七七電四三三)

榎本武英 從五位、子爵
 妻 梅子 明一五、一五、生、伯爵黒田清養叔母

當家は先代武揚より顯る武揚は舊幕臣にして弱冠海軍練習所の教授となり和蘭に航し海陸の兵制を研究し歸來海軍奉行に擧げられ戊辰の役開陽回天の二艦を率ゐて函館五稜廓に據り大島圭介等と共に王師に抗し軍敗れて降る明治五年其罪を赦され海軍中將に任じ後特命全權公使となり露國及清國駐劄を命ぜられ爾來海軍卿通信大臣文部大臣樞密顧問官外務大臣農商務大臣議

榎本義重 米穀商在籍
 妻 順 明三七、九生、群馬、關根作三郎

榎本家は先代儀兵衛愛知より江戸に出で質商榎本家に養子となり後分れて一家を創立し米穀商を營みたるに創まる君は其長男にして明治三十二年二月を以て生れ大正九年家督を相続す同年慶應義塾理財科を卒業し爾來家業を繼ぎて米穀商を營む長に演劇を嗜む家族は尙二女和子(昭二、一)生、あり姉ヨコ(明一四二)生、其夫新三郎(同九、三)生、従ひ分家し同(同二六、八)生、東京第一高女出身)は鹿兒島縣士族田口篤信養子醫學士盛熊に嫁し妹貞子(同三五、七)生、前記田口篤信の養子となり(東京、深川、相川町一電本所一八五九)

參照 田口盛熊家野原中三郎家柳澤平の項

榎本彌之助 臺灣銀行花港支店支店配人
 妻 智彌 大一一、二生

君は福岡縣人榎本健藏の二男にして明治二十五年十一月を以て生れ大正七年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し直ちに臺灣銀行に入り同大正支店支店勤務を経て現時同行花港支店支店配人たり家族は尙長女文子(大九、八)生、二女美代子(同二、一)生、兄弟助(明二三、七)生、現戸主)同妻シツエ(同三一、八)生、福岡、有吉榮吉長女)及其子女あり弟專一(同三〇、一)生、福岡、同縣人許妻アサ子の入夫となり(臺灣、花蓮港街常盤通八番戸)

榎本松之助 大阪印刷インキ製造監査役、法令館、出版業、大阪府在籍
 妻 ツキ 明一〇、四生、福岡、泉善吉二女

君は和歌山縣士族榎本宗次郎の二男にして慶應元年六月を以て生れ明治二十九年兄定七方より分れて一家を創立す夙に印刷業を創めたいで出版業を營み法令館と稱して知る傍ら前記會社の重役たり家族は尙孫壽々(大一一、一)生、長男進一郎(長女)同津子(同四、七)生、同二女)同英子(昭三、一〇)生、同三女)あり二男文雄(明三三、七)生、早大法科出身)は榎本家本定七の養子となり長女多満子(同三五、七)生、相愛高女出身)は大坂府人小島仁輔長男八朝に嫁せり(大阪、南、松屋町三九電東一六二四)

榎本重次郎 大阪府在籍
 妻 歌 奈 明一六、四生、大阪、上田喜七長

君は兵庫縣人榎本重三郎の二男にして明治十三年二月を以て生れ兵庫縣人海老澤三郎の養子となり同三十年分れて一家を創立す夙に播磨野町津井彌兵衛方に勤務し後獨立して醬油商を營みしと號し今日に至る家族は尙八女ます(大九、一〇)生、九女勝(同二、二)生、あり長女たか(明三七、六)生、大谷女學校出身)は京都府人連井政一弟信次に二女しげ(同三八、一〇)生、出身校同上)は同府人海老澤恒治に嫁し三女八重(同四〇、六)生、金蘭高女出身)は實兄那須梅吉の養子となりA一八〇〇B五三〇(大阪、西、江戸堀南通一ノ三五電土佐堀四三三七)

海老澤爲次郎 衆議院議員(茨城縣選出)、吳服商
 妻 秀 夫 明四一、一五、生

君は茨城縣人海老澤三郎の二男にして慶應元年八月を以て生れ明治二十一年家督を相続す吳服商を營み衆議院議員に當選する事同立憲政黨に屬す義に茨城縣會議員同副議長同議長同銀行取締役に就任す家族は尙孫敏夫(大四、二)生、養子廉輔長男)あり弟重五郎(明四、七)生、は茨城縣人青木實四郎に同新七郎(同九、五)生)は同縣人藤塚伊惣次に各養子となり養子も(同六、四)生、茨城、飯田藤左衛門三女)は同縣人海老澤七左衛門に妹り人(同二、一)生)は同縣人岡田勘左衛門に四女馨子(同三四、一)生)は新潟縣人古橋才次郎に嫁し養子廉輔(同一九、一)生、亡長女意雄夫、群馬中島祐八弟)は分家せり(東京、下谷、簞笥町五)

海老澤鐵五郎 資産家
 妻 千代 明二四、五生、東京、酒井幾五良

君は東京府人海老澤林之助の二男にして明治二十一年四月を以て生れ同四十四年家督を相続す資産家にして義に東京外國鐵道工業會社取締役にたり家族は尙二男吉雄(大九、二)生、三女ふく(同二、一)生、四女さき子(昭二、九)生、妹か(明三五、四)生、あり弟治三郎(同二五、四)生)は母はな(慶應元、九)生、東京、佐藤治三

海老澤正忠 光行電線取締役 東京府在籍

海老澤正忠

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

海老塚明 神奈川縣多額納税者、地主 神奈川縣在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

海老原初太郎 從五位勳五等、農林技師、畜産局長 東京府在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

海老原介太郎 明治生命保險取締役兼監査主事 茨城縣在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

海老原一 從五位勳五等、判事、浦和地裁 東京府在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

海老名彈正 東京社大學名譽教授 東京府在籍

海老名彈正

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

海老原正太郎 明治生命保險取締役兼監査主事 茨城縣在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

海老原一 從五位勳五等、判事、浦和地裁 東京府在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

海老原一 從五位勳五等、判事、浦和地裁 東京府在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

足立、浦和町地方裁判所内

海老原初太郎

從五位勳五等、農林技師、畜産局長 東京府在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

延藤吉兵衛

廣島縣多額納税者、備後銀行頭取、廣島縣在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

遠城保太郎

探運ビルテナゲ専務取締役、玉環商店取締役、東京府在籍

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

妻 明一、七生、東京、錦木胤義養

(明三一、二生)は佐賀縣人黒川鷹揚に三女セイ(同三六、一一生)は福岡縣人内野勲二男に養子トシヨ(同三〇、二生、佐賀、黒木常四郎四女)は同縣土族増田藤平に妹アサ(同八、三生)は同縣人江口勲吉弟敬吉に嫁し五女セツ(大三、六生)は同縣人遠藤陽吉の養子となれり(佐賀、杵島、北有明村)

遠藤 重吉 正八位、茨城縣會議員、茨城縣多額納税者、茨城縣在籍
 妻 ます子 明三六、一一生、茨城、狩野義胤長男

君は茨城縣人遠藤政之助の二男にして明治二十八年十一月を以て生れ大正十四年家督を相続す同九年東京帝國大學法學部を卒業し大阪商船會社に入りしが同十三年退社す縣下の多額納税者にして直接國稅二千六百三十三圓を納め現に推されて茨城縣會議員たり家族は尙長女幸子(大一四、五生)妹たか(明四二、四生)あり姉長(同二四、三生)は茨城縣人川島運平に妹あき(同三二、九生)は同縣人増田良明に(同三九、九生)は同縣人福田長一に嫁し養叔母きよ(同二二、七生、茨城、友部房吉妹)は分家せり(茨城、筑波、田水山村)
 參照 狩野義胤の項

遠藤 甚二 日本鑛鋼所取締役
 妻 キヨシ 明二七、九生、香江龍太郎長女、福岡高女出身

君は福岡縣人遠藤甚藏の二男にして明治二十年四月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す早稻田大學を卒業し現時日本鑛鋼所取締役たり家族は尙四男甚次郎(大九、九生)あり(大阪、住吉、松島通三)一電天下茶屋三九〇〇)

遠藤 正規 從五位勳五等、判事、札幌控訴院部長、新潟縣在籍
 妻 キヨシ 明二二、六生、新潟、高橋又藏二女

君は新潟縣人遠藤榮次郎の三男にして明治十五年九月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治三十九年中央大學專門部法科を卒業し判事登用試験に合格同

遠藤 清一 日本折殖代表取締役
 父 平吉 萬延元、四生、現戶主
 妻 幸子 明二五、一一生、東京、鈴木ひさ私生子

君は福岡縣人遠藤平吉の長男にして明治十五年一月を以て生るるに日本折殖會社代表取締役に就任し現に其職に在り家族は尙二女幸子(大七、二生)三女伸子(同九、一一生)あり長女道子(明四四、一一生)は外祖母鈴木ひさの養子となり四女八重子(大一〇、一〇生)五女順子(同二四、四生)は共に東京府人望月市太郎の養子となり弟清次(明二〇、八生)は同妻キヨシ(同二〇、四生、福島、如武八郎長女)と共に其六子を作り分家せり(東京、京橋、築地三ノ一五)

遠藤 清平 長岡野銀行取締役、六十九銀行監査役、新潟縣在籍
 妻 コト 明二二、一一生、新潟、高野誠亮妹

君は新潟縣人先代清平の長男にして慶應三年十二月を以て生れ明治二十四年家督を相続し前名藤六を改め親名す同年中央大學を卒業し現時前記各銀行の重役たり長岡商業銀行監査役たりし、あり家族は尙二男清次(大九、七生)孫秀之(同八、五生、養子秀雄長男)同明(同二〇、一〇生、同二男同和子(同三一、一〇生、同長女)同茂(同二、三生、同三男)あり(長岡、坂上町一ノ六六三ノ甲)
 參照 遠藤藤吉の項

遠藤 精一 從五位勳六等、簡易保險局事務官
 妻 はつ 明一六、五生、東京、石川喜久太郎妹

君は長野縣人上田仲次郎の長男にして明治十一年五月を以て生れ遠藤家に入り同四十二年養兄梅三郎方より分れて一家を創立すミチテ商會と稱し電氣器具商を營み東京府より推されて衆議院議員に當選す(東京、淺草、千束町二ノ三九電淺草三七七)

遠藤 近太郎 朝倉中央製絲社長
 妻 喜代次 明二九、五生
 妻 今 明一四、二生、福岡、中川靜造長男

君は福岡縣人遠藤喜三右衛門の長男にして慶應三年八月を以て生れ明治十六年家督を相続す現時朝倉中央製絲社長たり姉アイ(元治元、一〇生)は其一子を伴ひ大分縣人中島不二人先代仙次に妹カネ(明一三、九生)は福岡縣人高山徳右衛門長男徳三郎に(同二一、一〇生)は同縣人水島嘉七長男嘉助に養子トシ(同二五、一〇生)は同縣人遠藤藤吉に(同二六、四生)は同縣人桑野探次の養子となれり(福岡、朝倉、金川村)
 參照 中島不二人派古瀨の項

遠藤 常壽 從五位勳五等、檢事、神戸地方裁判所檢事、滋賀縣在籍
 父 壽太郎 安政六、二生
 妻 壽子 明二六、八生、滋賀、士、小泉義文孫

君は滋賀縣人遠藤壽太郎の長男にして明治十九年四月を以て生れ大正十一年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學法科大學を卒業し大正二年檢事に任じ爾來福井區同地方名古屋區同地方岐阜區同地方各裁判所檢事大阪地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事等に歴補し昭和三年前記現職に轉ず家族は尙二男常雄(大五、二生)二女壽美(同七、七生)三女きよ(同二一、一一生)四女さち(同二二、五生)五女スエ(同二一、七生)六女ふさ子(同二二、五生)五女スエ(同二一、七生)六女ふさ子(同二二、五生)

遠藤 隆夫 南國護謨、ホルネオ護謨各取締役
 妻 かつ 明三、四生、宮城、士、矢部寛恒二女

君は宮城縣人遠藤善夫の長男にして明治九年八月を以て生れ大正十五年家督を相続す明治三十年早稻田大學法政科を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙妹喜多(明四〇、八生)及亡弟民夫の二子あり妹貞子(同三〇、四生)は秋田縣人行田道之助に嫁せり(東京市外目黒町上目黒一〇二〇)

遠藤 武次郎 藤政、生魚商
 妻 のぶ 明一七、三生、大阪、湯川政吉二女

君は大阪府人遠藤武兵衛の二男にして明治十三年一月を以て生れ後分れて一家を創立す藤政と稱し生魚商を

遠藤 傳右衛門 廣島縣多額納税者、佐竹鐵工所取締役、吳橋油鹽監査役、酒造業廣島縣在籍
 妻 隆博 明四四、二生
 妻 イツ 明二〇、一一生、廣島、池田平次二女

君は廣島縣人先代傳右衛門の五男にして明治二十年四月を以て生れ大正七年家督を相続し前名貞藏を改め親名す酒造業を營み傍ら前記會社の重役にして廣島縣多額納税者たり家族は尙二男博之(大六、五生)三男昌安(同二一、四生)あり妹チヤコ(明三二、一一生)は山口縣人高崎哲二に(同三三、五生)は熊本縣人緒方勉に嫁せり(吳、東本通)

遠藤 藤吉 從四位勳四等、元官吏
 妻 マチ 明二七、九生
 妻 マキ 明三六、二生、長男藤雄妻、新潟
 妻 マヨ 明三四、一〇生
 妻 富美子 明四一、一〇生、三男三郎妻、和歌山、田中新吾二女

君は新潟縣人遠藤清平の二男にして明治元年十二月を以て生れ先代爲八の養子となり昭和三年家督を相続す明治二十六年帝國大學工科大学土木工學科を卒業し統監府技師に任ぜられ臨時建築部工務課長となり後鐵道院技師に任じ神戸鐵道管理局工務課長滿鐵參事たりし現時閑地にあり家族は尙孫嘉雄(大一一、五生、長男藤雄長男)同美子(昭五、二生、三男三郎長女)あり二女長子(明四三、七生)は工學士笹村越郎に嫁し三男秀雄(同三〇、九生)は新潟縣人遠藤清平の養子となれり(同三一、三八)東京市外代々木二八九電四谷二一三八)

君は新潟縣人遠藤榮次郎の三男にして明治十五年九月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治三十九年中央大學專門部法科を卒業し判事登用試験に合格同

遠藤 武治 從四位勳三等、判事、大阪地方裁判所長、宮城縣士族
 妻 きよみ 明一六、五生、宮城、士、佐藤列之佐長女

君は舊仙臺藩士遠藤律の二男にして明治八年三月を以て生れ大正二年家督を相続す明治三十三年東京帝國大學法科大學を卒業し同三十五年判事に任じ爾來大阪地方京都府同地方同區各裁判所判事長野地方裁判所判事東京控訴院判事水戸地方裁判所判事東京控訴院部長大審院判事京都府地方裁判所長等に歴補し現時大阪地方裁判所判事たり家族は尙四男清彦(大九、四生)三女美智子(同二二、二生)あり長女千代子(明三七、一一生)は埼玉縣人尾崎定四郎長男博二に嫁せり(大阪、北、若松町一八地方裁判所長官舎)

遠藤 達 正五位勳三等、前臺灣電力社長
 妻 しん 明元、八生、海軍大佐下村正助姉

君は山形縣人遠藤助次郎の長男にして明治元年十月を以て生れ同十七年家督を相続す現に東京郵便電信學校を卒業し朝鮮總督府郵便局長管理所長たりし後實業界に入り滿鐵會社經理部長後臺灣電力會社社長に擧げらるる現時閑地に在り二女きよ(明二七、四生)は札幌通信局長吾妻耕一に(同五、九生)は山形縣人遠藤北村元太郎に(同二二、一一生)は同妻はる(同一九、一一生、海軍機關大佐安部富次妹)及其子女を伴ひ父の實業水井家を再興し弟清(同二一、一〇生)は山形縣人高野義雄の養子となれり(東京市外駒澤町上馬一三七八電世田ヶ谷一五〇)
 參照 吾妻耕一、川村竹治の項

遠藤 千元 衆議院議員(東京府選出)、ミチテ商會、電氣器具商、東京府在籍

參照 遠藤清平の項

遠藤 隼見

近藤利兵衛商店事務取締役
東京府士族
妻 ッネ 明二七、九生、福島、白井博之妹
男 育郎 大九、二生

君は東京府士族遠藤謙三の三男にして明治二十二年二月を以て生る大正二年東京帝國大學法科大學商科を卒業し現に近藤利兵衛商店事務取締役に任じ義に千歳貯蓄銀行重役たりし事あり家族は尙三男好郎(六一三、八生)兄又義妻りつ(明八、五生、山形、士、羽鳥、則二女)同養子武(同三七、一〇生、埼玉、新井重四男、現戸主)同妻春子(同四〇、三生、鳥取、關長次郎長女)及其一男あり(一九〇〇)東京市外中野町桐ヶ谷一〇七九電四谷二七〇六

遠藤平左衛門

岐阜縣多額納稅者、農業
岐阜縣在籍
妻 しと 明一九、一一生、岐阜、岡本太右衛門四女
男 大治郎 明三六、七生
女 節子 明三九、一一生、長男大治郎妻、三子重、伊達貫一郎二女
男 雄藏 明四二、一〇生
女 しづ 大元、九生

君は岐阜縣人遠藤治太郎の男にして明治十五年二月を以て生れ同二十四年祖父平左衛門の後を承け家督を相続し前名大治郎を改め義名す農業を営み現に岐阜縣多額納稅者にして直接國稅千二百二十圓を納む家族は尙三男勝之助(大四、八生)三女壽恵(同七、二生)四男智治(同八、四生)四女千恵(同十一、安政六、七生)昭五、八生、長男大治郎長女(伯母は、安政六、七生)あり長女ふみ(明四〇、四生)は愛知縣人縣源一郎に妹しやう(同二一、一一生)は同縣人宮崎一良に同(同二三、七生)は同縣人牧田茂兵衛長男茂七に嫁し弟婿三(同一九、八生)は分家し従弟竹四郎(同二一、八生、伯母はな四男)は岐阜縣人堀江倉吉の養子となり(岐阜、稻葉、原見村)
參照 岡本太右衛門各籍右衛門坂坂倉又吉淑鈴木穂一郎の項

遠藤 兵作

資産家
静岡縣在籍
妻 しげ 明一七、三生、静岡、武山孝左衛門長女
男 明三〇、一一生
女 明三六、四生、長男武妻、静岡、小沼孝雄姉

君は静岡縣人遠藤久七の長男にして明治三年八月を以て生れ同十六年家督を相続す資産家たり義に間租代表社員たりし事あり家族は尙孫和(六一四、六生、長男武長女)同尚子(昭四、一〇生、同二女)あり姉ため(慶應三、三生)は其夫常次郎(文久三、二生、静岡、福井良太郎叔父)と共に弟和久(明一五、一一生)は其妻みす(同一九二生、静岡、中村仲藏妹)と共に各其子女を伴ひ分家し妹せい(同二〇、二生)は静岡縣人鈴木豊吉に嫁し弟龜太郎(同二一、一〇生)は同縣人井上とりの入夫となり同治郎(同二二、一〇生)は同縣人小野建次郎に同増次郎(同二三、一〇生)は同縣人村上豊吉に各養子となり(一九〇〇)東京市外池袋町櫻丘一八電青山七五二一

遠藤 誠

正五位勳四等、判事、大審院判事
山梨縣士族
妻 花 明三三、一〇生、東京、士、飯村榮太郎五女
男 大治郎 明三九、七生

君は山梨縣士族遠藤謙の長男にして明治十一年六月を以て生れ同四十年家督を相続す同三十七年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し同三十八年判事に任じ宇都宮地方裁判所判事に補せられ爾來東京區東區同地方土浦區各裁判所判事に任じ現に東京控訴院判事に任じ昭三三年大審院判事に任じ今日に至る家族は尙二男謙三(大六、六生)三男彌(同九、一一生)長女美子(同二一、三三)二女悦子(昭五、九生)あり(東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇、一〇)

遠藤 正臣

從五位勳五等、鐵道書記官、運輸局貨物課長、資源局事務官
東京府在籍
妻 千代 明三二、一一生、宮城、田邊文之助

君は青森縣士族外崎覺の五男にして明治二十六年七月

遠藤 彌市

柏木運送店事務取締役、松竹興業取締役、東京府在籍
妻 貞子 長女
男 節彌 大九、二生
女 信子 明四四、八生
女 春子 大二、五生
女 林子 大四、九生

君は遠藤徳太郎の長男にして明治十四年十月を以て生れ同二十三年先代祖父彌市の後を承け家督を相続し前名道太郎を改め義名す現時柏木運送店事務取締役の外前記會社の重役たり家族は尙二男徳彌(六一二、一一生)三男直彌(同四一、二生)五女裕子(昭三、九生)あり長女美子(明四一、一一生)は立石隆一に嫁せり(六〇〇)東京、赤坂、青山南町四ノ二電青山二八九六

遠藤 保太郎

從四位勳三等、上田製絲專門學校教授、新潟縣在籍
妻 六太郎 元治元、九生、現戸主
男 壽一 大六、一一生
女 壽美 大六、一一生

君は新潟縣人遠藤六太郎の長男にして明治二十年一月を以て生る同四十五年東京帝國大學理科大學植物學科を大正四年同大學農科大學農學科を各卒業し同六年上田製絲專門學校教授に任ぜられ同十三年獨佛米各國に留學す歸朝後引續き現職に在り家族は尙二男慶二(六一八、八生)二女節(同二一、一〇生)三女晴子(同二一、一〇生)三男英三(昭三、三生)あり(上田、上田二二九九)參照 遠藤六太郎、川上淳一郎、中村金右衛門の項

遠藤 芳治郎

金融無盡事務取締役、旭日製菓監査役、山梨縣在籍
妻 よう 明二〇、五生、養父鐵五郎二女
男 俊太郎 明四〇、九生、法大出身

君は山梨縣人奥石右衛門の三男にして明治六年十一月を以て生れ先代よりの入夫となり同三十五年家督を相続す夙に若尾銀行に入り支配人となり現に金融無盡

遠藤 米七

豐原商工會議所會頭、樺太運輸、樺太製糖、樺太合運各社社長、本炭業代表取締役、大治倉庫、本斗電氣、樺太林業、樺太産業、樺太電氣各社取締役土木建築請負電燈製材業、樺太在籍
妻 實 明二二、七生、黒田竹次郎長女
男 明二六、七生

君は新潟縣人遠藤米蔵の三男にして明治八年三月を以て生れ同三十八年兄米吉方より分れて一家を創立す土木建築請負電燈製材業を営み傍ら前記諸會社の重役に任ぜられて豊原商工會議所會頭たり(樺太、豊原、豊原町東二條南三)參照 遠藤實の項

遠藤 柳作

正五位勳三等、埼玉縣多額納稅者
妻 明二五、三三、埼玉、横川重次姉
男 明四五、三三
女 明四五、三三

君は埼玉縣人遠藤幸五郎の二男にして明治十九年三月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十四年東京

遠藤 美之

千早川水力電氣取締役、和歌山紡織、精製印刷各監査役
大阪府在籍
妻 金 明八、七生、大阪、樋口湖五郎二女
男 亮一 明三九、一一生、法學士、日本毛織會社員

君は山梨縣人遠藤五郎左衛門の二男にして明治二年六月を以て生れ同二十六年兄敏方より分れて一家を創立し前名巳之次郎を改む風に實業界に志し現時前記各會社の重役たり家族は尙二男晴雄(大六三、六生)あり養子ヲウ(明二一、五生、公爵桂太郎伯母)は和歌山縣人長雄道二弟勝馬に嫁せり(兵庫、川邊、川西町花屋敷電池道二一四)
參照 公爵桂太郎長崎英造の項

遠藤 隆吉

文學博士、巢鴨學園總裁、社會學研究所、易學研究所各所長、東亞協會總務、群馬縣在籍
妻 はる 明一四、七生、東京、士、小山裕三郎長女
男 明一五、一〇生
女 健吉 明四五、一〇生
女 悦子 明四五、一〇生、成美高女出身
女 泰子 大五、九生、佛英和高女在學
女 壽子 大五、九生、佛英和高女在學

君は群馬縣人遠藤千次郎の長男にして明治七年十月を以て生れ同二十七年家督を相続す同三十二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同三十四年文學博士の學位を授けらる學術研究と社會教化とに没頭すること十數年東西文明の軋轢と東洋文明を提げて世界をして植染淨土たらしむべしとなし人文東洋主義を確立す著書數多あり家族は尙三男亨(大七、五生)六女幸(同二〇、九生)四男明(同二一、一〇生)あり二女福(明四〇、一〇生)生は長崎縣人近藤英吉に姉と(同二生)は群馬縣士族平松雄太郎に同(二一、一〇生)は群馬縣士族山田金次郎に妹ひで(同二一、一〇生)は同縣士族須田馬太郎に嫁せり(東京市外西葛町宮仲二六三九電大塚三二九〇)
參照 伊澤勝麻呂、須田馬太郎、伊澤多喜男の項

遠藤 六太郎

新潟縣多額納稅者、六十九銀行總取締役、長岡貯蓄銀行監査役、農業、新潟縣在籍
妻 保太郎 明二〇、一一生

君は新潟縣人遠藤六太郎の長男にして明治二十年一月を以て生る同四十五年東京帝國大學理科大學植物學科を大正四年同大學農科大學農學科を各卒業し同六年上田製絲專門學校教授に任ぜられ同十三年獨佛米各國に留學す歸朝後引續き現職に在り家族は尙二男慶二(六一八、八生)二女節(同二一、一〇生)三女晴子(同二一、一〇生)三男英三(昭三、三生)あり(上田、上田二二九九)參照 遠藤六太郎、川上淳一郎、中村金右衛門の項

養子 トミ 明九、九生、新潟、青木桂藏二女君は新潟縣人遠藤龜太郎の長男にして元治元年九月を以て生れ明治二十三年家督を相続す農業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅四千七百十二圓を納め縣下の多額納稅者たり長女ケン(明一八、一七)同夫信治(同一九、二七)新潟、立川秀司叔父)は其子女を伴ひ弟勲三郎(同二二、七生)は同妻ノヲ(同二九、七生)新潟、丸山武夫姉)を伴ひ妹アサ(同二五、一〇生)は其子を伴ひ各分家し姉アン(安政四、四生)弟龜二郎(明一七、一七)一男金之助(同三〇、三三)も亦各分家し二女マル(同二三、一〇生)は新潟縣人立川秀司叔父七郎に妹レキ(同二二、七生)は同縣人池田慶吉に嫁せり(新潟、三島、深才村)

參照 遠藤保太郎高橋寅市の項

オ(ヲ)之部

小穴 宗次

正五位勳五等、鐵道局技師、名古屋鐵道局工作課長、長野縣在籍
男 正一郎 大六、一七
妻 ヒロ 長女

小穴 秀一

小穴製作所代表取締役、日本石炭瓦斯專務取締役、日本無線電信電話專務取締役、日本コルク專務取締役、早稻田大學理工學部講師、長野縣在籍
父 彌三郎 嘉永元、一〇生、現戸主
母 しと 安政六、一七、長野、丸山園衛三女
妻 しづ 明二、一七、東京、中村郁次郎
男 秀雄 明四、一七
男 秀治 明四、一七
女 靖子 大五、一七
女 登美子 大五、一七

君は長野縣人小穴彌三郎の二男にして明治十四年四月を以て生れ同三十八年東京帝國大學工學科大學電氣工學科を卒業し機械製作業を營み現時小穴製作所代表取締役の傍ら前記各會社の重役にして早稻田大學講師たり兼に獨逸佛各國に留學す家族は尙三男秀三(大六、一〇生)三女親子(同九、五生)五女芳子(同二、一七、一七)四男勝雄(同四、一八)五男聖吾(昭三、一七)弟正徳(明三、一六、一七)醫學士)妹壽枝(同二、一七)あり弟宗次(同八、一八)三男(分家せり)A一六七(東京、淺草、橋場町六七電燈六九)

參照 小穴宗次、中村郁次郎、中村義四郎、中村三郎

小笠原 榮治

札幌商工會議所常議員
北海道上在籍
妻 トシ 明二七、九生、福岡、吉田正福三女
男 晴海 大九、一七
女 ミネ 明四、一七、札幌高女出身
女 涼子 大六、一七、札幌高女在學

小笠原 數夫

從五位勳三等、陸軍航空兵大佐、陸軍航空本部第一課長
福岡縣土族
妻 ヤエ 慶應二、八生、鹿兒島、士、野間
妻 ヨシ 八太郎二女、福岡、士、小笠原
長子長女
明四、一七、二生、福岡、島田恒太郎
養子 四男

君は福岡縣土族島田耕三の四男にして明治十七年二月を以て生れ同四十四年先代ヨシの入夫となり家督を相続す同三十七年陸軍歩兵少尉に任じ爾來進出して同中佐に陞り大正十四年航空兵中佐に轉じ昭和三年同大佐に進み其間飛行第六大隊附下志津飛行學校教官同校研究部主事飛行第五聯隊長等を歴補し昭和四年現職に補せらる妹充(明二、一七)は大正府土族久松登貴治二男孝則に同冬(同三、一七)は福岡縣人石松七郎に同乙巳(同三、一七)は大分縣人福山英武に嫁し叔母マサ(同八、一〇生)は分家せり(東京市外野方町上沼袋二二二)

小笠原 菊次郎

日露木材代表取締役、共榮起業
共同洋紙、富士製紙各專務取締役
同洋紙、日本エレクト、共
同パルプ、神太鐵道、南樺鐵道、樺
太電氣、露領林業、兩龍電力、樺
北海道上在籍、露領林業、富士洋紙店、
日本加工製紙各專務取締役、共電興
業監査役、愛媛縣土族

小笠原 鑠次郎

大垣共立銀行、小倉石油、興亞起
業各專務取締役、東京府在籍
男 光 壽 明三五、一七、從七位、法學士
男 光 忠 明四〇、一〇生
男 貞子 明三五、一七、長男光雄妻、文
學博士市村環次郎長女、三輪田高
女出身

小笠原 三九郎

昌利商會社社長、オリエンタル自
動車、青南土地建物、大和護謨裁
培各專務取締役、松本喜三郎商店、
スマトラ護謨折紙各專務監査役
愛知縣在籍
妻 榮子 明二八、一七、長崎、士、菅井
男 康郎 大五、一七

君は愛媛縣人小笠原長左衛門の三男にして明治十八年四月を以て生れ大正八年兄市次郎方より分れて一家を

創立明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し臺灣銀行に入り支店支配人及調査業務審査第一課各課長に歴任し又華南銀行事務取締役に就任す現時前記諸會社の重役たり家族は尙長女壽子(大六、一一生)二男秀郎(同一、七生)三女敏子(同一、四、三、生)三男忠郎(昭二、一〇生)あり(東京、赤坂、青山南町二ノ二六電青山四五八九)

小笠原長定

子爵 舊越前藩山藩

母 富喜 明三七、九生、子爵土井利章婦
當家は甲斐守源義光の後裔大膳大夫小笠原政康の三男伊奈六郎光康の後なり世々信濃國松尾城に居し四代を経て信濃に至り徳川氏に從ひ武州本庄一萬石に封ぜらる嗣子左衛門佐信之更に越前國勝山に移り二萬三千七百石を食む九代を経て長育に至り明治十七年子爵を授けらる先々代勤一は其長男にして早稲田大學を出で貴族院議員に列し先代收四郎の後に東京外國語學校を卒業す君は收四郎の長男にして大正十四年一月を以て生れ同年十二月家督を相續し襲爵仰付けらる家族は尙姉惠美(大一二、二生)あり大叔父榮四郎(明八、五生)は細田姓を冒し同健五郎(同九、三、生)は東京府人清水榮四郎の相續人となり同六郎(同一、九、生)は福井縣士族山田つねの養子となり大叔母詮子(同六、三、生)は神奈川縣人若尾幾太郎先代義造に同爵子(同一、四、七、生)は子爵土井利章先々代利剛に續し大叔父俊久(慶應三、三、生)は柳生子爵家の當主たり(東京、牛込、袋町二五)
參照 子爵土井利章、子爵柳生俊久、細田榮四郎、若尾幾太郎、子爵土井利章の項

小笠原長生

正三位勳二等功四級、子爵、退役 海軍中將、宮中顧問官 舊肥前唐津藩

當家は兵部大輔小笠原秀政の三男壹岐守忠知の後なり忠知徳川氏に仕へ豊後國杵築四萬石を食み肥前三州吉田四萬五千石に移封せらる後七代長昌の時更に肥前唐津六萬石に移り夫より三代を経て先代長國に至る君は其世子老中小笠原長行の長男にして名村泰一の伯父なり

慶應三年十一月を以て生れ明治六年祖父長國の家督を相續し同十七年子爵を授けらる海軍兵學校を卒業して同二十年海軍少尉候補生となり大正七年海軍中將に累進す其間海軍大學校を卒業し海軍々令部出仕兼海軍大學校教官兼海軍少佐に任ぜらるる現時宮中顧問官たり日露の役に従軍し功四級に叙せらるる現時宮中顧問官尙三男長孝(大三、二生)四男善(同八、一、生)弟丁(明一、一、生、洋書家)同妻ツネ(同二五、一、生)弟丁(明一、一、生、洋書家)及其一男あり長女武子(同三二、三、生、學習院女學部出身)は子爵藤堂高寛に四女日佐子(同四一、二、生)は大坂府人佐々木八十八長男隆一に妹(同九、一、生)は海軍中將佐藤鐵太郎に嫁し二男長英(同三五、七、生)は分家せり(東京市外代々幡町幡ヶ谷九電四谷二五七)
參照 伯爵松平直之、子爵藤堂高寛、小堀桐音、佐々木八十八、佐藤鐵太郎、名村泰一、公爵徳大寺公弘、子爵池田仲誠、男爵安藤直義、渡邊直達等の項

小笠原忠幸

舊播州安志藩

當家は甲斐守源義光の末葉兵部大輔小笠原秀政の長男信濃守忠信の後なり忠信父と共に大阪の役に戦死す其子良次播州龍野六萬石に封ぜられ亦豊前中津八萬石に加増す後世轉封數次播州安志一萬石の藩主として十世を経て先々代貞字に至り明治十七年子爵を授けらる先代長不は伯爵小笠原長幹の弟にして當家を襲ぐ早稲田大學專門部政治經濟科を卒業し東京第一市立中學校法政大學商業學校講師たり君其後を幸く君實は伯爵小笠原長幹の二男にして大正四年十月を以て生れ昭和五年先代叔父長不の隱居跡を相續し襲爵仰付け父長不(明二四、三、生)養姉順子(大七、七、生)は共に分家せり(東京、牛込、小笠原町一七)
參照 子爵小笠原長幹、伯爵尙裕、伯爵伊達興宗、伯爵津輕義孝、伯爵久松定義、子爵小笠原忠幸、伯爵梅原逸太郎、安田善助の項

小笠原長幹

從三位勳二等、伯爵、貴族院議員 東京府多摩郡納稅者、舊小倉藩

從三位勳二等、伯爵、貴族院議員 東京府多摩郡納稅者、舊小倉藩 伯爵津輕義孝、伯爵久松定義、子爵小笠原忠幸、伯爵梅原逸太郎、安田善助の項

小笠原花末

邦樂座專務取締役、新歌舞伎座 舊監査役、劇場協會常任理事 東京府在籍

邦樂座專務取締役、新歌舞伎座 舊監査役、劇場協會常任理事 東京府在籍

尙 明四一、一〇生
男 守 明四三、六生
君は高知縣人小笠原氏平の二男にして明治六年六月を以て生れ同三十九年分家して一家を創立す同三十五年中央大學を卒業し實業界に入り天鹽炭礦會社支配人由多加商會專務取締役河原ホテル取締役都土地會社監査役等を経て現時前記各會社の重役たり二女登米(明三八、九生)は新潟縣人蒔田謙太養子淺野セメント會社技師工學士文雄に嫁せり(東京、麻布、龍土町七四電青山三六三三)

小笠原恒

正四位勳六等、子爵、陸軍砲兵少佐、陸軍士官學校教官 舊豐前千束藩

當家は侍從右近衛將監小笠原忠貞の四男備中守眞方の後なり眞方父の所領の中野前千束新田一萬石を分與せられ一家をなす後十世を経て先代壽長に至り明治十七年子爵を授けらる君は其男にして明治二十三年五月を以て生れ同三十五年家督を相續し襲爵す大正元年陸軍砲兵少尉に任じ累進して昭和三年陸軍砲兵少佐に陞る義に陸軍士官學校本教官同校教官同校附近衛野砲隊大隊長を歴補し昭和五年陸軍士官學校教官に補せらるる家族は尙長女芳子(大九、三、生)二男光忠(同一、〇、四、生)二女幸子(同一、一、生)三女英子(昭三、六、生)あり妹喬子(明二八、一、生)は伯爵大谷光暢叔父登瀛に嫁せり(東京市外神田上馬一五電世田谷八七四)參照 伯爵大谷光暢、伯爵久松定義、子爵久松勝親、子爵松平親義の項

小笠原滿舟

三越東京支店支店長 茨城縣在籍

君は茨城縣人小笠原高隆の長男にして明治十五年三月を以て生れ大正二年家督を相續す現時三越東京支店支店長たり家族は尙二女孝子(大一一、五、生)三男和男(昭三六、生)四男芳男(同五、四、生)あり弟清(明二四、一、生)同妻を以て同二六、九生、東京、宮澤清吉二女、一其子女を伴ひ分家し妹濱(同二八、二、生)は福島縣士族小澤榮弟成武に嫁せり(A七八〇)(京都、上京、衣通)

小笠原幸彦

信濃日日新聞社長兼主筆 長野縣在籍

君は東京府人中村新吉の二男にして明治二十二年九月を以て生れ大正三年結核病を患ふに早稲田大學政治經濟科及英語法律科を卒業し直ちに日本石油會社に入り大正七年マニラに渡航し歸朝後同九年長野商業會議所書記長に擧げられ同十四年信濃日日新聞社長兼主筆に就任して今日に及ぶ家族は尙長女彌栄子(大八、一、二、生)あり(長野市縣町四六)

小形留吉

從五位勳五等、臺南第二中學校長 山形縣在籍

君は山形縣士族金子宮吉の弟にして明治十二年四月を以て生れ幼にして先代嘉七の養子となり同三十四年家督を相續す同三十八年東京高等師範學校數物化學部を卒業し同年新潟縣立長岡中學校教諭兼長岡女子師範學校教諭となり爾來茨城縣立龍ヶ崎中學校宮崎縣立龍ヶ崎中學校教諭兵庫縣立伊丹中學校校長兼教諭臺南師範學校教諭に歴任し昭和二年臺南第二中學校長に任じ今日に至る家族は尙長女新子(大九、一、生)二女美代(同一、二、五、生)あり(臺南第二中學校)

小川郁三

小川商店名出資社員 大阪府在籍

君は大坂府人小川安兵衛の二男にして明治二十九年一月を以て生れ大正十年兄讓一方より分れて一家を創立す現に合名會社小川商店出資社員たり家族は尙二男欣三(昭二、一〇、生)あり(大阪、東淀川、十三南之丁七八電北三五六〇)參照 井内佐内、小川讓一の項

小川一郎

東京鐵道 市太郎 慶應元、三生、現戶主

東京鐵道 市太郎 慶應元、三生、現戶主

小川市太郎

昭和本地運代表取締役、小川市太郎鐵道各種取締役、東京府在籍

君は東京府人小川市太郎の長男にして明治三十二年九月を以て生れる銅鐵商を營む家族は尙長女若子(大一一、一、生)二女淑子(昭四、八、生)あり(東京、神田、東福町二)參照 小川市太郎の項

小川梅三郎

正三位勳二等、工學博士、京都帝國大學名譽教授、東京府在籍

君は愛知縣人小川庄七の三男にして文久二年九月を以て生れ明治二十二年兄健次郎方より分れて一家を創立す同十九年東京帝國大學工學部土木工學科を卒業し同二十一年帝國大學助教授に任ぜられ同二十九年土木工學研究の爲英米兩國に留學す同三十一年京都帝國大學理工科大學教授に任じ翌年工學博士の學位を授けらる現時同大學名譽教授たり二男清二(明二六、九、生)、工學博士三菱航空機會社古屋製作所勤務(同妻、同三三、一、生)、滋賀、菟田勸兵衛(共に分家し長女輝(同三〇、二、生)は石川縣人永井匠三男工學士南滿洲鐵道會社技師三郎に二女婚美(同三三、七、生)は滋賀縣人菟田勸兵衛弟工學士東洋紡績會社技師爲三に三女秋(同三六、九、生)は奈良女子高等師範學校校長橋山榮次二男理學士京都帝國大學教授次郎に四女秀(同三九、二、生)は理學博士小川琢治長東北大學助教授工學士芳樹に嫁せり(京都、上京、田中大塚町七)參照 小川一清、小川琢治、橋山榮次、菟田勸兵衛

養子 武夫 明三、六生、二女滿喜夫、東京
 女 滿喜 明二七、一一生、養子武夫妻
 君は岡山縣人小川清吉の二男にして安政二年四月を以て生れ明治八年分れて一家を創立す現時前記會社の重役たり家族は尙孫新吾(大八、九生、養子武夫長男)同公子(同一三、七生、同長女)同登代子(昭五、一一生、同二女)あり三女滿喜(明三九、二生)は神奈川縣人筆谷彌三郎に嫁し長女チヨ(同二三、五生)は分家せり(東京、小石川、原町一六)

小川 澄夫 高知商工會議所副頭、高知教育
 品徳社長、土佐同盟汽船監査役
 高知縣士族
 男 如道 明一八、一一生、高知、土、野村靖
 女 典子 在學 明四一、一一生、明治藥學專門學校
 君は高知縣土族岡本幸實の弟にして明治十一年十一月を以て生れ先代澄門の養子となり大正元年家督を相続す現に前記會社の重役にして推されて高知商工會議所副頭たり家族は尙四男領夫(大二、一一生)五女順子(同一二、三三)五男裕(同一三、九生)六女如子(同一五、三三)あり長女壽美子(明三九、三三)は和歌山縣人野尻貞一長男貞雄に嫁せり(高知市本町筋一三七)

小川 清次 新潟縣在籍
 男 浩一 大一〇、四生
 君は新潟縣人小川清吉の三男にして明治二十四年十月を以て生れ同四十二年兄敬治郎の後に承け家督を相続す大正六年東京帝國大學醫學部を卒業し内科醫師たり義に醫學博士の學位を授けらるる家族は尙二男信次(六一、二、六生)長女節子(昭三、五生)妹キヨシ(明二八、一一生)同夫喜一(同三〇、一〇生、新潟、矢尾六平弟)及其二子あり(東京市外濠谷町金王二電番山七六五二)

小川 清之輔 新潟縣多額納税者、六十九銀行、
 長岡貯蓄銀行、北越製紙、東京英
 大小、青島洋行、詳滿開拓各取
 締役、北越水力電氣監査役、吳
 服商、新潟縣在籍
 男 清一郎 明三六、三三
 女 千世子 明三九、一〇生
 君は新潟縣人小川清松の五男にして明治十三年六月を以て生れ大正三年家督を相続し前名清吉を改む吳服商を營み現時長岡貯蓄銀行取締役たる外前記諸銀行會社の重役を兼ね同縣多額納税者にして直接間接三十三百六十八圓を納む義に長岡拓殖製水各會社の重役たりし事あり家族は尙四男正巳(六元、九生)二女清子(昭二、五生)三女友子(同三、九生)五男昭之(同五、四生)あり(長岡、表四ノ町)

小川 清之助 龍甲裝身具雜貨化粧品商
 東京府在籍
 男 專助 明三、一一生、東京、鈴木三郎養子
 女 梅子 明二六、一〇生、東京、柿沼谷藏
 君は東京府人小川清之助の兄にして明治二十二年二月を以て生れ後伯父專助の養子となり大正六年家督を相続す

小川 善助 吳服商
 熊本縣在籍
 男 善助 明三一、一〇生、熊本、小野又太
 女 誠子 大一、五生
 君は熊本縣人小川三太郎の長男にして明治二十六年十一月を以て生れ同二十八年家督を相続す吳服商を營む家族は尙三男芳夫(六一、四、二生)長女令子(昭二、七生)あり姉フツ(明二〇、一〇生)は熊本縣人宮崎直八長男稔八に同アサ(同二四、二生)は同縣人齋藤常長男泰吉に嫁せりA一八六五B五三八(熊本市洗馬町二電八六一)

小川 善太郎 帝國汽船取締役
 和歌山縣在籍
 男 善太郎 安政五、五生、和歌山、直井利助
 女 道子 明二四、一一生、大阪、大田憲之養
 君は和歌山縣人小川常三郎の二男にして明治十九年五月を以て生れ後小川長藏の養子となり昭和三年分れて一家を創立す現時日本商工會社取締役たり家族は尙長女作子(大八、一一生)あり(大阪、泉北、高石町)

小川 睦之輔 從四位勳三等、醫學博士、京都帝
 國大學教授、醫學部勤務
 大阪府在籍
 男 睦之輔 慶應三、三三、東京、鈴木善平養
 女 加子 明二四、六生、京都、近藤吉右衛
 君は大阪府人小川爲次郎の長男にして明治十八年十一月を以て生れ大正十五年家督を相続す明治四十二年京都帝國大學醫學部大學を卒業し大正二年同大學助教に任じ同八年醫學博士の學位を受く義に解剖學研究の爲め英米瑞各國に留學し歸朝後京都帝國大學教授となり現に其官職に在り家族は尙二女壽子(六七、三三)あり(京都、左京、鹿ヶ谷宮前八八電番上五五九)

小川 忠示 從七位勳六等功五級、農業
 千葉縣在籍
 男 忠示 嘉永元、一一生、千葉、松原嘉兵衛
 女 雪子 明二六、一一生、千葉、外山恂妹
 君は千葉縣人小川正吉の二男にして明治十一年五月を以て生れ大正十年家督を相続す農業を營む二女ます(明三七、七生)は茨城縣人橋原清衛長男直衛に三女は(同四〇、一〇生)は千葉縣人木内伸之助三男銳に五女あり(同四三、一〇生)は同縣人楢垣和夫二男兼三に嫁せり(千葉、山武、日向村)

小川 忠藏 正五位勳四等、神戸商業大學附屬
 醫學專門部教授、宮城縣在籍
 男 忠藏 嘉永五、五生、岩手、平戸貞藏三
 女 忠恵 明四〇、一〇生、法學士
 君は千葉縣人小川正吉の三男にして明治十三年十一月を以て生れ同四十二年家督を相続す味噌醬油醸造業を營み現に前記銀行の重役たり長女イチ(明三四、六生)は新潟縣人三井田彦司郎に三女サイ(同三八、六生)は滋賀縣人草野眞五に四女カト(同三九、七生)は新潟縣人薄田七郎に嫁し妹カト(同二〇、四生)は其一女を伴ひ分家し弟長太郎(同二一、八生)同妻シヨ(同二六、五生、新潟、太田善六二女)も亦其一女を伴ひ分家せりA九二九B二二九九(新潟市東堀通一番町電二七八)

小川 爲助 日本商工總取締役
 大阪府在籍
 男 爲助 門二八、七生、廣島、麻生唯右衛
 女 ナカツ 門二八、七生、廣島、麻生唯右衛

小川 種太郎 新潟興業貯蓄銀行監査役、味噌
 醬油醸造業、新潟縣在籍
 男 種太郎 明四四、八生
 君は新潟縣人小川佐太郎の三男にして明治十三年十一月を以て生れ同四十二年家督を相続す味噌醬油醸造業を營み現に前記銀行の重役たり長女イチ(明三四、六生)は新潟縣人三井田彦司郎に三女サイ(同三八、六生)は滋賀縣人草野眞五に四女カト(同三九、七生)は新潟縣人薄田七郎に嫁し妹カト(同二〇、四生)は其一女を伴ひ分家し弟長太郎(同二一、八生)同妻シヨ(同二六、五生、新潟、太田善六二女)も亦其一女を伴ひ分家せりA九二九B二二九九(新潟市東堀通一番町電二七八)

小川 武次 正四位勳四等、子爵、豫備陸軍少
 將、東京府華族
 男 武次 明二五、三三、男爵伊地知精姉
 女 能利子 大四、一一生
 女 茂登子 大五、三三
 當家は先代又次より家名を揚ぐ又次は舊小倉藩士にして慶應二年長藩の兵と戦つて武功あり維新後軍籍に入り明治七年陸軍大尉を以て臺灣征討の軍に従ひ征南の役に就く熊本城を固守す日清の役陸軍少將第一軍參謀長として從軍し勳功を以て華族に列し男爵を授けらるる露の役陸軍中將第四師團長として第二軍に隨し偉勳を樹て凱旋後陸軍大將に進み功二級に叙し子爵に陞さる君は其二男にして明治十七年一月を以て生れ同四十二年襲爵す陸軍士官學校を卒業して同三十七年陸軍歩少尉に任じ累進して大正十一年同少佐に陞り同十三年豫備役に編入せらるる家族は尙三女武子(大九、一一生)あり弟登次(明一八、一一生)は其一女を伴ひ分家し同徳次(同二〇、二生)も亦分家せり(東京市外大久保町東大久保二二電番四六九九)

小川 梅三郎 小川一清、阪田八十郎、横山榮
 次、澁田勘兵衛の項
 參照 小川梅三郎、小川一清、阪田八十郎、横山榮次、澁田勘兵衛の項

小川 琢治 正三位勳二等、理學博士、帝國學
 士院會員、學術研究會會員、地
 質地理學部、京都帝國大學名譽
 教授、京都府士族
 男 琢治 明三九、二生、長男芳樹妻、東京
 女 芳樹 明三三、五生、文學士
 男 秀樹 明四〇、一〇生、理學士
 男 環樹 明四三、一〇生
 君は和歌山縣土族淺井篤の二男にして明治三年五月を以て生れ先代駒橋の養子となり大正三年家督を相続す明治二十九年帝國大學理學部大學地質學科を卒業し更に大學院に學ぶ同三十年農商務省技師に任じ同三十三年佛國に出張を命ぜられ歸朝後再度佛國に差遣せられ同三十七八年戰役に際しては滿洲に出張すること同後又同島統監府出張所に派遣せられ同四十二年京都帝國大學教授に轉じ地理學を講じ支那に出張すること前後五回同四十二年理學博士の學位を受く大正八年歐米各國に出張仰付けられ歸朝後理學部に轉じ地質學を講じ義に理學部長にして學術研究會會員たり昭和五年官を辭し京都帝國大學名譽教授に擧げられ又帝國學士院會員たり考古學に造詣深く殊に支那通を以て知らるる人文地理學研究地質現象の解釋支那歴史研究等の著書あり家族は尙五男滋樹(大二、八生)孫周子(昭三、一一生)長男芳樹長女あり長女香代(明二八、一〇生、府立第一高女專科出身)は東京府人小川一清に二女妙子(同三二、七生、出身校同上)は兵庫縣人工學士武居高四郎に嫁し(京、上京、寺町通今出川上ル西入ル二丁目毘沙門町四六七電上九九〇八)

女 せつ 明四四、一〇生、兵庫縣立第一高等女学校出身

女 美都 大二、二生

君は宮城縣人小川忠八の長男にして明治七年十二月を以て生れ同三十四年家督を相続す米國オハヨ州オベリン大學に入りバチエラー・オブ・アーツの稱號を受け尋でハーバード大學に入りマスター・オブ・アーツの稱號を受く義に神戸高等商業學校教授たりしも昭和四年神戸商業大學附屬專門部教授兼神戸商業大學學生主事に任ぜらるる家族は尙二男泰憲(大四、三三)三女律(同六、一一)四女安都(同十一、一五)五女郷都(同十二、二二)あり(神戸、上筒井通二ノ三)

小川長右衛門

妻 マツ 慶應二、一〇生、秋田、千葉久兵衛五女

男 辰之助 明二八、六生

女 トヨ 明二六、七生

君は秋田縣人先代長右衛門の長男にして安政六年六月を以て生れ明治三十七年家督を相続す前名多郎吉を改め製糖現時前記銀行會社の重役にして縣下の多額納税者に列し直接國稅一萬六千九百十五圓を納む家族は尙孫多郎吉(大二三、八生、長男辰之助長男)同治(昭三、九生、同二男)あり三女律(昭三二、一一)生)は秋田縣人小川四郎右衛門に嫁し妹ユキ(同六、一〇)生)は同夫兵藏(同元、三三)生、秋田、藤本太郎叔父)と共に其二子を伴ひ分家せり(秋田、雄勝、湯澤町)

小川貞一

妻 チマ 興二女

男 貞美 明三三、六生

男 貞昭 明四〇、一〇生

男 貞夫 明四二、九生

君は長崎縣人小川貞政の長男にして明治四年七月を以て生れ大正八年家督を相続す明治三十年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し實業界に入り現時前記諸

小川貞一

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川鐵五郎

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川平助

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川方成

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川正義

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川正行

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川誠

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

女 美都 大二、二生

君は宮城縣人小川忠八の長男にして明治七年十二月を以て生れ同三十四年家督を相続す米國オハヨ州オベリン大學に入りバチエラー・オブ・アーツの稱號を受け尋でハーバード大學に入りマスター・オブ・アーツの稱號を受く義に神戸高等商業學校教授たりしも昭和四年神戸商業大學附屬專門部教授兼神戸商業大學學生主事に任ぜらるる家族は尙二男泰憲(大四、三三)三女律(同六、一一)四女安都(同十一、一五)五女郷都(同十二、二二)あり(神戸、上筒井通二ノ三)

小川貞一

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川鐵五郎

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川平助

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川方成

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川正義

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川正行

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川誠

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川正義

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

小川正行

妻 ナナ 明一〇、五生、東京、木村仙吉長

男 正夫 明三八、九生、慶大法律科出身

君は東京府人小川正治の長男にして明治四年三月を以て生れ同三十四年家督を相続す兄に石川島造船所に入り漸次果進して取締役に擧げられしも現時之を辭し前記各會社の重役たり曾て東京實用自動車會社監査役たりし事あり長女喜久(明三一、一〇)生、實業女學校出身)は宮崎縣人黒田傳三郎に二女貞子(同三三、七生、山崎高女出身)は東京府人見吉彦に嫁せり(東京、四谷、舟町二)電話四三三七四六

納め現時九十九里軌道會社取締役たり又東金町長に擧げらるる家族は尙二男秀民(六九、五五)三女清子(同一〇、九生)三男長三(同一三、一五)四男安正(同一四、一〇生)五男吾郎(昭三、八生)あり妹おれい(同一三、五、二生)は千葉縣人小川文男に同嫁(昭三、八、九生)は奈良縣人玉置クラ養子本弘に嫁せり(千葉、山武、東金町)

小川 政七

電話買賣並金融業 愛知縣在籍 妻 壽子 昭三、八生、愛知、佐藤愛信養子

君は愛知縣人先代政七の庶子にして明治三十五年八月を以て生れ昭和三年家督を相続し前名正一を改め現名才電話買賣並に金融業を営む家族は尙二男孝治(昭四、九生)あり養姉はま(昭二、七、一〇生)は其一女を伴ひ分家し姪延子(同一三、八生、養姉はま私生子)は愛知縣人小川やくの養子となり甥源雄(同一五、一〇生、同私生子)は同縣人小川延三の相續人となれり(名古屋、東、富澤町三ノ三電一五〇五)

小川 政修

正四位勳二等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務 妻 圭子 昭三、八生、愛知、伊藤篤太郎

君は石川縣人小川政成の長男にして明治八年九月を以て生れ同三十五年家督を相続し前名得義を改め同三十六年東京帝國大學醫學科を卒業し京都帝國大學醫學科大學助教授に任じ醫學研究の爲獨佛に留學し尋て九州帝國大學醫學科大學教授に任ぜられ現在に至る大正三年醫學博士の學位を受く又義に同大學附屬圖書館長たり昭和三年學術視察のため歐洲に出張す著書「自然科學者としてのゲエテ」(住血原論)「碧集」(細菌學概論)あり家族は尙三男政敏(大三、一〇生)あり妹兼(昭二、四生)は香川縣人醫學士矢野修吉に嫁し弟物成(同一三、七生)は其妻子を伴ひ分家せり(福岡市地行西町二)

小川 茂七

紅谷支店、菓子商 妻 秀吉 昭三、八生、東京、西岡勳二

君は山形縣人淺倉茂左衛門の七男にして明治六年三月を以て生れ同三十年先代つるの入夫となり家督を相續す紅谷支店と稱し菓子商を営み知らるる家族は尙孫和子(大、一四、三、長男秀吉長女)同安江(同一五、七、生、同二女)同憲以子(昭三、一、一〇生)あり四男壽三郎(昭三、八、八生)二女愛子(昭四、一、五、生)同夫佳二(昭三、二、一、二、生、長男、横澤繁太郎二男)は其一女を伴ひ各分家し長女とく(昭三、〇、七、生)は東京府人穂積峯三郎養子一郎に嫁せり(東京、牛込、肴町二九電牛込二五七〇)

小川 彌四郎

函館市會議員、東邦水産株式會社役員、石川縣在籍 妻 彌八郎 昭三、八生、石川、寺井文左

君は石川縣人先代彌四郎の庶子にして明治二十一年一月を以て生れ大正三年家督を相続し前名又作を改め現名才現時小川合名會社代表社員にして前記會社の重役を兼ね函館市會議員たり家族は尙四女千鶴子(大九、七、生)五女澄(同一二、五、生)六女久和子(昭三、七、生)あり弟富藏(昭二、八、六、生)同妻ハナ(同一二、九、一、生、北海道、秋葉金次郎孫)は其子女を伴ひ分家し弟彌吉(同一五、八、生)妹ヤス(同一六、一、一、生)も亦各分家せり(函館、天神町五七電一九六〇) 參照 彌三郎 彌三郎 彌三郎 彌三郎 彌三郎

小川 彌太郎

三井物産青島支店長 妻 彌八郎 昭三、八生、石川、寺井文左

小川 正雄

大正、一、生 妻 美輪 昭三、八生、廣島、正親町支秀

君は東京府人小川マサの長男にして明治十八年二月を以て生れ同二十年家督を相続す同三十八年東京高等商業學校を卒業し三井物産會社に入り門司關新嘉坡盤谷神戸各支店出張員本店發肥部長代理業務課參事發肥掛主任を経て昭和三年青島支店長となり現在に至る家族は尙二男正彌(大、六、一、生)長女ゆき子(昭八、一〇、生)あり三男彌三郎(同一、一、一、生)は東京府人矢澤彌六の養子となれり(青島、三井洋行内)

小川 安太郎

正八位、醫學博士、陸軍三等軍醫 妻 美輪 昭三、八生、廣島、正親町支秀

君は德島縣人河崎虎雄の男にして明治二十七年二月を以て生れ先代マサの養子となり大正八年家督を相続す同年京都帝國大學醫學部を卒業し同年一年志願兵として歩兵第四十三聯隊に入營し陸軍三等軍醫に任ぜられ續々調練會社社長に就任現時津市立病院内科部長にして昭和二年醫學博士の學位を授けらるる家族は尙二男孝徳(大、一、三、一、二、生)三男美彦(同一五、六、生)あり三〇〇(津、愛宕町上沼一ノ一電四二二)

小川 保藏

取締役、大阪府在籍 妻 光榮 昭三、七、生、京都、曾我部了吉

君は大正六年六月吉次郎より分家して明治二十一年九月を以て生れ大正六年兄清次郎より分家して一家を創立す現時株式會社鹽野商店に勤務し前記會社の重役たり家族は尙長女秀子(大、七、一、二、生)三女榮子(同一、一、八、生)あり(大阪、豊能、池田町一六四一電六六九)

小川 保藏

取締役、大阪府在籍 妻 光榮 昭三、七、生、京都、曾我部了吉

小川 弘道

從五位勳五等、京城高等工業學校教授兼朝鮮總督府視學官 妻 弘人 昭三、八、生、長野、白井徳三郎

君は長野縣人北村誠義の二男にして明治十二年三月を以て生れ先代弘六の養子となり大正三年家督を相続す明治四十年京城高等工業學校附設工業教員養成所建築科を卒業し山形縣立工業學校附設同工業學校各教諭を経て現時京城高等工業學校教授兼朝鮮總督府視學官たり家族は尙三女しづ(大、六、二、生)三男清三(同一、二、五、生)あり(京城、京城高等工業學校内)

小川 清太郎

大阪堂島米穀取引所取引員 妻 休太郎 昭三、八、生、香川、植松勝三

君は兵庫縣人小川休太郎の長男にして明治二十三年六月を以て生れ昭和二年家督を相続す現時大阪堂島米穀取引所清算部正米部取引員たり家族は尙長女義子(大、七、七、生)二女幽香子(同九、九、生)三女浩子(同一、五、二、生)二男秀正(昭三、一、一、生)あり(大阪、北、堂島濱通一ノ九四電北三二二)

小川 正儀

從五位、拓務書記官、朝鮮部第一 妻 末子 昭三、五、生、山口、土、小田伴

君は大分縣人合屋家次の三男にして明治二十七年十二月を以て生れ先代源一の養子となり大正五年家督を相續す同七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し和歌山縣屬に任じ文官高等試験に合格し内務省同縣警視

小川 吉鷹

川崎第百銀行總務支店長 妻 幹雄 昭三、八、生、兵庫、菊名完良妹

君は東京府人小川亮の二男にして明治九年四月を以て生れ大正十一年兄文雄より分家して一家を創立す明治三十六年慶應義塾理財科を卒業し現時川崎第百銀行總務支店長たり長女澄(昭四、二、一、生)は長野縣人赤羽二郎に嫁せり(東京市外杉並町阿佐ヶ谷小山三〇)

小川 芳太郎

正五位勳六等、桐生高等工業學校教授、東京府在籍 妻 芳太郎 昭三、八、生、富山、米生彦三

君は東京府人小川駒吉の長男にして明治十四年四月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四十二年東京帝國大學工科大学機械科を卒業し大正五年桐生高等工業學校教授に任ぜられ同九年官制改正に依り桐生高等工業學校教授となり今日に及ぶ(東京、小石川、第六天町一八)

小川 理太郎

京濱住宅專務取締役 妻 武 昭三、八、生、神奈川、中山中右

君は香川縣人小川辨之助の長男にして明治二十年三月を以て生れ同二十五年家督を相続す同四十五年慶應義塾理財科を卒業し現時京濱住宅專務取締役たり家族は尙長女輝子(大、六、七、生)二女雅子(昭八、四、生)三女文子(同一、四、二、生)あり(東京市外東區布町下沼部四二ノ二電田園調布四〇)

小川 龍

從四位勳二等功五級、海軍中將、海軍省警務局長、東京府在籍 妻 とき 昭三、八、生、東京、田中辰三姉

關東廳事務官兼同參事官關東廳警視廳總督府書記官... 小川 録郎 大日本麥酒會社員

小川 録郎 大日本麥酒會社員 東京府士族 明一七、一〇生、故工學博士辰巳

小川 徳太郎 帝國實業倉庫支配人 東京府在籍 明一四、一〇生、大阪、小野十作長

小川 市郎 長野縣多額納稅者、諏訪生絲採取 長野縣在籍 明二七、八生、長野、筒井濱十郎

妻 明二五、七生、長野、藤森市藏長 女 康郎 大七、二生 女 みち子 大七、二生

小川 卯之吉 長野縣多額納稅者、製絲業 長野縣在籍 明一七、一二生、長野、小口村吉

小川 勝太郎 長野縣多額納稅者、諏訪瓦斯採取 長野縣在籍 明二八、一〇生、長野、小松龜藏

小川 修一 長野縣多額納稅者、金山製絲、片倉生命保險、富國火災海上保險各 長野縣在籍 明一五、一〇生、長野、小口善重姉

妻 貞子 大七、一〇生 女 ひる 大五、一〇生 君は長野縣人小口清助の長男にして明治二十年十二月

小川 金吾 長野縣多額納稅者、金山製絲、監 長野縣在籍 明二七、八生、長野、重盛富士太

小川 圭吉 金山製絲、諏訪自動車各社社長、 長野縣在籍 明二〇、一〇生、長野、上條孝次

小川 仙重 長野縣多額納稅者、製絲業 長野縣在籍 明二五、一〇生、長野、小口今朝 妻 登夫 大七、二〇生

小口 今朝吉 長野縣多額納稅者、太平洋海上火 災保險、大邱精米各採取納稅、製 絲業、長野縣在籍 明二七、八生、長野、筒井濱十郎

小口 今朝太郎 長野縣多額納稅者、丸萬製絲、岡 谷乾瀧委託各採取納稅、製絲業 長野縣在籍 弘化二、二生、長野、小口重右衛 門三女

小口 重吉 長野縣多額納稅者、製絲業 長野縣在籍 明一四、二生、長野、増澤耕作長 妻 はまえ 明三九、三三 男 保重 明四三、一二生

小口 重太郎 長野縣多額納稅者、山十製絲採取 長野縣在籍 明三一、五生、長野、坂井直 妻 喜美尾 明三、七生 男 裕康 明三、七生

小口 善重 長野縣多額納稅者、岡谷乾瀧委託 長野縣在籍 弘化二、二生、長野、小口重右衛 門三女

小口 重太郎 長野縣多額納稅者、山十製絲採取 長野縣在籍 明三一、五生、長野、坂井直 妻 喜美尾 明三、七生 男 裕康 明三、七生

小口 善重 長野縣多額納稅者、岡谷乾瀧委託 長野縣在籍 弘化二、二生、長野、小口重右衛 門三女

あり姉やすの(同一五、一五)は長野縣人小口修一に嫁し弟卷太(同一八、五五)同三平(同一〇、六六)は各分家し同秀男(同一三、八八)經濟學士も亦分家し福島縣人齊藤利助五女ヲル(同三八、二五)を迎へ(弟六郎(同三四、一〇)生、商學士)は長野縣人小口さきの入夫となれり(長野、諏訪、平野村)

小口 大 信濃製絲總代表取締役、大邱精米(逕取) 母 明九、三三、長野、有賀光豊 君は長野縣人小口權之助の長男にして明治二十九年二月を以て生れ大正六年家督を相續す現時信濃製絲會社代表取締役の外前記會社の重役たり家族は尙ほ弟大次(明三一、一五)同三藏(同三五、七五)妹國恵(同三七、九五)弟光男(同四〇、二五)あり妹美津恵(同三三、五五)は山形縣人田中一松に嫁せり(長野、諏訪、平野村) 參照 有賀光豊、濱田邊朝郎の項

小口 忠太 正五位勳三等、退役陸軍三等軍醫 妻 ハル 明二四、三三、愛知、石原道茂 母 明三三、三三、長野、有賀光豊 君は長野縣人小口定平の長男にして明治八年一月を以て生れ同二十四年家督を相續す現醫學を修め醫學博士の學位を受け愛知縣醫學大學に推され現時名古屋大學教授たり日清日露戰役に従軍し明治四十五年より大正三年迄歐洲に留學し同十三年視察の爲め再度洋行す家族は尙ほ長男忠夫(昭五、一五)長男忠夫長男あり三女博子(昭四、一五)は長野縣人小口莊次郎の養子となれり(名古屋、中、御器町吹上) 參照 三五六〇 參照 吉澤一磨の項

小口 友龜 長野縣額納稅者、諏訪生絲總取 妻 しの江 明一四、七五、長野、士、中澤正 母 明三三、九五 君は長野縣額納稅者、諏訪生絲總取、片倉製絲紡績總監査役、醸造業、長野縣在籍

婦 みの 明三七、七五、長男守一妻、長野 男 新彌 明三七、一五 君は長野縣人小口一郎の長男にして明治六年十二月を以て生れ同二十一年家督を相續す醸造業を營み傍ら前記會社の重役に擧げられ長野縣額納稅者にして直接國稅千六百五圓を納む家族は尙ほ四男富夫(大三、一五)孫八重(昭二、四三)長男守一(長女)同隆也(同四、七五)同長男あり弟繼衛(明一〇、五五)は長野縣人溝口さきの養子となり同源一(同二〇、七五)は同妻小葉留(同二七、二五)長野、一ノ瀬(五六五)と共に其六子を伴ひ分家せり(長野、諏訪、下諏訪町) 參照 矢崎源藏の項

小口 卷太 德島縣額納稅者、阿波鐵道總取 妻 カメノ 明二一、九三、德島、中川虎之助 母 明三三、三三 君は長野縣人小口善重の弟にして明治十八年五月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す製絲業を營み傍ら前記銀行會社の重役に擧げられ直接國稅一萬三千五百圓を納め德島縣額納稅者たり家族は尙ほ三女三子(大六、一〇)生(二男三子)同九、一〇(四女)同四、二(一)生(三男)同三、一〇(一)生(四男)同四、二(一)生(德島、名東、加茂町電五三四) 參照 小口善重、小口修一の項

小口 宗雄 岡谷製絲總代表取締役、製絲業 妻 金三郎 明六、五五、現戸主 母 はな 明三二、一五、長野、三井重次郎 父 明三三、一五 君は長野縣額納稅者小口金三郎の長男にして明治三十二年十二月を以て生れ製絲業を營み岡谷製絲會社代表取締役たり家族は尙ほ二女博子(大一一、二五)三女順子(昭三、四三)四女美代子(同四、一五)弟男登司(明三六、九三)同妻靜子(同三八、五五)福岡、下川

小口 融四郎 關東製絲總社社長 妻 キン 明四二、七五、栃木、宮田國次郎 母 明四二、七五 君は栃木縣人先代融四郎の長男にして明治二十八年八月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名一郎を改め號名す現に關東製絲會社社長たり家族は尙ほ長女アサ(大一一、一五)妹みち(明三三、二五)同夫榮(同三三、四一)生、栃木、伴榮三郎五男及其一女子あり妹マリ(同三六、四三)は栃木縣人上野正三に嫁せり(栃木、那須、大田原町) 參照 小口卯之吉、小口金吾、小口重吉、小口仙重、小口今朝太郎の項

小口 村吉 長野縣額納稅者、山十製絲總社 妻 とみ 明一八、一五、長野、小口金吾 母 明三六、九三 君は長野縣人先代村吉の二男にして明治十一年十月を以て生れ大正六年家督を相續し前名崎次郎を改め號名す製絲業を營み傍ら山十製絲會社社長にして前記會社の重役を兼ね直接國稅一萬二千六百八十七圓を納め縣下の多額納稅者に列す義に山十土地會社社長たりし事あり家族は尙ほ四男正晴(大三、六五)五男定重(同六、七五)二女弘子(同二〇、五五)孫順一郎(昭二、九三)長男幸重(長男)同惠子(同三、一〇)生、同長女(同長女)同雄康(同五、八五)二男登志男(長男)あり長女みな(同四、七五)は長野縣人小澤周一郎に嫁し(同七一、一五)生(一)生(同縣人小口卯之吉に嫁し)兄重吉(同八、一五)生(一)生(同縣人小口次郎吉の後に相續し)弟仙重(同二二、一五)は分家せり(長野、諏訪、平野村) 參照 小口卯之吉、小口金吾、小口重吉、小口仙重、小口今朝太郎の項

小倉 喜一 日本毛織總取締役兼製造部長、昭 妻 エフ 明二〇、一五、栃木、飯塚彌平 母 文久二、一五、栃木、飯塚彌平 父 文久二、一五、栃木、飯塚彌平 君は栃木縣人小倉方七の長男にして明治十七年五月を以て生れ昭和五年家督を相續す現時日本毛織會社取締役兼製造部長たる外前記會社の重役たり家族は尙ほ二男武(大元、一五)あり妹ミキ(明二三、一五)は栃木縣人木村與平次長男興治に同チカ(同二五、三三)は同縣人宇加地太十郎長男喜衛に同フミ(同三二、四三)は同縣人平石六郎長男昌三に同ユキ(同三五、一五)は同縣人稻見永六郎孫順之に同ユキ(同三一、一五)は同縣人稻見永六郎孫順之に同ユキ(同三一、一五)は同縣人牛田捨三郎に嫁し(同三〇、三三)は同縣人宇津權右衛門の養子となれり(同三三、七〇) (神戸、東須磨稻葉四ノ一) 參照 宇津權右衛門の項

小倉 菊太郎 大阪電氣廣告社代表社員、大阪 妻 ナナ 明四三、三三 母 明四三、三三 父 明四三、三三 君は大阪府人小倉方七の長男にして明治十七年五月を以て生れ昭和五年家督を相續す現時日本毛織會社取締役兼製造部長たる外前記會社の重役たり家族は尙ほ二男武(大元、一五)あり妹ミキ(明二三、一五)は栃木縣人木村與平次長男興治に同チカ(同二五、三三)は同縣人宇加地太十郎長男喜衛に同フミ(同三二、四三)は同縣人平石六郎長男昌三に同ユキ(同三五、一五)は同縣人稻見永六郎孫順之に同ユキ(同三一、一五)は同縣人稻見永六郎孫順之に同ユキ(同三一、一五)は同縣人牛田捨三郎に嫁し(同三〇、三三)は同縣人宇津權右衛門の養子となれり(同三三、七〇) (神戸、東須磨稻葉四ノ一) 參照 宇津權右衛門の項

小倉 東 鹿兒島縣額納稅者 妻 ニ 明二九、一五、鹿兒島、山崎清 母 明二九、一五 父 明二九、一五 君は鹿兒島縣人小倉俊一の弟にして明治二十三年八月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す豪商にして縣下の多額納稅者たり家族は尙ほ二男東次(大元、一五)長女富美子(同八、五五)二女芳子(同九、八五)三男三郎(同一一、一五)四女ミヨ子(同一四、八五)四男東兵衛(同一四、九三)五女幸子(昭二、九三)あり(鹿兒島市馬居町) 參照 中江種造の項

小限長左衛門 佐賀縣額納稅者、農業 妻 ミツ 萬延元、一五、養父長左衛門二女 母 藤右衛門 明一六、九三 父 藤右衛門 明一六、九三 君は佐賀縣人西岡徳助の弟にして文久元年三月を以て生れ先代長左衛門の養子となり明治十七年家督を相續し號名す農を業とし佐賀縣額納稅者として知られ直接國稅三千二十一圓を納む長女キキ(明一一、一五)は接納縣人八中兵衛に二女ナナ(同二四、一五)は同縣人川久保與吉三男藤吉に二女ササ(同二六、三三)は同縣人古賀倉治に嫁し二男太八(同三三、八五)は同縣人吉永ニチの入夫となれり(佐賀、西松浦、二里村) 參照 西岡幸兵衛の項

小熊 幸一郎 北海道額納稅者、辨天倉庫總社 妻 タマ 明二八、六三 母 明二八、六三 父 明二八、六三 君は北海道額納稅者、辨天倉庫總社、函館製糖會社、函館製粉會社、函館製油會社、北海道銀行、北海道商會、千代田信託、各種取締役、小倉倉庫總取締役、問屋業、北海道在籍

小熊 信藏 中野硬質硝子製造所、硝子製造業 妻 ツイ 明一八、一〇、東京、高橋宇四 母 明一八、一〇 父 明一八、一〇 君は東京府人小倉信一の二男にして明治十一年十二月を以て生れ大正四年家督を相續す中野硬質硝子製造所と稱し硝子製造業を營む家族は尙ほ妹イツ(明二一、一五)あり(東京、市外香取町小村井八七八電田九二五) 參照 小倉幸一郎の項

小熊 捍 正五位勳四等、農學博士、北海道 妻 エン 明二八、一五、東京、佐藤信何長 母 明二八、一五 父 明二八、一五 君は東京府人小倉信一の三男にして明治十八年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治十四年東京帝國大學農學部農學科を卒業し大正二年東京帝國大學農學部農學科に任じ同八年農學博士の學位を授けられ北海道帝國大學教授に任じ現に理學部勤務及農學部兼務にして動物細胞學組織學應用動物學専攻を擔任す家族は尙ほ弟峻(明二五、一五)同妻榮子(同三五、一五)あり(東京、市外香取町小村井八七八電田九二五) 參照 小倉幸一郎の項

小倉 喜一 日本毛織總取締役兼製造部長、昭 妻 エフ 明二〇、一五、栃木、飯塚彌平 母 文久二、一五、栃木、飯塚彌平 父 文久二、一五、栃木、飯塚彌平 君は栃木縣人小倉方七の長男にして明治十七年五月を以て生れ昭和五年家督を相續す現時日本毛織會社取締役兼製造部長たる外前記會社の重役たり家族は尙ほ二男武(大元、一五)あり妹ミキ(明二三、一五)は栃木縣人木村與平次長男興治に同チカ(同二五、三三)は同縣人宇加地太十郎長男喜衛に同フミ(同三二、四三)は同縣人平石六郎長男昌三に同ユキ(同三五、一五)は同縣人稻見永六郎孫順之に同ユキ(同三一、一五)は同縣人稻見永六郎孫順之に同ユキ(同三一、一五)は同縣人牛田捨三郎に嫁し(同三〇、三三)は同縣人宇津權右衛門の養子となれり(同三三、七〇) (神戸、東須磨稻葉四ノ一) 參照 宇津權右衛門の項

料大學を卒業し現時前記銀行會社の重役たり...

小倉 勉 從五位勳六等、旅順工科大学教授...

小倉 常吉

君は埼玉縣人榮崎宗十郎の弟にして慶應元年九月を以て...

小倉 強

從五位、仙臺高等工業學校教授...

君は宮城縣人小倉長太郎の八男にして同進平仲吉同...

小倉 彦四郎

君は埼玉縣人竹村宗次郎の三男にして明治十七年二月...

小倉 彦六

君は千葉縣人平戸安藏の長男にして明治十年十二月を...

小倉 秀道

君は神奈川縣人山本達成の長男にして明治十七年一月...

小倉 禮三

君は福井縣人小倉又五郎の長男にして明治十七年六月...

小倉 快介

君は廣島縣人中尾金一郎の五男にして明治二十一年三月...

小栗 孝三郎

君は石川縣人小栗勇馬の三男にして明治元年八月を以て...

日本社取締役兼營業部長たり家族は尚二女美音子(大...

小倉 正恒

從七位、住友代表社員理事、住友別子鐵山、住友電機...

小倉 勇次郎

君は大阪府人藤本留吉の長男にして明治四十二年十一月...

小倉 義季

君は愛知縣人小栗三郎兵衛の長男にして安政四年四月...

小栗 三郎

君は愛知縣人小栗三郎兵衛の長男にして安政四年四月...

小栗 四郎

君は愛知縣人小栗三郎の四男にして明治二十年九月を以て...

オ(ヲ)之部 小(田)

(※印は姻族関係)

オ三〇

九、二二生)あり(京城、西小川町一〇〇)

し海軍造船中技士に任じ爾來果進して大正二年海軍造船中佐に任じ四年備役となる其間佐世保海軍工廠造船部長官兼造船監督官造船工練習所教官兼横須賀海軍工廠造船部長官海軍機務學校教官海軍大學校教官兼海軍々醫學部教官海軍理學校教官等に歴補す後日本鋼管會社に入りし大正九年大阪高等工業學校教授となり昭和四年大阪工業大學附屬工業專門部教授に任ぜられ同五年官を辭し講師を囑託せらる現時閑地にあり兼に海軍造船監督として米國に差遣せらるる家族は尙二男進吾(大四、二生)三男弘(同六、二生)四男彦四郎(同七、四生)あり長女スミ(二三、五生)實踐女學校出身は大阪府人藤原眞祐に二女マス(同三六、六生)出身校同上)は東京府人田村誠意に嫁せり(大阪、住吉、王子町二ノ四)

參照 派辰巳拾太郎の項

小田省三郎 富士製氷糖取締役、小田佐商店、酒類商、京都府在籍

小田輝二 岡橋監査役、大阪府在籍

小田林 從五位勳六等、都市計畫大阪地方委員會技師、大阪府土族

小田末吉 土木建築請負業、東京府在籍

小田清兵衛 宮崎縣多額納稅者、延岡土地移取締役、運送業、宮崎縣在籍

小田政次郎 廣島縣多額納稅者、吳服商、廣島縣在籍

小田末治郎 正五位勳三等、海軍造船中佐、前大阪工業大學附屬工學專門部教授、佐賀縣土族

小田仙太郎 大阪商工會議所議員、男山鐵道運取締役、攝津無盡應監査役、茨瑯器製造業、大阪府在籍

小田政次郎 廣島縣多額納稅者、吳服商、廣島縣在籍

豊太郎 明一五、一一生、長男豊太郎妻、明一七、一一生、三村藤吉六女

萬延元、一一生、福岡、岡山竹藏長

明一九、六生、東京、足立鐵之助

小田政美 鳥取縣多額納稅者、鳥取貯蓄銀行庶務取締役、鳥取瓦斯、皆生温泉土地移取締役、鳥取縣在籍

岸和田紡績移取締役

正五位勳四等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務

小田龍太 從五位勳六等、佐賀高等學校教授、新潟縣土族

從五位勳四等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務

正五位勳四等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務

小田安次 中津海産、那馬築鐵道各移取締役、中津銀行監査役、醫師、大分縣在籍

極東煉乳、北海道硫磺各移取締役、五番館代表取締役、東京府在籍

工學博士、古河銀行監査役、東京府土族

オ(ヲ)之部 小(田)

(※印は姻族関係)

オ三一

君は佐賀縣土族谷利貞の三男にして明治六年四月を以て生れ先代龍三郎の養子となり大正十四年家督を相続す明治三十三年東京帝國大學工學科大學造船科を卒業

君は大阪府人徳丸惠輝の兄にして明治六年十一月を以て生れ先代龍三郎の養子となり大正七年家督を相続す明治三十一年京都府立醫學科を卒業次で福岡病院に勤務し同三十七年日露戦役中應召同三十九年解任後現地に開業今日に至る現時中津市醫師會長大分縣醫師會副會長にして傍ら前記會社の重役たり(中津市一四〇七電一四一)

君は佐賀縣土族谷利貞の三男にして明治五年八月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す凡に米國に遊び桑港商業學校を卒業し現時前記各會社の重役たり(東京、麻布、東島居坂町六電赤坂五四一)

君は廣島縣人小田喜助の長男にして文久三年三月を以て生れ明治十二年家督を相続す吳服商を營み現時縣下の多額納稅者として知らるる家族は尙孫卓一(大二、四生)長男豊太郎(同六、五生)同四女(同四女)同大平(同三、三三)同廣子(昭二、三三)同三三(同五、二二)五男爲三(同三〇、九生)弟秀吉(同二五、二二)亦各分家し長女トキ(同二九、一一生)は廣島縣人米田乃太郎養子に七女トキキ(同二二、三三)は同縣人櫻井三郎長男軍一に三女ミサコ(同二七、二二)は同縣人木谷俊俊に四女都子(同三二、九生)は同縣人垣内新一に五女スミ(同三五、八生)は同縣人小田龍清に孫しげ子(同三九、一一生)長男豊太郎(同四〇、一一生)同四女(同四女)は同縣人小野喜一郎三男三郎に嫁せり(廣島市胡町六電一〇五一)

君は大阪府人小田久吉の長男にして明治十六年四月を以て生れ大正七年家督を相続す現時岸和田紡績會社取締役たり家族は尙妹トキ(明一九、二二生)ありA六五〇(岸和田、宮本町一八八電九二五)

君は東京府土族小田川全之の長男にして明治二十三年三月を以て生れ大正二年東京帝國大學工學科大學探險冶金科を卒業し東京帝國大學工學專門部講師となり同三年英米獨に留學し同六年歸朝同年七月京都帝國大學理工學科大學助教授に任ぜられ同八年教授に進み現に同教授にして工學部勤務たり先是同四年工學博士の學位を受く昭和五年再び歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙二女雅(昭三、三三)あり(東京、牛込、原町一ノ五七電牛込三八〇〇) 參照 小田川全之、三井高橋派森平藏の項

君は鳥取縣人豐中四郎の二男にして慶應二年十一月を以て生れ先代龍三郎の養子となり後家督を相続す鳥取縣多額納稅者にして現時鳥取貯蓄銀行庶務取締役の外前記各會社の重役たり兼に大正鳥取銀行山陽水力電氣架橋銀行因伯産業會社等の重役たりし事あり家族は尙孫一隆(大八、三三)長男勝次(同九、五生)同長女(同四女)同早苗(同二一、八生)同二女(同喜啓(昭四、四生)同四女)あり二女和子(明二九、三三)は兵庫縣人藤田二郎に嫁し孫滋男(大一一、二生)長男勝次(三男)は二男邦太郎の死跡を相続せりA二二〇〇(鳥取市本町四ノ二七電三四八)

君は新潟縣人栗林留藏の長男にして明治二十年一月を以て生れ先代龍三郎の養子となり大正十年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し新潟縣立柏崎中學校村上中學校各教諭を経て大正九年佐賀高等學校教授に任じ今日に至る家族は尙二男龍九(大七、二生)三女素子(同二〇、七生)三男龍九(同二四、二生)四女和子(昭二、四生)あり(佐賀市赤松町二二)

君は東京府土族小田川全之の長男にして明治二十三年三月を以て生れ大正二年東京帝國大學工學科大學探險冶金科を卒業し東京帝國大學工學專門部講師となり同三年英米獨に留學し同六年歸朝同年七月京都帝國大學理工學科大學助教授に任ぜられ同八年教授に進み現に同教授にして工學部勤務たり先是同四年工學博士の學位を受く昭和五年再び歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙二女雅(昭三、三三)あり(東京、牛込、原町一ノ五七電牛込三八〇〇) 參照 小田川全之、三井高橋派森平藏の項

喜美 明三九、九生
榮 明四三、二生
フネ 大元、一一生
八重 大元、七生

君は神奈川縣人小野麟之助の長男にして明治十四年三月を以て生れ同二十六年家督を相続す同三十六年中央大學を卒業し農業を専み大正九年以來衆議院議員に當選すること四回に及び現に立憲政黨所屬なり家族は尙弟久夫(明二五、四生)同妻雪子(同三五、一〇生)同神奈川、岸禮三妹)及其一女あり妹トシ(同二〇、四生)は栃木縣人茂呂清に叔母キヤウ(文久三、五生)は神奈川縣人磯部繁五郎に叔母キヤウ(明一六、二生)は分家セリ(横濱、鶴見、潮田町二〇一七電鶴見五〇)

參照 濱石塚嘉六家小野八郎右衛門の項

小野十郎 東京海上火災保險經理部長
 東京府在籍

妻 **ハナ** 明五、二生、小野清兵衛二女
重一 明二五、三生、栃木、小野重作二男

君は福島縣人加納作平の五男にして明治五年十月を以て生れ先代たかの養子となり同三十四年家督を相続す同年東京高等商業學校附屬職員養成所を卒業し現時東京海上火災保險會社經理部長たり家族は尙孫久(大九一一生、養子重一長男)同子(同一一、八生)同長女(女)あり養子文子(明三五、四生)神奈川、織内誠太郎二女)は山梨縣人越山昌造弟季一に嫁セリ(東京、本郷、駒込町二〇、四電小石川四五八)

小野俊一 發明實施研究所長兼學術部長
 東京府在籍

妻 **アンナ** 明二二、八生、岡山、稅所篤人長女
アブナ 明三、三三、舊國、ドミドリ出身(提案家)

君は先代英二郎は舊柳河藩の出身にして夙に米國ミシガン大學に學び日本銀行營業局長日本興業銀行總裁日佛銀行副總裁共立鐵業會社社長等に擧げられ歐米經濟通として著聞セリ君は其長男にして明治二十五年五月を以て生れ昭和二年家督を相続す明治四十五年第一高等學校理科を卒業し東京帝國大學理科大學動物學科

小野俊三 橋前製絲總代表取締役、小野貿易
 小野製絲、小野商店各監査役

妻 **光** 明四、二生
宏 明四、二生、養父光景長女
智 明四、二生
明 明四、二生

君は兵庫縣人圓尾六平の二男にして同哲郎同敏郎の義兄なり明治十一年十月を以て生れ小野光景の養子となり同四十年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たりA一二七五(横濱、中、辨天通一ノ八電本局二三三)

參照 小野哲郎、小野敏郎の項

小野晉平 磐城水産工業總代表取締役、田村
 實業銀行、磐城海岸軌道、二本松
 電氣、小名濱商會、平製水、第二
 小名濱商會各監査役、磐城銀行
 監査役、酒造業、福島縣在籍

妻 **ヨシ** 明一六、一〇生、福島、志賀義次母
仁 明三、九生
義 明四、二生
禮 明四、二生

君は福島縣人小野賢司の長男にして明治十八年十月を以て生れ大正八年家督を相続す酒造業を營み傍ら現時

小野新太郎 從四位勳四等、奈良女子高等師範
 學校教授、大阪府在籍

妻 **文** 六、五生、大阪、岡山彌三郎
六 萬延元、二生、京、山下信太郎
みつ 明四、五生、京都、山下信太郎
二女 明一四、一一生

君は大阪府人小野文六の長男にして明治十五年十一月を以て生れる同四十四年京都帝國大學理工科大學數學科を卒業し同四十五年奈良女子高等師範學校教授に任ぜられ以て今日に至る家族は尙二男好文(大六、三三)弟清之助(明一九、一一生)養妹ヒツ(同一七、一一生)大阪、今井德之助姉)あり異母兄政治郎(同一二、七生)養叔母ツル(慶應二、二生、祖父新右衛門二女)妹壽榮(同一六、六生)は各分家セリ(奈良市法蓮佐保川町)

小野澄之助 正五位勳四等、東京文理大學教
 授兼東京高等師範學校教授、氣象
 學教授、中央氣象臺勤務

妻 **ヤエ** 明一七、四生、神奈川、中村菊之助長女

君は大阪府人小野文六の長男にして明治十五年十一月を以て生れる同四十四年京都帝國大學理工科大學數學科を卒業し同四十五年奈良女子高等師範學校教授に任ぜられ以て今日に至る家族は尙二男好文(大六、三三)弟清之助(明一九、一一生)養妹ヒツ(同一七、一一生)大阪、今井德之助姉)あり異母兄政治郎(同一二、七生)養叔母ツル(慶應二、二生、祖父新右衛門二女)妹壽榮(同一六、六生)は各分家セリ(奈良市法蓮佐保川町)

小野重澄 大一一、一一生
 大江、大六生

君は神奈川縣人小野金太郎の四男にして明治十九年七月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し第五高等學校東京高等師範學校各教授に歴任し現時東京文理大學教授兼東京高等師範學校教授及氣象臺技師を兼任し中央氣象臺に勤務す家族は尙三女直美(大六、八生)二男建男(同一三、二生)四女登久美子(昭二、九生)五女昭美(同五、六生)あり(東京、小石川、大塚坂下町八二電大塚五八二)

小野清一郎 從五位、東京帝國大學教授、法學
 部勤務、東京府在籍

妻 **セツ** 明三〇、一一生、岩手、田村儀兵衛長女

君は岩手縣人小野房二郎の長男にして明治二十四年一月を以て生れ同二十六年家督を相続す大正六年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し司法官試補となり次で検事に任じ大正八年東京帝國大學法科大學助教授に轉じ瑞佛米英獨各國に留學を命ぜられ歸朝後東京帝國大學教授に進み現に法學部勤務なり家族は尙二男慶二(大一一、二生)長女のり子(同一四、一一生)二女みち子(昭三、二生)あり(東京、本郷、弓町一ノ二五)

小野惣助 日東酒造社長、五城銀行、宮城
 貯蓄銀行各取締役、小野酒造店
 名代表社員、宮城縣在籍

妻 **ふみ** 明六、六生、宮城、平間彌五郎三女

君は宮城縣人小野惣兵衛の長男にして明治十五年八月を以て生れ先代惣助の養子となり明治十五年家督を相続

小野惣兵衛 山梨製絲總社長
 山梨縣在籍

妻 **つぎ** 明四、一〇生、縣立巨摩高女出身

君は山梨縣人小野惣兵衛の二男にして明治八年十月を以て生れ同四十四年兄新の跡を承け家督を相続す現時山梨製絲會社社長たり家族は尙三男吉平(大二、一〇生)四男千代春(同七、一一生)五男三男(同九、二生)四女八重(同一一、四生)五女すゑ(同一五、四生)及七兄弟新妻むら(文久二、一〇生)山梨、三木森太郎妹)あり長女はな(明三九、二生)は山梨縣人久保田隆長男始に嫁セリ(山梨、中巨摩、鏡中條村)

小野隆樹 福岡縣多額納稅者、三池銀行常
 務取締役、柳河銀行、三池貯蓄銀
 行各取締役、農業、福岡縣在籍

妻 **エキ** 明文三、二生、福岡、士、立花種文三女

君は福岡縣人小野隆樹の長男にして安政五月四月を以て生れ明治十二年家督を相続す農を業とし傍ら前記各銀行の重役に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接

小野隆樹 福岡縣多額納稅者、三池銀行常
 務取締役、柳河銀行、三池貯蓄銀
 行各取締役、農業、福岡縣在籍

妻 **エキ** 明文三、二生、福岡、士、立花種文三女

君は福岡縣人小野隆樹の長男にして安政五月四月を以て生れ明治十二年家督を相続す農を業とし傍ら前記各銀行の重役に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接

小野尊光 從二位勳四等、男爵
 社家

妻 **正** 明一〇、九生、從四位勳六等、國幣小社日御碕神社宮司

國稅二千九百四圓を納むに肥後物産會社取締役たりしことあり家族は尙孫民子(大八、四生)亡長男隆徳(三女)同徳治(同八、五生)三男法吉(二男)同文子(同九、一一生)同長女(同三女)同三枝子(同一一、一一生)同四女(同四女)あり長女千代(明一九、六生)は福岡縣人神健雄長男武治に妹カス(同四、一一生)は同縣人吉田孫一郎長男武治に同マチ(同八、四生)は同縣人吉田十時九に嫁し弟三郎(同五、三生)は同妻愛(同二二、一一生)福岡、士、立花弘樹妹)及其一子と共に分家し二男憲吉(同二二、二生)は福岡縣人戸次チカに弟才吉(同六生)は同縣人小野志津馬に各養子となり(福岡市藥院中庄六五ノ四電七三三)

小野尊光 從二位勳四等、男爵
 社家

妻 **正** 明一〇、九生、從四位勳六等、國幣小社日御碕神社宮司

國稅二千九百四圓を納むに肥後物産會社取締役たりしことあり家族は尙孫民子(大八、四生)亡長男隆徳(三女)同徳治(同八、五生)三男法吉(二男)同文子(同九、一一生)同長女(同三女)同三枝子(同一一、一一生)同四女(同四女)あり長女千代(明一九、六生)は福岡縣人神健雄長男武治に妹カス(同四、一一生)は同縣人吉田孫一郎長男武治に同マチ(同八、四生)は同縣人吉田十時九に嫁し弟三郎(同五、三生)は同妻愛(同二二、一一生)福岡、士、立花弘樹妹)及其一子と共に分家し二男憲吉(同二二、二生)は福岡縣人戸次チカに弟才吉(同六生)は同縣人小野志津馬に各養子となり(福岡市藥院中庄六五ノ四電七三三)

小野尊光 從二位勳四等、男爵
 社家

妻 **正** 明一〇、九生、從四位勳六等、國幣小社日御碕神社宮司

國稅二千九百四圓を納むに肥後物産會社取締役たりしことあり家族は尙孫民子(大八、四生)亡長男隆徳(三女)同徳治(同八、五生)三男法吉(二男)同文子(同九、一一生)同長女(同三女)同三枝子(同一一、一一生)同四女(同四女)あり長女千代(明一九、六生)は福岡縣人神健雄長男武治に妹カス(同四、一一生)は同縣人吉田孫一郎長男武治に同マチ(同八、四生)は同縣人吉田十時九に嫁し弟三郎(同五、三生)は同妻愛(同二二、一一生)福岡、士、立花弘樹妹)及其一子と共に分家し二男憲吉(同二二、二生)は福岡縣人戸次チカに弟才吉(同六生)は同縣人小野志津馬に各養子となり(福岡市藥院中庄六五ノ四電七三三)

小野尊光 從二位勳四等、男爵
 社家

妻 **正** 明一〇、九生、從四位勳六等、國幣小社日御碕神社宮司

國稅二千九百四圓を納むに肥後物産會社取締役たりしことあり家族は尙孫民子(大八、四生)亡長男隆徳(三女)同徳治(同八、五生)三男法吉(二男)同文子(同九、一一生)同長女(同三女)同三枝子(同一一、一一生)同四女(同四女)あり長女千代(明一九、六生)は福岡縣人神健雄長男武治に妹カス(同四、一一生)は同縣人吉田孫一郎長男武治に同マチ(同八、四生)は同縣人吉田十時九に嫁し弟三郎(同五、三生)は同妻愛(同二二、一一生)福岡、士、立花弘樹妹)及其一子と共に分家し二男憲吉(同二二、二生)は福岡縣人戸次チカに弟才吉(同六生)は同縣人小野志津馬に各養子となり(福岡市藥院中庄六五ノ四電七三三)

小野尊光 從二位勳四等、男爵
 社家

妻 **正** 明一〇、九生、從四位勳六等、國幣小社日御碕神社宮司

國稅二千九百四圓を納むに肥後物産會社取締役たりしことあり家族は尙孫民子(大八、四生)亡長男隆徳(三女)同徳治(同八、五生)三男法吉(二男)同文子(同九、一一生)同長女(同三女)同三枝子(同一一、一一生)同四女(同四女)あり長女千代(明一九、六生)は福岡縣人神健雄長男武治に妹カス(同四、一一生)は同縣人吉田孫一郎長男武治に同マチ(同八、四生)は同縣人吉田十時九に嫁し弟三郎(同五、三生)は同妻愛(同二二、一一生)福岡、士、立花弘樹妹)及其一子と共に分家し二男憲吉(同二二、二生)は福岡縣人戸次チカに弟才吉(同六生)は同縣人小野志津馬に各養子となり(福岡市藥院中庄六五ノ四電七三三)

小野尊光 從二位勳四等、男爵
 社家

妻 **正** 明一〇、九生、從四位勳六等、國幣小社日御碕神社宮司

國稅二千九百四圓を納むに肥後物産會社取締役たりしことあり家族は尙孫民子(大八、四生)亡長男隆徳(三女)同徳治(同八、五生)三男法吉(二男)同文子(同九、一一生)同長女(同三女)同三枝子(同一一、一一生)同四女(同四女)あり長女千代(明一九、六生)は福岡縣人神健雄長男武治に妹カス(同四、一一生)は同縣人吉田孫一郎長男武治に同マチ(同八、四生)は同縣人吉田十時九に嫁し弟三郎(同五、三生)は同妻愛(同二二、一一生)福岡、士、立花弘樹妹)及其一子と共に分家し二男憲吉(同二二、二生)は福岡縣人戸次チカに弟才吉(同六生)は同縣人小野志津馬に各養子となり(福岡市藥院中庄六五ノ四電七三三)

小野尊光 從二位勳四等、男爵
 社家

妻 **正** 明一〇、九生、從四位勳六等、國幣小社日御碕神社宮司

國稅二千九百四圓を納むに肥後物産會社取締役たりしことあり家族は尙孫民子(大八、四生)亡長男隆徳(三女)同徳治(同八、五生)三男法吉(二男)同文子(同九、一一生)同長女(同三女)同三枝子(同一一、一一生)同四女(同四女)あり長女千代(明一九、六生)は福岡縣人神健雄長男武治に妹カス(同四、一一生)は同縣人吉田孫一郎長男武治に同マチ(同八、四生)は同縣人吉田十時九に嫁し弟三郎(同五、三生)は同妻愛(同二二、一一生)福岡、士、立花弘樹妹)及其一子と共に分家し二男憲吉(同二二、二生)は福岡縣人戸次チカに弟才吉(同六生)は同縣人小野志津馬に各養子となり(福岡市藥院中庄六五ノ四電七三三)

小野尊光 從二位勳四等、男爵
 社家

妻 **正** 明一〇、九生、從四位勳六等、國幣小社日御碕神社宮司

國稅二千九百四圓を納むに肥後物産會社取締役たりしことあり家族は尙孫民子(大八、四生)亡長男隆徳(三女)同徳治(同八、五生)三男法吉(二男)同文子(同九、一一生)同長女(同三女)同三枝子(同一一、一一生)同四女(同四女)あり長女千代(明一九、六生)は福岡縣人神健雄長男武治に妹カス(同四、一一生)は同縣人吉田孫一郎長男武治に同マチ(同八、四生)は同縣人吉田十時九に嫁し弟三郎(同五、三生)は同妻愛(同二二、一一生)福岡、士、立花弘樹妹)及其一子と共に分家し二男憲吉(同二二、二生)は福岡縣人戸次チカに弟才吉(同六生)は同縣人小野志津馬に各養子となり(福岡市藥院中庄六五ノ四電七三三)

小野尊光 從二位勳四等、男爵
 社家

妻 **正** 明一〇、九生、從四位勳六等、國幣小社日御碕神社宮司

國稅二千九百四圓を納むに肥後物産會社取締役たりしことあり家族は尙孫民子(大八、四生)亡長男隆徳(三女)同徳治(同八、五生)三男法吉(二男)同文子(同九、一一生)同長女(同三女)同三枝子(同一一、一一生)同四女(同四女)あり長女千代(明一九、六生)は福岡縣人神健雄長男武治に妹カス(同四、一一生)は同縣人吉田孫一郎長男武治に同マチ(同八、四生)は同縣人吉田十時九に嫁し弟三郎(同五、三生)は同妻愛(同二二、一一生)福岡、士、立花弘樹妹)及其一子と共に分家し二男憲吉(同二二、二生)は福岡縣人戸次チカに弟才吉(同六生)は同縣人小野志津馬に各養子となり(福岡市藥院中庄六五ノ四電七三三)

林二六三 男 其子女を伴ひ分家せり(東京市外世田ヶ谷町若

小畑 秀吉 豊岡縣在籍 妻 ヒチ 五女

母 嘉永元、一〇生、福岡、笠本甚七

妻 ますふ 明二、八生、大阪、由先岩太郎

養子 秀廣 明三、二生、福岡、橋本松次郎

君は福岡縣人小畑文内の子にして明治十三年七月を以て生れ同二十八年家督を相続す現時豊岡縣メメント會社取締役に就き日本耐火煉瓦會社取締役に擧げらるる家族は尚三男秀生(大八、三三)四男秀助(明一〇、一三)五男秀高(明一四、八)姉チヨ(明一〇、一三)其弟保平妻ヤス(同二七、五五)福岡、探本喜助(其子)其子あり養子カズエ(同三五、一一)生、福岡、橋本松次郎三女(福岡縣人志半田敏雄に姉トヨ同六、一一)生(福岡縣人橋本辰三三男松太郎に同セシ)同二、四生)は同縣人廣末茂吉に嫁セリ(同二六、五五)は同縣人長尾六太郎二男平六に嫁セリ(佐賀、西松浦、曲川村)

小畑 勇吉 南北商事務務取締役、帝國製糖

妻 富子 明二八、八生、大阪、河野宗三女

養子 忠 明四〇、一〇生、東北帝大法文學部在籍

君は福岡縣人片山要蔵の四男にして明治十年一月を以て生れ先代其之助の養子となり同十八年家督を相続す現時福岡縣立師範學校を卒業し帝國大學理學部三等賞狀に實績を修了す現に前記各會社の重役たり長女八重(明三三、五五)は福岡縣人農務士津田由子二女(同三三、五五)は水戸高等學校教授石中廣次に嫁セリA一〇〇〇(東京市外松澤村上北澤八七七)

小橋 龜壽 正六位勳四等、醫學博士、大阪府

妻 七イ 明一八、八生、大阪、和田豊種妹

君は高知縣人長山泰春の二男にして明治七年一月を以て生れ先代其之助の養子となり大正十五年家督を相続す明治三十二年大阪高等醫學校を卒業し大正十五年醫學博士の學位を授けらるる現時現時大阪府立市民醫院長兼大阪府技師たり(大阪、南、玉屋町六電南二四四)

小橋 憲次郎 從五位勳六等、警務局長、中村

妻 マサ子 明二六、六生、廣島、一谷澄長女

君は廣島縣人小橋謙之進の二男にして明治十九年十一月を以て生れ同三十七年兄松雄日露役に戦死せし其後を承け家督を相続す同四十一年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し林務技師山林技師山林技師を歴任し其間熊本大分縣警務局長管内菊池津小分區署長農務省山林局勤務東京大分縣管内菊池津小分區署長を命ぜらるる大正十三年警務局長に任じ高鍋警務局長を命ぜらるる現時中村警務局長たり(高知、幡多、中村町中村警務局長)

小橋 重一 從四位勳三等、醫學博士、東京帝

妻 ぶみ 明二八、八生、東京、村上龍英妹

養子 孝一 明七、一十生、東京、村上龍英妹

君は大分縣人小橋英之助の長男にして明治二十一年五月を以て生れ同四十二年家督を相続す同四十四年東京帝國大學理學科を卒業す現時東京帝國大學教授に就き航空研究所員たり(東京、外堀町三ノ二六)

小橋 宗平 金澤商工銀行警務取締役

妻 かつい 明二二、二生、富山、岡田長左衛門二女

養子 宗治 明七、一十生、富山、根井仁三郎

君は富山縣人先代宗平の長男にして明治十八年二月を

以て生れ昭和四年家督を相続し前名餘所平を改め襲名す現時前記銀行の重役たり(家族は尙長子女子(大一一〇八三)二女敏子(同一一一、一三)ありA六〇〇(富山、東礪波、五鹿屋村)

小橋 太久實 野村銀行警務部長

妻 實 明九、三三、岡山、山田芳雄母

君は岡山縣人小橋田實三の二男にして明治七年二月を以て生れ同二十四年先代其之助の養子となり家督を相続す現時野村銀行警務部長たり(家族は尙三男久(明四五、一三)孫和六(昭二、一三)長男實長男(同五、一五、一七)同二男ありA四二八(大阪、北河内、田宮朝日)

小橋 鐵介 國幣勳章、警務局長、岡山縣

妻 さと 明二六、一十生、山梨、淺川實義妹

養子 耕一 明三、四生

君は東京府人小橋友正の二男にして明治十二年十一月を以て生れ現時前記各會社の重役たり(家族は尙二男次郎(大六、四生)三男三郎(同二二、二二)姉のふ(明一〇、一一)弟左右三(同二五、四)弟明(同四、一〇)生、亡兄謙一(長男、現戸主)及其母ちか(同四五、七生)北海道、松澤伊八(庶子)あり弟武郎(同二八、二二)は分家せり(東京、麻布、森元町三ノ一五電赤坂一〇三五)

小橋 西吉 從三位勳一等、特命全權大使兼特

妻 みづゑ 明一、九、八生、男爵武井守成姉

養子 由美子 大七、六生

君は神奈川縣人小橋和乎の三男にして明治六年四月を以て生れ同二十六年兄文三郎方より分れて一家を創立す同三十年東京帝國大學法科大學を卒業同三十一年外交官及領事官試験に合格し領事官補となり専て外交官補公使館三等書記官領事官公使館一等書記官大使館參事

小原 國芳 成城高等學校校長、成城學園長、玉

妻 信 明二八、三三、山口、高井太長女

君は鹿兒島縣人小原武七郎の三男にして明治二十年七月を以て生れ其の風は廣島高等師範學校を卒業し更に進んで大正七年東京帝國大學文部科大學哲學科を卒業す現に香川縣立師範學校校長高等師範學校教授に任じ現に成城高等學校を創立して前記成城高等學校を之に移し尙成城高等學校七年制制高等女學校を創設して各主事となり澤柳博士の後を承けて前記各校長となり現に至る又昭和四年新教育と著作教育宗教教育の綜合を試みる玉川學園を創立してその園長を兼ね同五年十月世界教育視察の爲め海外を歴遊して六年六月歸朝す教育學に關する著書十數種あり(家族は尙長女百合(大一一〇、一一)二女純子(昭三三、一一)の外兄屋崎(明一四、一五、現戸主)同妻ミヨ(同二六、二六)同妻キエ(同二七、一〇)同妻キエ(同三一、一一)二女、鹿兒島、尾辻林五郎長女(同三三、一一)同妻梅(同三三、九)八生、鹿兒島、中村次左衛門長女)及其子女並に亡弟英雄の子あり妹トキエ(同二二、七)七生は鹿兒島縣人川村愛蔵再從兄弟に嫁セリ(東京、南多摩、町田町玉川學園内電町六八)

小原 重胤 千代田火災保險海上部長

妻 マキ 明二五、一〇生、莊司照五女

君は東京府人小原重胤の二男にして明治十一年九月を以て生れ大正二年兄重胤方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し翌年富士生命保險會社に入り爾來庶務課長會計課長事務見習同十四五年帝國海上運送火災保險會社船體掛主任に任じらるる大正六年千代田火災保險會社に轉じ現に同會社海上部長たり(神奈川、三浦、逗子町久木四五)

小原 金治 千葉縣多額納税者、千葉貯蓄銀行

妻 ちよ 明二、八生、千葉、石井豐緒長女

養子 泰四郎 明二〇、一十生、養子泰四郎妻

君は千葉縣人小原桂助の長男にして安政六年七月を以て生れ明治十二年家督を相続す農業者を営み現時千葉貯蓄銀行取締役に就き直轄納税七百十八圓を納め縣下多額納税者たり(家族は尙孫喜久(大七、九)養子泰四郎長女(同四、三三)三男)は千葉縣人小原の養子とな

官に歷任し天津境太利英國支那等の各地に在勤す大正五年歸朝して外務省政務局長兼捕獲審檢所評定官となり同七年支那駐劄特命全權公使同十一年以來山東懸案解決に關する條約所定の共同委員會委員日支通信問題に關する交通委員臨時外務省事務委員會委員等同十四年特別全權大使となり土耳其駐劄を経て獨逸駐劄ラトヴィア國駐劄仰付けられ現に其任に在り(在獨逸帝國大使館)

小濱 八彌 從五位勳六等、農林書記官、水産

妻 龜子 明三五、一十生、東京、道家齊次妹

養子 正彌 大一、七生

君は佐賀縣人稻富正六の二男にして明治二十四年十二月を以て生れ先代又吉の養子となり大正二年家督を相続す同六年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し農商務局農務局事務官補を経て同年文官高等試験に合格し爾來臨時農務調査局事務官農務局事務官農林事務官等に歴任し同十四年歐米各國に出張を命ぜらるる昭和二年農林書記官に轉じ農務局副課長に補し現に水産局漁政課長たり(家族は尙長女八重(大一一三、九生)あり(東京市外中野町住吉四四)參照：道家齊次(高島武夫)及田島武夫の項)

小原 有鄰 大阪三品取引所取引員

妻 アイ 明一九、一一生、京都、小野橋太

養子 立一 明三八、二生

男 又一 明四四、七生

男 完三 明四四、八生

君は滋賀縣人小原元三郎の二男にして明治十一年九月を以て生れ同三十七年分れて一家を創立す大阪三品取引所第一部第二取引員たり(家族は尙五男菅夫(大三、二生)あり(大阪、天王寺、寺田町九電天王寺一五三)

小原 英一 從五位勳五等、鐵道局參事、東京

妻 ぶん 明二、二生、千葉、石井太一長女

養子 けい 明二三、四生、養父健夫長女

男 英夫 明四五、一十生

小原 清吉 愛知縣多額納稅者、不動産買業
 妻 辰三 明三七、八生、法學士
 男 辰三 明三七、八生、法學士
 君は愛知縣人先代清吉の二男にして明治元年八月を以て生れ同十四年家督を相続す同二十八年第四高等學校法科を卒業し不動産買業を營み縣下の多額納稅者として知らる昭和五年結婚妻を賜はる弟陽太郎(明六、一生)同妻す(同六一、一生)は其二男一女を伴ひ同恒磨(同三一、二生)同妻とら(同二三、七生、布目正七長女)は其一女を伴ひ各分家せり(名古屋、中、大池町一ノ二三電中七五六)

小原 駿吉 正三位勳一等、男爵、貴族院議員
 妻 ヒテ 朝三、九生、佐賀、士、丹羽武
 男 謙太郎 明三三、二生、從五位
 男 謙太郎 明四二、八生、長男謙太郎妻、東
 女 謙太郎 明三八、一生、二生

當家は義祖小原忠豐大垣藩戸田正眼に仕へてより世々同藩の國老として七百五十石を食み八世を経て忠寬に至る忠寬は鐵心又是水と號し幕末藩務の要衝に當り勤王の志厚く維新の大業に貢献するところ妙からず後徵士參事職會計事務局長大垣藩大參事本保縣權知事に歷任す先代忠寬の功に對し幕府に依り華族に列し男爵を授けられ貴族院議員に列す君は適の長男にして明治四年一月を以て生れ同四十四年襲爵す同二十九年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し貴族院書記官宮内省爵位局主事宗秩室主事兼宮内省書記官調度頭内匠頭等に歷任し現時宮中顧問官たり大正十四年貴族院議員に當選し公正會に屬す讀書及盆栽を趣味とす長女百合(明三三、七生)は伯爵東郷平八郎長男武一に三女園子(同三五、六生)は前商工大臣中橋徳五郎長男武一に四女菊枝(同三七、一〇生)は同府人堀越善重郎長男創に嫁せり(東京市外淀橋町柏木三九六電四谷二五九)參照||伯爵東郷平八郎、大倉和親、丹羽武朝、中橋

小原 辰三郎 銀行監査役、支店長、五城門家百本三郎の項
 妻 嘉永元、四生
 男 嘉永元、四生
 女 嘉永元、四生
 君は宮城縣人若柳周輔の弟にして明治元年十二月を以て生れ先代長信の養子となり同二十二年家督を相続す現時前記諸會社の重役たり家族は尙孫昭子(大九、七生、長男長長女)同愛子(同六一、一生、同二女)同敬子(同六一、一生、同三女)同長徳(同六一、一生、同二男)同長義(昭二、四生、同二男)同長和(同五五、二生、同三男)あり二男長徳(明三〇、七生)は兄若柳周輔に七女天子(大一一、〇生)は宮城縣人小原佑に各養子となり女キキ(明三一、一〇生)は同縣人佐藤國幹に二女イキ(同三四、二生)は同縣人後藤弘毅に嫁せり(仙臺、北五番丁一〇九)

小原 仲 從五位勳六等、判事、大阪地方裁判所部長、愛媛縣士族
 妻 須磨 昭三、一〇生、兵庫、尾見五郎長女
 男 主一 昭四、五生
 君は愛媛縣土族村濱善哉の四男にして明治二十五年八月を以て生れ先代傳の養子となり昭和三年家督を相続す大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し同七年判事に任じ爾來東京地方兼同區大阪府兼同地方各裁判所部長たり家族は尙長女妙子(大一一、二生)二女恭子(同一一、五生)亡伯吉文妻キキ(明二五、二生、愛媛、土、佐久間辰平二女)あり養姉キキ(明二五、七生)は愛媛縣人砂田重政に嫁せり(大阪、天王寺、松ヶ鼻町二四)參照||砂田重政の項

小原 直 正四位勳三等、司法次官
 妻 豐子 明二〇、三三、兵庫、生駒高常姉
 男 謙太郎 明三七、二生、東京帝大在學
 女 謙太郎 明四四、一生、成城高女在學
 君は新潟縣人田中敬治郎の二男にして平澤越郎の兄なり明治十年一月を以て生れ後小原朝忠の養子となり大正五年家督を相続す明治三十五年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し靜岡地方裁判所檢事代理を経て同三十七年判事に任じ東京地方裁判所判事となり次で檢事

小原 半藏 地主
 妻 竹松 明五、九生、東京、中村市太郎弟
 母 明七、七生、東京、片野彦兵衛妹
 妻 明三二、四生、東京、高橋三藏六
 男 常吉 大八、一〇生
 君は東京府人小原竹松の長男にして明治二十七年一月を以て生れ大正三年祖父兼吉の跡を承け家督を相続す地主たり家族は尙二男兼吉(大一一、七生)三男三男(同三一、七生)四男喜四夫(同一一、七生)長女好江(昭三、二生)妹つれ(明四四、二生)同とら(大一一、一生)叔母、(明一七、三三)あり(東京市外尾久町下尾久二一六電下谷一八四九)

小尾 悦太郎 名古屋銀行常務取締役
 妻 芳枝 明二三、一〇生、山梨、小林小六
 女 菊枝 明四四、一〇生
 女 文枝 大五、七生
 君は山梨縣人小尾五左衛門の二男にして明治十年七月を以て生れ大正十三年兄濱吉より分れて一家を創立す明治三十六年東京高等商業學校を卒業し名古屋銀行に入り同行東京支店長本店營業部長を経て現時同行常務取締役たり家族は尙二男茂雄(大八、四生)三女千登世(同一一、一生)三男芳郎(同一一、一〇生)四女長子(昭二、九生)ありA二二五(名古屋、西、北野町一ノ五電西二〇一一)

小船井 敬吉 正五位勳五等、通信局長、大阪通信局長、新島縣在籍
 妻 慶元、一〇生、新潟、小船井喜右衛門長女
 女 富美 大二、七生
 君は新潟縣人小船井理吉の二男にして明治二十年四月を以て生れ大正十一年家督を相続す明治四十四年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し通信管理局技師通信技術師兼通信局長大阪中央電氣局交換課長同局通信技師兼通信局長大阪出張所機械課長兼本通信局長臨時電信電話建設局大阪出張所機械課長兼本通信局長等に歷任し大正十五年英米兩國に出張を命ぜらる歸朝後昭和二年名古屋通信局長を経て同五年大阪通信局長に轉じ現在に至る家族は尙三女キキ(大八、七生)弟順平(明三八、一〇生)妹キキ(同四〇、二生)同八重(同四三、三三)あり同キキ(同三三、一〇生)は新潟縣人眞保吉一に同千代(同二二、一〇生)は大正府人須藤政吉長男吉松に嫁し弟友治(同二七、一生)同妻リ(同三五、二生、新潟、赤松嶺吉四女)は其一子を伴ひ分家し妹キキ(同三六、二生)は鹿兒島縣人田中哲雄弟義丸に嫁せり(大阪、豊能、南豊島村)

小原 辨治 小鹽屋、旅館業
 妻 香野 昭四、二生、岡山、橋正一妹
 男 治雄 明四二、一生
 君は大阪府人先代辨治の長男にして明治三十九年二月を以て生れ昭和三年家督を相続し前名一雄を改め辨名す小鹽屋と稱し旅館業を營む家族は尙弟伊三男(明四一、二生)同三郎(同四四、九生)妹ユキ(大一一、二生)同トケ子(同四四、一生)あり(大阪、浪速、河原町一ノ一四七電戎三〇二〇)

小尾 勘三郎 八幡自動車事務取締役、長坂運送、共益小瀬銀行各取締役、山梨縣、山梨縣在籍
 妻 こがね 明三四、一〇生、山梨、清水澤長女
 君は山梨縣多額納稅者先代勘三郎の五男にして明治二十九年八月を以て生れ大正十五年家督を相続し前名銀造を改め勘名す農業を營み中丸長坂嶺市場を經營し傍ら前記銀行會社の重役たりA一四六七B八九(山梨、北巨摩、清春村中丸一〇二〇五)

小保方 祐藏 安田銀行淺草支店長
 妻 とめ 明三三、一〇生、群馬、佐藤京藏
 男 明三三、一〇生
 女 明三三、一〇生
 君は群馬縣人小保方佐重郎の四男にして明治十七年十月を以て生れ同三十六年先代兄宗重郎の跡を承け家督

小原 松次郎 大毎代理部取締役、小原商店、大坂府在籍
 妻 つや 明五、一生、大阪、小原東三郎姉
 君は京都府人林彌七の二男にして明治八年五月を以て生れ小原善藏の養子となり大正四年家督を相続す兄に小原店を開業しフランネルを専業とす傍ら大毎代理部取締役たり(大阪、南、心齋橋筋二ノ一電南九六)

小尾 範治 從五位勳六等、文部省社會教育官、兼督學官、成人教育課長兼庶務課長、山梨縣在籍
 妻 禮七 安政三、八生、現戸主
 男 健彦 大五、五生
 君は山梨縣人小尾禮七の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十四年東京帝國大學文部省社會教育科を卒業し甲府中學校教諭小樽高等商業學校教授を経て大正十年米澤英伊各縣に留學し歸朝後同十三年文部事務

小原 佑 仙臺日々新聞社長、宮城縣在籍
 妻 健彦 大五、五生
 君は山梨縣人小尾禮七の長男にして明治十八年十二月を以て生れ同四十四年東京帝國大學文部省社會教育科を卒業し甲府中學校教諭小樽高等商業學校教授を経て大正十年米澤英伊各縣に留學し歸朝後同十三年文部事務

オ(ヲ)之部 小(僕、美、柳、宅、山)

(※印は姻族関係)

を相續す風に入り安田銀行に入り島島町本所各支店長を経て現時同行支店長たり家族は尙四女しづ(六七、三三)あり(東京市外品川町二丁目一五一)

小僕 政一 衆議院議員(東京府選出)、東京市議員、醫師、東京府在籍

妻 ト 明一九、一三、秋田、三井常松 三女 明三九、七生 女 愛子 明四〇、三三 女 静子 明四二、三三 女 明子 明四三、一二 女 明子 明四三、一二 女 明子 明四三、一二 女 明子 明四三、一二

小美川真止

君は新潟縣士族小美川直正の五男にして明治十八年七月を以て生れ同四十五年兄金五郎方より分れて一家を創立す同四十二年商船學校機關科を卒業日本郵船會社佐賀縣立商船學校日清汽船會社等に勤務し大正六年機關長免狀を受く爾來鐵道院技師關連船對馬丸機關長國際汽船會社智利丸武洋丸等々各機關長等を歴任同十二年通信局技師兼地方海員審判官に任ぜられ現時前記の職に在り家族は尙二女榮子(大六、四三)三女幸子(同九、一三)あり(西宮、平松町一七)

小柳津邦太

君は舊參州岡崎藩士小柳津要人の長男なり要人少壯幕軍に加はり各地に轉戦し維新後大學南校慶應塾等に學び英語の教授を爲せしが後丸善會社の創立と共に之に入り盡瘁する事多年同社今日の盛運を築けり君は明治六年九月を以て生れ大正十一年家督を相續す同三十年東京高等商業學校を卒業し慶應義塾鐵道省等に教授

を執りしが後實業界に入り大日本圖書會社監査役となる現時之を辭し資産家たり家族は尙六女(明三三、二生)あり妹輝(同九、六生)は愛知縣士族精方於菟丸に同けい(同二一、八生)は東京府人文學士牧山清に同ま(同二二、五生)は兵庫縣人高嶺太右衛門に同ま(同二三、五生)は東京府立第一高女出身は埼玉縣士族太田貞己に嫁し弟宗吾(同二六、二生)は分家せりA一九一八(東京、本郷、駒込林町一三三電小石川一〇三三)

小柳津正藏

君は東京府士族小柳津正義の長男にして明治十四年五月を以て生れ大正二年家督を相續す明治三十五年陸軍砲兵少尉に任じ爾來果進して昭和四年陸軍少將に任ぜらる其間技術本部員同本部附米國駐在等に歴補し昭和三年現職に補せらる家族は尙弟政雄(明二八、七生)同妻アヤ子(同三六、一三)長崎、宮崎長女)及其二女あり(東京市外井荻町下荻窪五〇八電荻窪三三九)

小宅正造

君は兵庫縣人小宅利左衛門の長男にして明治八年七月を以て生れ同三十八年家督を相續す現時見銀行常務取締役たり家族は尙二男正行(明四五、六生)二女和子(大六、五生)あり(兵庫、揖保、神部村電三八)

小山田繁藏

君は松本藩士小山田頼命の長男にして安政二年五月江戸藩邸に生れ明治元年家督を相續す藩學堂教館に入り漢學を修め後筑摩縣師範學校を卒業(教職に就きしが後辭して新聞記者となり國會開設請願の同志を募り明治十七年長野縣議員に當選し同二十六年松本町會議員に同二十三年衆議院議員に當選し同三十一年北海道空知支廳長に任じ同三十五年松本町長となり同四十七年同自治體に關與し日本の永任市長として知らる家族は尙孫永吾(昭四、八生)長男頼忠(長男)あり長女頼子(明三一、六生)は長野縣人岩淵豐治郎長男要に嫁し(慶應元、一生)は同縣人丸山鐵人に嫁せり(松本、田町)

君は岩手縣人菅原芳藏の長男にして明治九年十二月を以て生れ小山田家に入り同二十七年家督を相續す鐵道海軍中將にして現時宮内省御用掛たり家族は尙二男次郎(大一二、五生)三男三郎(同二五、九生)あり(東京、牛込、砂土原町三ノ一七電牛込四〇一三)

小山田宗吾

君は福岡縣人小山田惣平の長男にして明治十四年七月を以て生れ大正二年家督を相續す現時田中工業會社常務取締役兼大阪支店長たり家族は尙二男稔(大六、七生)三男直之(同二一、三三)四男秀實(同二一、八生)三女美智子(同二五、七生)四女晃子(昭四、四生)あり(大阪、住吉、天王寺町一八一)

小山田太七

君は鹿兒島縣人小山田太左衛門の孫にして明治二十一年十一月を以て生れ大正十年家督を相續す現時鹿兒島勸業銀行取締役たる外前記銀行會社の重役にして鹿兒島縣多額納稅者たり姉ハツエ(明一七、一〇生)は鹿兒島縣人矢野重次に嫁せり(鹿兒島、薩摩、川内町)

小山田鐵次郎

君は宮城縣人尾形幸治の二男にして明治十五年二月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十九年東京帝國大學法科大學を卒業し同四十年日本郵船會社に入り累進して同社長時支店長を経て現時同社孟買支店長たり家族は尙二男力(昭三、八生)あり長女綾子(明四三、一生)は栃木縣人高階武雄に嫁せり(孟買、日本郵船會社支店)

尾形正平

君は宮城縣人尾形幸治の二男にして明治十五年二月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十九年東京帝國大學法科大學を卒業し同四十年日本郵船會社に入り累進して同社長時支店長を経て現時同社孟買支店長たり家族は尙二男力(昭三、八生)あり長女綾子(明四三、一生)は栃木縣人高階武雄に嫁せり(孟買、日本郵船會社支店)

尾形徳兵衛

君は茨城縣人先代徳兵衛の長男にして明治十四年三月を以て生れ同二十六年家督を相續し前名平三郎を改め襲名す現時五十銀行取締役に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接國稅四千三百七圓を納む家族は尙三男雅夫(明四五、七生)四男義郎(大二三、九生)あり長女歌子(明三九、八生)雙葉高女出身は愛知縣人村瀬淳一郎弟直保に嫁し姉ハツエ(同五、六生)同夫九十九(同五、一生)茨城、尾見半三(二男)は共に其二子を伴ひ分家し妹みつ(同二六、二生)も亦分家せり(茨城、新治、土浦町)

尾形友助

君は茨城縣人小山田勝貞の二男にして明治七年八月を以て生れ後分れて一家を創立す金融業を營み現に縣下の多額納稅者にして直接國稅四千七百六十三圓を納む(水戸、上市藤澤小路三四五)

小里頼永

君は茨城縣人小山田勝貞の二男にして明治七年八月を以て生れ後分れて一家を創立す金融業を營み現に縣下の多額納稅者にして直接國稅四千七百六十三圓を納む(水戸、上市藤澤小路三四五)

オ(ヲ)之部 小(山、里)

(※印は姻族関係)

を以て生れ同三十四年先代イワナの入夫となり家督を相續す同三十七年京都帝國大學法科大學を卒業し同三十九年檢事に任じ爾來大分區地方久留米區小倉區豆田區飯塚區靜岡地方同區津島津山區尾道區備前島地方尾道支店濱田區松江地方濱田支店松江地方同區各裁判所檢事に歴補し昭和四年現職に轉ず家族は尙四男孝之(大二三、五生)二女テル(同六、四生)三女和子(同九、一三)四女八枝子(同二一、三三)あり長女美屋子(明三六、五生)は福岡縣人篠崎六之助長男郁平に嫁せり(吳、區裁判所内)

小山田彌三郎

君は山形縣士族小山田正長の長男にして明治十三年四月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十九年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業し帝國鐵道院技師となり北海道管理局函館工場鐵道局技師仙臺鐵道局盛岡工場長札幌鐵道局苗穂工場長札幌鐵道局工作課長等に歴任し昭和三年鐵道技師に任じ工作局工場課勤務たり昭和二年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙三女芳(大一一、〇生)あり弟儀次郎(同三三、〇生)同兵衛(同二二、〇生)は各分家し(同三三、〇生)同兵衛(同二二、〇生)は北海道人須田金之助に嫁せり(埼玉、北足立、浦和町)

小山田量

君は山形縣士族小山田正長の長男にして明治十三年四月を以て生れ同四十二年家督を相續す同三十九年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業し帝國鐵道院技師となり北海道管理局函館工場鐵道局技師仙臺鐵道局盛岡工場長札幌鐵道局苗穂工場長札幌鐵道局工作課長等に歴任し昭和三年鐵道技師に任じ工作局工場課勤務たり昭和二年歐米各國に出張を命ぜらる家族は尙三女芳(大一一、〇生)あり弟儀次郎(同三三、〇生)同兵衛(同二二、〇生)は各分家し(同三三、〇生)同兵衛(同二二、〇生)は北海道人須田金之助に嫁せり(埼玉、北足立、浦和町)

尾池秀雄

君は熊本縣人尾池喜一郎の四男にして明治二十一年四月を以て生れ昭和二年家督を相續す大正四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し同六年埼玉縣工場監督官補同縣警視北葛高入間各部長秋田縣理事官地方事務官秋田三重各縣書記官等に歴任し昭和四年現職に轉ず(甲府、橋町官舎)

尾池次郎

君は福岡縣士族尾形喜六の二男にして明治七年九月を以て生れ同十七年家督を相續す同三十一年東京帝國大學工學博士、三井礦山、神岡水電、九州電力各務取締役、福岡縣士族

尾形直吉 千葉水電、浴西館各監査役、藤倉電線製作課長、東京府在籍
 妻 ヤ 衛門三女
 男 重直 明四〇、九生、東京、宇田川徳左衛門三女
 女 義直 明四〇、一一生、生母、東京、櫻井やぶ
 女 久枝 大八、一一生、九生

尾形祐壽 住友銀行深川支店長
 妻 ミシ 長女
 男 祐一郎 明四四、三生
 女 文子 大五、二生

尾形邦藏 岡山縣多額納税者、尾崎商店店主
 妻 マチ 二女
 男 芳郎 大二、四生

尾形清七 家主
 妻 コト 文久二、一〇生、祖父清七二女
 男 清六 明四二、一〇生

尾形泉之助 兵庫銀行専務取締役
 妻 しげ 慶應三、八生、養父清左衛門長女
 男 英夫 明二六、一一生
 女 ことみ 明二六、九生、長男英夫妻、兵庫
 男 龍 明三七、二生

尾形忠孝 正五位、男爵
 妻 隆野 明八、二生、大阪、松本和吉二女
 男 忠久 大五一、一〇生

尾形種太郎 大東物産代表取締役、ヤマト土地産業監査役、徳泰公司、野村林業各監査役、大阪府在籍
 妻 八重子 明二、一一生、現戸主
 男 明三 明二、一一生、現戸主
 女 明三 明二、一一生、現戸主

尾形忠太郎 日本石油取締役
 妻 シズ 左衛門孫
 男 作太郎 明三九、一一生
 女 明三 明三九、一一生

尾形三吉 徳川紡績、伊勢織物各代表取締役
 妻 リヤウ 明元、一〇生、愛知、三浦伊左衛門長女
 男 浩介 明二四、八生
 女 静子 大八、一〇生、長男浩介妻、愛知、三浦伊左衛門三女

尾崎邦藏 岡山縣多額納税者、尾崎商店店主
 妻 マチ 二女
 男 芳郎 大二、四生

尾崎生三 中国銀行、後月銀行各取締役
 妻 宛女 明一二、一〇生、岡山、井上信藏
 男 尙文 明三七、五生
 男 英雄 明四四、五生

ありア二五一(東京、四谷、本村町三三四四谷四五六)

尾形六郎兵衛 尾形商事代表取締役、東洋漁業専務取締役、酒田木村鶴岡米穀取引所専務理事、山形縣在籍
 妻 富美 明四一、一一生、山形、小野太右衛門四女
 男 昌夫 昭四〇、三生

尾川原源三郎 鋼鐵商
 妻 ヒサ 長女
 男 小松 明二四、八生、兵庫、時永佐太郎二女

尾佐竹 堅 從五位、臺灣總督府州事務官、臺南州警務部長、東京府在籍
 妻 得 大四、二生、大阪、吉村吉造妹
 男 瑞枝 明三〇、一〇生、養父作次郎長女
 女 明三 明三〇、一〇生、養父作次郎長女

尾崎榮之助 大同銀行、那智銀行、古屋銀行、南海遊園各取締役、新宮電力監査役、和歌山縣在籍
 妻 とく 明四、一〇生、養父作次郎長女
 男 梅一 明三〇、一〇生、養父作次郎長女
 女 瑞枝 明三〇、一〇生、養父作次郎長女

尾崎忠孝 正五位、男爵
 妻 隆野 明八、二生、大阪、松本和吉二女
 男 忠久 大五一、一〇生

尾崎種太郎 大東物産代表取締役、ヤマト土地産業監査役、徳泰公司、野村林業各監査役、大阪府在籍
 妻 八重子 明二、一一生、現戸主
 男 明三 明二、一一生、現戸主
 女 明三 明二、一一生、現戸主

尾崎忠太郎 日本石油取締役
 妻 シズ 左衛門孫
 男 作太郎 明三九、一一生
 女 明三 明三九、一一生

尾崎三吉 徳川紡績、伊勢織物各代表取締役
 妻 リヤウ 明元、一〇生、愛知、三浦伊左衛門長女
 男 浩介 明二四、八生
 女 静子 大八、一〇生、長男浩介妻、愛知、三浦伊左衛門三女

尾崎邦藏 岡山縣多額納税者、尾崎商店店主
 妻 マチ 二女
 男 芳郎 大二、四生

尾崎生三 中国銀行、後月銀行各取締役
 妻 宛女 明一二、一〇生、岡山、井上信藏
 男 尙文 明三七、五生
 男 英雄 明四四、五生

尾崎泉之助 兵庫銀行専務取締役
 妻 しげ 慶應三、八生、養父清左衛門長女
 男 英夫 明二六、一一生
 女 ことみ 明二六、九生、長男英夫妻、兵庫
 男 龍 明三七、二生

尾崎清七 家主
 妻 コト 文久二、一〇生、祖父清七二女
 男 清六 明四二、一〇生

君は山形縣人尾形友藏の二男にして明治十三年二月を以て生れ大正五年兄爲治方より分れて一家を創立す明治三十五年山形師範學校を同四十年廣島高等師範學校數物化學科を卒業し同年熊本縣師範學校教授となり編東京城中學校教諭兼京城醫學專門學校教授京城女子高等普通學校教諭等に歴任し大正十四年京城第一公立高等女學校長に任じ昭和五年十一月大邱公立中學校長に轉じ今日に至る家族は尙二女登美(大八、一一生)あり(朝鮮、大邱公立中學校内)

君は山形縣人尾形良行の長男にして明治二十年七月を以て生れ大正十五年家督を相続し明治三十九年廣濱商業學校を卒業し住友銀行に入り現時住友銀行深川支店長たり家族は尙二男祐信(大七、四生)三女正子(同九、八生)四女久子(同一一、九生)五女治子(同一一、四、一一生)の外弟光哉(明二九、三生)同妻マツ(同三四、八生、神奈川、小谷萩三郎長女)同二(同三五、一一生)參照ニ川田徳左衛門の項

君は岡山縣人先代邦藏の二男にして明治十七年三月を以て生れ同二十八年家督を相続し前名眞壽太を改め眞名織物商を営み尾崎商店社長の外前記各會社の重役にして直接納税四千二百四十一圓を納め岡山縣多額納税者たり家族は尙二女雅子(大八、二生)二男房次郎(同一一、四生)の外姉婿(慶應元、七生)姪龜久代(明三七、一一生、姉婿二女)同夫義夫(同三六、八生、岡山、戸田近太郎六男)及其一子あり甥巖(同三〇、五生、姉婿二男)同妻光(同三一、五生、大阪、岡田萬太郎長女)及其一子あり分家せり(岡山、兒島、琴浦町)參照ニ佐上信一の項

君は大阪府人先代清七の長男にして明治十九年九月を以て生れ同四十二年家督を相続し前名清治を改め眞名す家主たり家族は尙五男清一(昭二、一〇生)伯母の(安政六、一一生、亡父清七養姉)あり弟清三(明二七、四生)は分家し姉コト(同三一、四生)は大阪府人夫矢幸八に嫁せり(大阪、西、京町堀上通五ノ六九電土佐堀五三三)參照ニ大矢幸八の項

君は兵庫縣人上杉孫助の二男にして明治元年三月を以て生れ先代清左衛門の養子となり同二十七年家督を相続し現時前記銀行の重役たり家族は尙孫正一(大八、四、七生、長男英夫長男)同姉江(同七、一一生、同長女)同眞一(同二、六生、同二男)同眞二(同二、四、六生、同三男)同眞三(昭五、一一生、同二女)あり養父清左衛門(弘化四、一〇生)同妻みな(安政二、六生、兵庫、中島太右衛門妹)は其子女を伴ひ分家し長女ひで(同二〇、一〇生)は兵庫縣人松井和郎長男和平治に養子てい(同二〇、六生、兵庫、大坪常吉妹)は同縣人性川龜太郎に同しゆ(同二八、七生、兵庫、溝口藤吉二女)は同縣人稲田良次に養妹かめ(同八、八生)は同縣人庄助藏長男熊太郎に嫁し二男發(同三一、九生)は同

君は山形縣人尾形友藏の二男にして明治十三年二月を以て生れ大正五年兄爲治方より分れて一家を創立す明治三十五年山形師範學校を同四十年廣島高等師範學校數物化學科を卒業し同年熊本縣師範學校教授となり編東京城中學校教諭兼京城醫學專門學校教授京城女子高等普通學校教諭等に歴任し大正十四年京城第一公立高等女學校長に任じ昭和五年十一月大邱公立中學校長に轉じ今日に至る家族は尙二女登美(大八、一一生)あり(朝鮮、大邱公立中學校内)

君は山形縣人尾形良行の長男にして明治二十年七月を以て生れ大正十五年家督を相続し明治三十九年廣濱商業學校を卒業し住友銀行に入り現時住友銀行深川支店長たり家族は尙二男祐信(大七、四生)三女正子(同九、八生)四女久子(同一一、九生)五女治子(同一一、四、一一生)の外弟光哉(明二九、三生)同妻マツ(同三四、八生、神奈川、小谷萩三郎長女)同二(同三五、一一生)參照ニ川田徳左衛門の項

君は岡山縣人先代邦藏の二男にして明治十七年三月を以て生れ同二十八年家督を相続し前名眞壽太を改め眞名織物商を営み尾崎商店社長の外前記各會社の重役にして直接納税四千二百四十一圓を納め岡山縣多額納税者たり家族は尙二女雅子(大八、二生)二男房次郎(同一一、四生)の外姉婿(慶應元、七生)姪龜久代(明三七、一一生、姉婿二女)同夫義夫(同三六、八生、岡山、戸田近太郎六男)及其一子あり甥巖(同三〇、五生、姉婿二男)同妻光(同三一、五生、大阪、岡田萬太郎長女)及其一子あり分家せり(岡山、兒島、琴浦町)參照ニ佐上信一の項

オ(ヲ)之部 尾(上)

て千歳座に初舞臺を... 歌舞伎座に於て六代目尾上菊五郎を襲名す以降日本舞踊の名手... 尾上 金吉 尾上 清治郎 尾上 治三郎 尾上 登太郎 尾上 利治

尾上 作兵衛 尾上 八郎 尾上 通三 尾上 花仲次 尾上 設藏 尾上 清治郎 尾上 治三郎 尾上 登太郎 尾上 利治

尾上 梅幸 尾上 義純 尾上 儀助 尾上 佐七 尾上 知 尾上 久子 尾上 正知

オ(ヲ)之部 尾(上)

井筒兵衛(其二子と共に各分家し三男作壽(同三六、一一生)も亦分家せり(姫路、俵町一四) 尾上 治三郎 尾上 登太郎 尾上 利治

尾上 清治郎 尾上 治三郎 尾上 登太郎 尾上 利治

尾上 梅幸 尾上 義純 尾上 儀助 尾上 佐七 尾上 知 尾上 久子 尾上 正知

オ(ヲ)之部 尾(上)

尾上 登太郎 尾上 利治

尾上 利治

尾上 梅幸 尾上 義純 尾上 儀助 尾上 佐七 尾上 知 尾上 久子 尾上 正知

オ(ヲ)之部

尾(上、畑、花、原、本)

オ(ヲ)之部

オ(ヲ)之部

尾上 八郎 尾上 通三 尾上 花仲次 尾上 設藏 尾上 清治郎 尾上 治三郎 尾上 登太郎 尾上 利治

尾上 梅幸 尾上 義純 尾上 儀助 尾上 佐七 尾上 知 尾上 久子 尾上 正知

尾上 梅幸 尾上 義純 尾上 儀助 尾上 佐七 尾上 知 尾上 久子 尾上 正知

女 信 明四四、一一生、實踐女學校出身... 尾山 馨 湯澤蓄電池製造取締役... 尾山 馨 湯澤蓄電池製造取締役...

尾山 三郎 富山縣副議長、富山市會議長... 尾山 三郎 富山縣副議長、富山市會議長...

君は海軍中將尾本知道の長男にして明治十五年七月を以て生れ大正十四年家督を相続す...

男庭善之助 從四位勳三等、檢事、岡山地方裁判所檢事正、茨城縣在籍...

於勢 升 大阪府會議員、日ノ丸電線、城東土地各取締役、大阪府在籍...

於保 乙彦 從四位勳四等、醫學博士、臺灣總督府醫院院長兼臺北醫學專門學校教授...

君は愛媛縣人越智登太の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正九年東京帝國大學醫學部卒業...

君は佐賀縣士族福地隆春の三男にして深江基太郎の弟なり明治十一年十月を以て生れ先代惟新の養子となり...

越知了一郎 千代田信託經營部長、東京府在籍...

君は兵庫縣人高桑元精の二男にして明治十年九月を以て生れ大正五年家督を相続す...

越智喜三郎 日華紡織總務取締役、愛媛縣在籍...

越智主一郎 從五位勳六等、工學博士、工業試驗所技師、東京工業試驗所第二部長、東京府在籍...

越智貞見 正五位勳四等、醫學博士、北海道帝國大學教授、醫學部勤務...

越智茂登太 勳七等、愛媛縣會議員、周榮製絲廠取締役、愛媛縣在籍...

君は愛媛縣人越智登太の長男にして萬延元年七月を以て生れ後家督を相続す...

緒明 圭造 勳四等、東京橫濱電氣、日黒蒲田電氣各取締役、南洋郵船監査役、緒明代表社員、靜岡縣在籍...

緒方求太郎 南滿洲鐵道代表取締役、熊本縣酒造研究所總務取締役、阿部商店取締役、熊本縣在籍...

緒方 清繼 正五位勳五等、臺灣總督府法院判官、高等法院覆審部、長

君は熊本縣士族緒方義成の長男にして明治二十年一月を以て生れ同二十二年家督を相続す同三十八年明治大學專門部法科を卒業し裁判所書記官試用試験及判事登用試験に合格し司法官候補となり大正二年検事に任じ鹿兒島區兼同地方土浦區水戸地方兼同區東京區兼同地方各裁判所検事を經て同八年臺灣總督府法院判官に轉じ爾來臺北地方法院高等法院覆審部兼臺北地方法院各判官臺北地方法院新支那部會審部長兼臺北地方法院新支那部會審部判官兼覆審部判官臺北地方法院判官兼覆審部判官等職に歷補し昭和五年現職に轉ず家族は尚二女澄(大六、四生)二男卓(同八、九生)三男英(同二、一)四女靜枝(昭四、五生)あり姉子(明一六、一)生は熊本縣人角田吉太郎に嫁せり(臺北、高等法院覆審部)

緒方倉太郎

君は福岡縣人緒方久左衛門の長男にして明治十年八月を以て生れ同三十五年家督を相続す金融業を營み傍ら前記銀行の重役營業稅調査委員所得稅調査委員甘木町助役其の他名譽職に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接國稅三千七百四十七圓を納む長女トミ(明三六、九生)は福岡縣人山下健藏に嫁し弟與三郎(同四、二生)

緒方 健三郎 正五位勳六等、第六高等學校教授、福岡縣士族
君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)
緒方治三郎 熊本縣多額納稅者、鐵砲商
君は熊本縣士族緒方慶次郎の長男にして明治九年五月を以て生れ大正十年家督を相続す明治三十年慶應義塾

緒方 健三郎 正五位勳六等、第六高等學校教授、福岡縣士族
君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)
緒方治三郎 熊本縣多額納稅者、鐵砲商
君は熊本縣士族緒方慶次郎の長男にして明治九年五月を以て生れ大正十年家督を相続す明治三十年慶應義塾

緒方 健三郎

君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)

緒方 健三郎 正五位勳六等、第六高等學校教授、福岡縣士族
君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)
緒方治三郎 熊本縣多額納稅者、鐵砲商
君は熊本縣士族緒方慶次郎の長男にして明治九年五月を以て生れ大正十年家督を相続す明治三十年慶應義塾

緒方 健三郎

君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)

緒方 健三郎

君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)

緒方 健三郎 正五位勳六等、第六高等學校教授、福岡縣士族
君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)
緒方治三郎 熊本縣多額納稅者、鐵砲商
君は熊本縣士族緒方慶次郎の長男にして明治九年五月を以て生れ大正十年家督を相続す明治三十年慶應義塾

緒方省一郎

君は福岡縣人緒方省三の長男にして明治十年八月を以て生れ同四十二年家督を相続す同三十七年京都帝國大學法科大學法科を卒業し司法官候補となり翌三十八年検事に任じ爾來名古屋赤岡區各區長崎區同地方廣瀨區同地方小田原區兼廣瀨地方宇都宮地方兼同區廣瀨地方兼同區各裁判所檢察官廣瀨地方兼同區廣瀨地方兼同區各裁判所檢察官廣瀨地方兼同區廣瀨地方兼同區各裁判所檢察官等職に歷補し今日に至る(高松、地方裁判所内)

緒方多賀雄

君は熊本縣士族緒方三也の三男にして明治二十年二月を以て生れ同二十七年兄緒方三郎より分れて一家を創立す其に陸軍士官學校を卒業し同二十四年陸軍歩兵少尉に任じ大正九年陸軍中將に陞進す其間陸軍戸山學校教官廣島地方幼年學校校長第五十六聯隊第七師第四十四大隊長臨時朝鮮派遣步兵第一聯隊長步兵第七十九聯隊長步兵第九旅團長旅團長等官等に歷補し後豫備役編入仰付けられ爾來郷里に在りて閑日を送つ、あり家族は尚三男正晴(大四、二)あり長女隆(明三三、二)生は熊本縣人法學士赤尾亮に嫁せり(熊本本市莊町五〇七)

緒方竹虎

君は福岡縣人緒方道平の二男にして同大衆の弟なり明治二十一年一月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す東京高等商業學校早稻田大學に學び次で歐米に三年間留學生として倫敦に在りて戦後の社會事情を研究す現時朝日新聞社取締役にして東京朝日新聞編輯局長たり家族は尚二男研二(大六、一〇)生は長女郁子(明九、一〇)生、三男四郎(昭二、一)生あり養子郁子(明三、一〇)生、福岡、緒方三郎三女、お茶水高女專攻科出身(他に嫁せりA四五二(東京市外大久保町百人町三三一)電四谷一四二四)

緒方 健三郎

君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)

緒方 健三郎

君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)

緒方 健三郎

君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)

緒方 健三郎

君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)

緒方 健三郎

君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)

緒方 健三郎

君は福岡縣士族緒方達太郎の長男にして明治二十一年四月を以て生れ大正九年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學文學科を卒業し同五年愛知縣立第二中學校教諭となり同六年第六高等學校教授に任じ今日に至る同八年英米佛伊に留學を命ぜられ同十年歸朝す家族あり(岡山市第六高等學校内)

會理事たり尙醫學會產婆會等の顧問議員に推される家
族は尙二男正美(大一一、七生)尙正世(同一二、一〇
生)四男正名(同一四、九生)長女みどり(昭二、一〇
生)あり養弟英俊(昭二、一〇生)は分家せり(大阪、
東、今橋三ノ一八電本局一九八四)

織田秋之助

關西ハイソト憲務取締役
京都府在籍
父 義二郎 安政二、一、生、現戸主
母 すま 安政六、六、生、兵庫、三木六郎三女
妻 愛 明二七、一、一、生、京都、眞下六右
衛門五女

竹之助 大五、一、二、生
君は京都府人織田義二郎の長男にして明治二十二年十
二月を以て生れる同十四年山口高等商業學校を卒業し
現時關西ハイソト會社事務取締役たり家族は尙長女道
子(大七、一、二、生)二男孝治郎(同九、三、生)二女久美子
(同一四、九、生)弟勝年(明二八、七、生)あり姉(ゆづ)
(同一二、六、生)は京都府人石井與治右衛門に同早苗(同
一七、六、生)は兵庫縣人中島欽三に同國生(同一〇、二
生)は同縣人吉井明四郎に嫁し三男德三郎(同一、二
生)は前記與治右衛門の養子となり姉(中)明四、一〇
生)は同夫後(同一、九、生)兵庫、田中瀧之丞(弟)
と共に其三子を伴ひ分家し弟桃四郎(同一、四、生)は
滋賀縣人森みづの夫となり(兵庫、川邊、小田村)

君は福井縣人織田仲彌の四男にして明治十四年一月を
以て生れる昭和二年兄武次郎方より分れて一家を創立す
明治四十年京都帝國大學法科大學獨科を卒業し同四
十二年判事に任じ大阪府兼同地方各裁判所判事大阪名
古屋東京各控訴院判事東京地方裁判所判事東京控訴院
部長等に歴補し昭和三年現職大審院判事に轉ず家族は
尙二男正彌(大三、一〇、生)三男善雄(同七、三、生)四男秀
雄(同九、一、一、生)五男明(昭三、五、生)あり長女露子(明
四、四、生)實踐女學校專門部家政科出身(福島縣人
綠川松太郎養子)に嫁せり(東京市外吉祥寺一三一六)

織田嘉七

正五位勳四等、判事、大審院判事
東京府在籍
妻 テル 明二四、四、生、福井、橋本善助長女
男 一郎 明四五、二、生

織田佐太郎

織田信託事務取締役、警視廳
父 昇次郎 安政二、三、生、現戸主
妻 秀子 明三、七、生、男爵多九龍三郎姉
女 昇藏 大八、一、一、生

織田信大

從四位、子爵、巧藝社常務理事
舊丹波柏原藩
妻 絹子 明三五、二、生、東京、淺野雪彦姉
男 信和 昭三、一、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信大

從四位、子爵、巧藝社常務理事
舊丹波柏原藩
妻 絹子 明三五、二、生、東京、淺野雪彦姉
男 信和 昭三、一、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

神戶急行貨物自動車、兵庫大種魚
市場各取締役、大種商會代表
社員、兵庫縣在籍
妻 マサ 明二八、九、生、長崎、田中信太郎
二女

織田喜一郎

正五位勳四等、工學博士、九州帝
國大學教授、工學部勤務
父 經二 明二五、五、生、工學博士、大竹太
郎姉
母 あさ 明二五、五、生、工學博士、大竹太
郎姉

織田經二

正五位勳四等、工學博士、九州帝
國大學教授、工學部勤務
父 經二 明二五、五、生、工學博士、大竹太
郎姉
母 あさ 明二五、五、生、工學博士、大竹太
郎姉

織田千代

大三、一、〇、生
君は故理學博士織田顯次郎の二男にして明治十七年十
二月を以て生れる同十六年家督を相続す同十四年京
都帝國大學理工科大學製造化學科を卒業し九州帝國大
學工學部助教授に任じ大正三年應用化學研究の爲獨
英米各國に留學し同五年歸朝し同大學工學部助教授
に進み今日に至る同七年工學博士の學位を受け昭和五
年再び歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙(同一〇、
二、五、七、生)第五郎(同一三、五、二、生)あり姉(同一〇、
二、五、七、生)は長野縣士族三根九十郎に同新(同一〇、
二、五、七、生)は京都府人長松太郎に嫁し第四郎(同一二、
一、一、生)は同府人竹上正之助の養子となり(福岡市春吉四十川
一六四電三七二)

織田佐太郎

織田信託事務取締役、警視廳
父 昇次郎 安政二、三、生、現戸主
妻 秀子 明三、七、生、男爵多九龍三郎姉
女 昇藏 大八、一、一、生

織田信大

從四位、子爵、巧藝社常務理事
舊丹波柏原藩
妻 絹子 明三五、二、生、東京、淺野雪彦姉
男 信和 昭三、一、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

織田信恒

正四位、子爵、陸軍三等主計、貴
族院議員、舊羽前藩
妻 みい 明二五、四、生、養父信敏二女、學
習院女學生

織田長利

正五位、子爵
舊和州柳本藩
妻 絢子 明四一、七、生、子爵鍋島直和長女
男 長功 昭五、七、生

父の事業を扶け現時織田信託會社事務取締役に任じ傍
ら警視廳セメント會社取締役たり家族は尙二男俊夫(大
九、一、一、生)長女和子(同一一、五、生)三男三良(同一
四、二、生)二女百合子(同一五、五、生)三女昭子(昭二、六
生)ありA六四〇〇(東京、麴町、上二番町一四電九段
三三四)
參照 男爵多九龍三郎、織田昇次郎、男爵鍋島綱隆
の項

織田昇次郎

織田信託事務長、東京株式取引所
監理事、東京府在籍
妻 ス、 元治元、一、一、生、東京、尾崎金五
郎長女

織田清吉

黒田屋、材木商
妻 なを 明一七、八、生、東京、田邊豊吉長女
養子 和歌子 大元 一〇、一〇、生、東京、西脇幸太郎
二女

織田長繁

舊和州芝村藩
妻 明五、一、一、生、東京、士、森長實養
妹

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

織田雄次

朝鮮興業取締役
妻 種子 明一九、三、生、養父完之妻
男 長雄 明四〇、一、一、生
女 三千子 明四四、三、生

商業會議所特別議員たりし事あり現時島根縣多額納稅者にして出雲電氣會社社長たる外前記銀行會社の重役たり家族は尚孫ミヤ(大六、四生、養子ノア私生子)あり明定(明一八、一〇生、亡兄豐太郎長男)は同妻シ(同二四、二生、島根、山内仙之助三女)を伴ひ分家し庶子マツヨ(同二八、七生、生母、佐々木テヲ)も亦分家せり(松江、末次本町)

及川

君は岩手縣多額納稅者、鹽江電力電取締役、農務、岩手縣在籍、
妻 明一〇、八生、宮城、土、田母神、明長女
男 明三三、一、五生
女 明三八、一、一、生、長男一男妻、宮城、米城三郎長女

君は岩手縣人及川七藏の長男にして明治七年二月を以て生れ同二十九年家督を相続す農業とし傍ら鹽江電力會社取締役に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接國稅一千六百六圓を納む家族は尚孫淳(六一三、三、生、長男一男長男)同昌子(同一五、七、生、同長女)同和子(昭五、五、生、同二女)あり姉サツヨ(明二、一〇生)は同夫忠太郎(同二、一〇生、岩手、及川丑太郎二男)と共に妹リツ(同二二、九生)は同夫彌十郎(同一七、五、生、岩手、佐々木久内二男)及其四子と共に各分家せり(岩手、鹽澤、金ヶ崎町)

及川

君は岩手縣人及川榮吉の長男にして明治十八年九月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十九年盛岡高等農林學校獸醫學科を卒業し更に同校研究所に入り海外實業練習生牧畜馬事業研究の爲渡米し同四十二年英佛獨に同四十二年アルゼンチンに各出張を命ぜらる爾來馬政局技手を經て同局技師となり宮城種馬所長に補せられ更に石川種馬所長に轉ず現に前記の官職に在り家族は尚二男浩次(大五、一、二生)三男敏正(同七、一、一、生)四男茂(同九、一、一、生)五男淳(同一二、五、生)は北海道人阿部庄太郎養子牛馬次の養子となり(宮)

君は千葉縣人加藤泰藏の二男にして明治十六年八月を以て生れ同三十七年及川三郎の養子となる同三十九年千葉醫學院醫學科を卒業し大正二年朝鮮總督府道憲慈恵醫院醫官に任ぜられ平壤慈恵醫院耳鼻咽喉科長を命ぜらる同十三年官命によりて歐米に出張昭和四年平安南道立平壤醫院院長兼平壤醫學講習所長となり同府技師を兼任し今日に至る同三年醫學博士の學位を受く(平壤、道立醫院内)

君は岩手縣人及川菊次郎の長男にして明治二十三年八月を以て生れ大正五年家督を相続す農業とし傍ら盛岡貯蓄銀行取締役に兼任人に擧げられ縣下の多額納稅者にして直接國稅千四百一十一圓を納む家族は尚二男子之助(六一〇、二、生)三男潤三(同一四、六、生)四男盛雄(昭三、五、生)四女久美子(同五、九、生)弟要一(明三七、一、二、生)同妻サホ(同四二、一〇、生、岩手、高田善兵衛長女)同儀一(同四四、一、一、生)あり妹ツル(同三〇、一、一、生)は分家し同儀二(同四三、三、生)は岩手縣人高橋善太郎長男八郎に嫁せり(岩手、和賀、十二鐘村)

及川

君は千葉縣人加藤泰藏の二男にして明治十六年八月を以て生れ同三十七年及川三郎の養子となる同三十九年千葉醫學院醫學科を卒業し大正二年朝鮮總督府道憲慈恵醫院醫官に任ぜられ平壤慈恵醫院耳鼻咽喉科長を命ぜらる同十三年官命によりて歐米に出張昭和四年平安南道立平壤醫院院長兼平壤醫學講習所長となり同府技師を兼任し今日に至る同三年醫學博士の學位を受く(平壤、道立醫院内)

及川

君は千葉縣人加藤泰藏の二男にして明治十六年八月を以て生れ同三十七年及川三郎の養子となる同三十九年千葉醫學院醫學科を卒業し大正二年朝鮮總督府道憲慈恵醫院醫官に任ぜられ平壤慈恵醫院耳鼻咽喉科長を命ぜらる同十三年官命によりて歐米に出張昭和四年平安南道立平壤醫院院長兼平壤醫學講習所長となり同府技師を兼任し今日に至る同三年醫學博士の學位を受く(平壤、道立醫院内)

君は千葉縣人加藤泰藏の二男にして明治十六年八月を以て生れ同三十七年及川三郎の養子となる同三十九年千葉醫學院醫學科を卒業し大正二年朝鮮總督府道憲慈恵醫院醫官に任ぜられ平壤慈恵醫院耳鼻咽喉科長を命ぜらる同十三年官命によりて歐米に出張昭和四年平安南道立平壤醫院院長兼平壤醫學講習所長となり同府技師を兼任し今日に至る同三年醫學博士の學位を受く(平壤、道立醫院内)

君は岩手縣人及川良吾の長男にして同邊の甥なり明治十六年二月を以て生れ同三十八年家督を相続す同邊に海軍學校を卒業し海軍少尉に任じ果進して海軍少將に任ぜらる其間東宮武官多摩艦長海軍少佐兼第一課長海軍學校教授兼監事長兼陸軍少將兼第一課長現時海軍々司令部參謀たり家族は尚三男三千雄(六七、一、生)あり弟榮郎(明二一、三、生、東京美術學校出身、洋畫家)は分家し同陸郎(同二四、二、生、農學士)は同妻和(同三六、九、生、滋賀、内田捨次郎三女)を伴ひ同典郎(同二九、一、生、理學士)同妻アイ(同三六、六、生、岩手、大矢馬太郎三女)は其一子を伴ひ亦各分家し妹イヨ(同三五、三、生)は東京帝國大學助教山口吉郎に嫁せり(東京市外大久保町西大久保九一)

及川

君は岩手縣人及川忠左衛門の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正五年家督を相続す大正四年東京帝國大學法科を卒業し直に司法官候補となり同七年豫備判事に任じ甲府地方兼同區高田東京地方兼同區各裁判所判事東京府

及川

君は岩手縣人及川忠左衛門の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正五年家督を相続す大正四年東京帝國大學法科を卒業し直に司法官候補となり同七年豫備判事に任じ甲府地方兼同區高田東京地方兼同區各裁判所判事東京府

君は岩手縣人及川忠左衛門の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正五年家督を相続す大正四年東京帝國大學法科を卒業し直に司法官候補となり同七年豫備判事に任じ甲府地方兼同區高田東京地方兼同區各裁判所判事東京府

君は岩手縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は岩手縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

君は石川縣人及川吉志郎の叔父にして明治二十四年七月を以て生れ大正七年及川頼母の養子となる同五年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し旅順工科學堂教授となり同七年電氣工學研究の爲米學に留學を命ぜられ歸朝後警備局技師となり今日に至る家族は尚長女遊子(六一〇、七、生)二女千恵子(同一二、一、生)あり(東京市外東調布町上沼部一九電田園調布二六四) 參照II及川吉志郎の項

參照 派岩飛邦彦の項

大井 成元 從二位勳一等功一級、男爵、陸軍大將、貴族院議員、山口縣華族

大井 清一

君は山口縣人大井又平の三男にして文久三年九月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し前名菊太郎を改む

大井 傳治郎

君は京都府人大井金三郎の二男にして明治十二年一月

大井 成元

君は山口縣人大井又平の三男にして文久三年九月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し前名菊太郎を改む

大井 清一

君は山口縣人大井又平の三男にして文久三年九月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し前名菊太郎を改む

大井 傳治郎

君は京都府人大井金三郎の二男にして明治十二年一月

大井 成元

君は山口縣人大井又平の三男にして文久三年九月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し前名菊太郎を改む

大井 清一

君は山口縣人大井又平の三男にして文久三年九月を以て生れ大正二年分れて一家を創立し前名菊太郎を改む

大井 傳治郎

君は京都府人大井金三郎の二男にして明治十二年一月

大井 義子

君は大阪府人大井伊助の妹同秀夫の叔母同故太郎の養

大井 紋太郎

君は大阪府人大井文次郎の長男同秀夫の養兄同ミツの

大井 上前雄

君は大阪府大井上前雄の二男にして明治七年十二月

大井 上義近

君は四位勳三等、商工技師、鐵山局

大井 義子

君は新潟縣人大井原作の三男にして明治九年十二月を

大井 文右衛門

君は大阪府人大井伊助の三男同ミツの甥同故太郎の養

大井 秀夫

君は大阪府人大井伊助の三男同ミツの甥同故太郎の養

大井 文右衛門

君は大阪府人大井伊助の三男同ミツの甥同故太郎の養

大井 義子

君は京都府人大井伊助の三男にして明治九年十二月を

大井 源治

君は山口縣大井源治の四男にして明治二十年八月

大井 五郎

君は山口縣大井源治の四男にして明治二十年八月

大井 公平

君は山口縣大井源治の四男にして明治二十年八月

君は和歌山縣人大石學の三男にして明治十九年四月を以て生れ大正五年延美智恵方より分れて一家を創立す

大石 繁吉 從四位勳二等、豫備海軍中將、京都府在籍

妻 新 一 明三三、一〇生、兵庫、士、里見 男 明三三、一〇生、兵庫、士、里見

大石 七郎 明治海軍、三興商事各取締役、京都府在籍

妻 カメヨ 明一三、三、愛媛、杉浦義徳長 男 明三六、四、同志社女學部出身

君は佐賀縣土族北島種行の弟にして明治三年三月を以て生れ先代武安の養子となり同三十二年家督を相続す

直木三郎長男潤一に嫁せりA二二三(神戸、中山手通 四ノ四電番合三三三六)

大石 甚兵衛 靜岡縣多額納稅者、靜岡商工會議 所議員、大甚、金物商

妻 静江 大五、三三 男 明四三、五 女 静江 大五、三三

大石 節義 安田銀行八幡支店長、京都府在籍

妻 嘉永五、一〇生、京都、士、高杉 男 明二二、四、京都、高杉正恭二女

君は京都府土族大石精義の長男にして明治八年十一月を以て生れ同十八年家督を相続す

君は佐賀縣人大石太郎の孫にして明治三十年四月を以て生れ昭和四年家督を相続す

大石 蜂郎 靜岡縣在籍、行高橋基江の項

妻 明三〇、一二生、静岡、神谷惣吉 男 明三〇、一二生、静岡、神谷惣吉

大石 大 愛媛鐵道社長、高知縣在籍

妻 嘉永五、四、高知、依光常之丞 男 明一八、一、京都、士、武内

君は高知縣人大石秀太郎の三男にして明治十年一月を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す

一〇生(は分家し男亨(大一一、五生、弟義重二男)は 高知縣人川口熊藏の養子となれり(高知市小高坂一四 二電五五七)

大石 浩 從五位勳六等、臺灣總督府技師、 營林所造林課長、熊本縣土族

妻 安政五 三三、熊本、谷藤彌二男 男 明二八、一、熊本、谷藤彌二男

君は熊本縣土族大石永勝の三男にして明治二十三年十 月を以て生れ大正三年東京帝國大學農科大學林學科を

大石 正吉 正四位勳三等、海軍少將、山階宮 別當、東京府土族

妻 明七、一、大坂、山口源治郎姉 男 明三五、一、工學士、東邦電 力會社社員

君は京都府土族佐谷代の三男にして安井成吉佐谷有吉 同養子の兄なり明治七年十月を以て生れ先代小左衛門

大石 正巳 正三位勳二等、元衆議院議員、 東京府土族

妻 明九、四、從四位勳四等 男 明九、四、從四位勳四等

君は宮城縣土族大石親倫の長男にして明治十年六月を 以て生れ後家督を相続す

大石 倫治 衆議院議員(宮城縣選出)、仙臺市 會議員、東北土地漆器專務取締 役、大日本鐵道專務取締役

妻 明四二、六 男 明四二、六 女 明四二、六

君は宮城縣土族大石親倫の長男にして明治十年六月を 以て生れ後家督を相続す

大石 三郎 從四位勳三等、氣象臺技師、高層 氣象臺長、震災豫防評議會評議員

君は佐賀縣人大石東吉の二男にして明治七年三月を以て 生れ同三十五年分れて一家を創立す

大石 梅次郎 五城銀行、仙臺平機業、山三カ 一、梅惣治、仙臺市場場監 製糖各取締役、仙臺魚市場場監 査役、宮城縣在籍

君は佐賀縣人大石東吉の二男にして明治七年三月を以て 生れ同三十五年分れて一家を創立す

大泉 勝吉 從五位勳六等、營林局技師、青森 營林局造林課長、宮城縣在籍

妻 元治元、四、現戸主 男 明三〇、七、宮城、大泉勝之助 女 明三〇、七、宮城、大泉勝之助

君は宮城縣人大泉勝四郎の長男にして明治二十一年一 月を以て生れ明治四十五年東京帝國大學農科大學林學

大泉 勝吉 從五位勳六等、營林局技師、青森 營林局造林課長、宮城縣在籍

妻 元治元、四、現戸主 男 明三〇、七、宮城、大泉勝之助 女 明三〇、七、宮城、大泉勝之助

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

大泉 哲

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

大泉林之丞

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

大磯 岩熊

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

大磯 重助

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

大出 善一

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

大岩 勇夫

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

大岩 榮吾

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

大植清左衛門

君は宮城縣人、大泉正名の四男にして、明治十二年四月を以て生れ、同四年分家して一家を創立す。同三十九年京都帝國大學法科大學を卒業し、安田銀行に入り、中村盛岡仙臺各支店長、大垣共立銀行取締役兼支配人を經て、現時前記各銀行の重役たり。家族は尙二男健二郎(大五、一、生)三男敏三郎(同三、六、生)あり。A一〇七五(東京、芝、白金三光町四四五電高輪八四七)

君は大阪府人、大植清左衛門の長男にして、明治九年九月を以て生れ、先代清左衛門の養子となり、大正十一年家督を相続し、前名萬太郎を改め、名を大正と改め、五年推されて、衆議院議員に當選し、現に立憲民政黨所屬たり。義に内如織物會社取締役たり。弟淳吉(明三五、九、生)は分家せり。(大阪、泉北、山瀧村字内畑一四九七)

大内 愛七

君は兵庫縣人、大内萬平の三男、同兵衛の兄にして、明治七年十一月を以て生れ、大正十二年兄宗次郎方より分れて一家を創立す。海軍機關學校を卒業し、海軍機關少尉に任じ、果敢して海軍少將に陞る。其間造船監督官として、英米國に駐在し、又佐世保海軍工廠造船部長たりし事あり。後三男英吾(大七、二、生)あり。現時同會社の重役たり。家族は尙三男英吾(大七、二、生)あり。長女ふみ(明三九、六、生)は愛媛縣人、野間克正に嫁せり。(東京、赤坂、青山高樹町一四四番山一五五九)

大内 幾松

君は宮城縣人、大内豊治の弟にして、慶應三年六月を以て生れ、明治四十年分れて一家を創立す。現時南國護謨會社専務取締役たり。家族は尙二男信男(大六、一、生)長女小松(同七、一、生)三男三良(同二〇、八、生)四男達良(同二一、七、生)あり。(東京、牛込、赤城下町二〇電牛込一三九四)

大内 一郎

君は宮城縣人、大内豊治の弟にして、慶應三年六月を以て生れ、明治四十年分れて一家を創立す。現時南國護謨會社専務取締役たり。家族は尙二男信男(大六、一、生)長女小松(同七、一、生)三男三良(同二〇、八、生)四男達良(同二一、七、生)あり。(東京、牛込、赤城下町二〇電牛込一三九四)

君は福島縣人、大内丈右衛門の長男にして、明治二十四年三月を以て生れ、同四十四年家督を相続す。現時同會社の重役にして、福島縣議員に推される。家族は尙三男三郎(明三六、一〇、生)同四郎(同三九、五、生)あり。同二郎(同二七、五、生)は福島縣人、大内チウの養子となり、妹エイ(同三二、六、生)は同縣人、井上俊雄に同ミシ(同三二、一、生)は同縣人、國分勇に同フミ(同三三、一、生)は同縣人、横田憲治に嫁せり。(福島、安達、二本松町)

大内 英次

君は福島縣人、大内丈右衛門の長男にして、明治二十四年三月を以て生れ、同四十四年家督を相続す。現時同會社の重役にして、福島縣議員に推される。家族は尙三男三郎(明三六、一〇、生)同四郎(同三九、五、生)あり。同二郎(同二七、五、生)は福島縣人、大内チウの養子となり、妹エイ(同三二、六、生)は同縣人、井上俊雄に同ミシ(同三二、一、生)は同縣人、國分勇に同フミ(同三三、一、生)は同縣人、横田憲治に嫁せり。(福島、安達、二本松町)

大内 定也

君は宮城縣人、大内豊治の弟にして、慶應二年八月を以て生れ、明治九年家督を相続す。同二十二年専修學校を卒業し、現時宮崎農工銀行取締役たり。家族は尙孫幸子(大一四、一、生)二男成彦(養子)、宮崎、泰助(大六)あり。

大内 孫次郎

君は宮城縣人、大内豊治の弟にして、慶應二年八月を以て生れ、明治九年家督を相続す。同二十二年専修學校を卒業し、現時宮崎農工銀行取締役たり。家族は尙孫幸子(大一四、一、生)二男成彦(養子)、宮崎、泰助(大六)あり。

君は德島縣人、大内喜三郎の二男にして、明治十七年八月を以て生れ、大正二年兄秀吉方より分れて一家を創立す。現時旭川酒造會社常務取締役たり。A一五三二B四五九(北海道、上川、水山村電一四八)

大内 清吉

君は德島縣人、大内喜三郎の二男にして、明治十七年八月を以て生れ、大正二年兄秀吉方より分れて一家を創立す。現時旭川酒造會社常務取締役たり。A一五三二B四五九(北海道、上川、水山村電一四八)

大内 兵衛

君は兵庫縣人、大内萬平の七男、同愛七の弟にして、明治二十一年八月を以て生れ、昭和元年秀茂方より分れて一家を創立す。大正二年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し、大藏省大藏書記官、東京帝國大學助教授等に歴任し、同四年米國に同十二年英佛獨各國に留學、同十二年東京帝國大學教授に任じ、現に經濟學部に勤務し、財政講座を擔任す。(東京、牛込、市谷河田町一電牛込六〇〇五)

大内 彌惣兵衛

君は兵庫縣人、大内萬平の七男、同愛七の弟にして、明治二十一年八月を以て生れ、昭和元年秀茂方より分れて一家を創立す。大正二年東京帝國大學法科大學經濟學科を卒業し、大藏省大藏書記官、東京帝國大學助教授等に歴任し、同四年米國に同十二年英佛獨各國に留學、同十二年東京帝國大學教授に任じ、現に經濟學部に勤務し、財政講座を擔任す。(東京、牛込、市谷河田町一電牛込六〇〇五)

大河原豊太郎 松井田銀行頭取、渡邊銀行頭取、

大河原雄吉 從五位勲六等、逓信局技師兼函館

大木 喬策 取、甲府電力監査役、吳服商

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 代吉 福島縣多額納稅者、矢吹銀行頭取

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

オ(ヲ)之部

大(木、城、喜)

(※印は姻族關係)

八三

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 代吉 福島縣多額納稅者、矢吹銀行頭取

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

大木 安造 富國徴兵保險(互)第三部長

大木 親雄 山梨縣在籍

オ(ヲ)之部

大(木、城、喜)

(※印は姻族關係)

八三

一、二生は香川縣人大山民子の入夫となり妹得志惠(同一五、九生)は同縣人岡岩太二男照彦に嫁し同與志惠(同一八、九生)は兄大喜多晋方に入家し姉阿彌(同元、八生)は其一女を伴ひ分家せり(香川、三豊、河内村)

大喜多寅之助

名岐自動車前社長、東邦商業學
校長、櫻園女學園長、中央運動協
會長、日本放送協會東海支部監事
増護士、岐阜縣士族

君は岐阜縣士族大喜多助の五男にして醫學博士岡田
鶴也の兄なり慶應二年十一月を以て生れ明治二十九年
家督を相続す同二十五年帝國大學法科大學第一部を卒
業し同年代官人免許を受け同二十六年増護士を卒業す
同二十七年愛知法律學校を設立し之が校長となり傍ら
名古屋金城新聞編輯監督となり又名古屋商業會議所特
別議員名古屋新聞社社長名古屋市會議員同參事會員同
市會議長等に推舉せられ大正十年名古屋市長に就任す
會議長となり之を辭し再び増護士を閉業し又義に東邦
商業學校を設立し其校長となり傍ら名古屋市立商業學
校講師たりし事あり現時前掲の職にあり家族は尙孫美
枝子(昭二、五生、二男光長女)同安(同四、三生、同
長男)あり四男正幸(昭三、二、一)は愛知縣人湯本
れいに弟治吉(同四、四生)は京都府人木反田鶴江に各
養子となり兄謙自(安政三、一)同妻テツ(慶應元、名
四生、秋田、柴田勝郎姉)は其子女を伴ひ分家せり(名
古屋、東、東外堀町二ノ五電東二九〇)

大給

君は東京府人大給近志の四男にして明治十四年一月を
以て生る同四十年文官普通試驗に合格し栃木縣屬と
なり爾來芳賀足利郡須賀野を経て大正十四年足利市
長となり今日に至る家族は尙兄松雄(昭七、五生、現
戸主)同妻ヒキ(昭一、一)生、山口、鶴岡俊雄(昭五、
弟實(昭二、一)同妻ヨシ(昭二、九、八生、北海
道、森脇善吉二女弟吉人(昭二、七、四生)同妻しき(同
三、一、一)生、北海道、土、飯田一郎妹)及各其子女あ

り兄武雄(同一、一)生)は北海道人大河内三千太郎の
養子となり(足利、市役所内)

大給

當家は徳川氏の支流松平左近大夫貞乘の二男龜頭眞
次の後なり累世三河國大給に住せしを以て大給松平と
稱す其父同國貞七千石に封ぜられ別一家をなす其
子乘次に至り一萬六千石に加増せらる夫より八代を經
て先代恒に至り藩名を龍岡と改む恒藩幕時代陸軍奉行
となり維新後左院議員元老院議員貴族院議員賞勳局長
裁審顧問官等に歴任し明治十七年子爵を授けられ同
四十年勳功に依り伯爵に陞る君は其長男にして安政
六年十月を以て生れ明治四十三年家督を相続し慶應
付ける家族は尙妹圓(昭八、一〇)生、同貞(同一〇、
七生)同増(同一二、一〇)生)あり(東京市外玉川村用賀
西ヶ原二五九)

大給

當家は徳川氏の支流松平左近丞乘正の次男大給左衛門
尉親清の後なり其子五左衛門近正上州三ノ倉五千石を
給ふ其孫左近將監成重の時丹波龜岡二萬三千石に封ぜ
られ後豊後府内に移る夫より十一世を経て先代近道
に至り明治十七年子爵を授けらる君は其長男にして明
治十二年七月を以て生れ同三十五年家督を繼承し翌年
日獨事件の功に依り勳四等に叙せられ後勳三等に陞る
順宮浴湯の儀鳴弦控被仰付家族は尙孫近達(昭五、
一)生、養子近憲長男あり二女幸子(昭三、九、六生、
女子學習院出身)は愛媛縣人土居保太郎に妹萬千子(同
二、三、六)生)は伯爵酒井忠良に嫁し弟近晴(同一七、三
生)は其子女を伴ひ分家せり(東京、本郷、駒込村一
〇五電小石川一九七)
參照||伯爵上杉憲章、伯爵酒井忠良、子爵永井尚敏

土井保太郎叔父伯爵龜井致常養子子爵板倉勝家
子爵稻葉順通養子子爵上杉勝昭養子子爵高辻宜廣
養子子爵藤内藤信利養子子爵細川立興養子子爵松平忠
壽養子子爵松平直幹養子子爵池田勝吉養子子爵林權
助、酒井忠孝養子上杉勝昭養子酒井忠純養子西脇健
治安田善次郎の項

大久保治

君は香川縣士族大久保恒彦の長男にして明治十二年三
月を以て生れ大正四年家督を相続す農業を營み直接國
稅四千五百四十一圓を納め香川縣多額納稅者たり家族
は尙弟勇(昭二、六、二)生)同妻ツキエ(昭三、二、二)生、
香川、赤松岩次郎長女)弟勇(昭三、三、二)生)あり(京
上、紫野東門前町)

大久保清松

君は新潟縣人大久保周策の四男にして明治十二年七月
を以て生れ同二十五年家督を相続す現時魚沼水力電氣
會社社長にして前記會社の重役たり家族は尙孫欽一(昭
三、七)生、長男東長男(昭三、四、四)生、同長女)
あり長女ツツ(昭三、八)生)は新潟縣人目黒十郎に二
女鏡子(昭三、一〇)生)は同縣人金澤新清四男進三に
嫁し養子ケン(同一七、五)生、新潟、大久保俊藏(二女)
同夫嘉藏(同三、一)生、新潟、大久保近藏弟)は共に分
家せり(新潟、中魚沼、中條村)

大久保源之丞

東京府參事會員、淺草區會議員、
常盤興行總務取締役、觀音劇場
稽察取締役、淺草興行組合取締
東京府士族

大久保繁雄

君は長崎縣士族大久保爲昭の四男にして明治十九年十
月を以て生れ同三十九年七兄益雄の後を受け家督を相
續す同四十五年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業
し直ちに三菱商事會社に入り累進して香港支店長に擧
げられ爾來大阪支店副社長新嘉坡支店長を経て現時同社
神戸支店長たり家族は尙長女英子(大、一、五)生)あり
A一五七(神戸、中山手通七ノ四九電元町四四七)
參照||塚島房次郎の項

大久保静平

君は大分縣人田北鳳太郎の四男にして明治二十六年八
月を以て生れ大正十年大久保百彦の養子となる先是同
七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し浦和地方法
判所東京地方裁判所等に勤務し更に第七高等學校造士
館教授に轉じ今日に至る家族は尙長女榮子(大、一、三、一
〇)生)二女愛子(昭五、一)生)あり(鹿兒島市上龍尾町七
二)

大久保準三

君は徳島縣人大久保朝多郎の二男にして明治十九年九
月を以て生れ大正八年朝多郎大久保氏を再興す明治四十
一年第二臨時教員養成所を卒業し富山縣立富山中學校

大久保忠雄

君は元熊本縣多額納稅者大久保彦四郎の孫にして明治
二十七年十二月を以て生れ昭和二年家督を相続す祖業
を承けて醸造業を營み大久保醤油會社代表取締役たる
傍ら熊本無盡會社取締役たり家族は尙長女昭(大、六、一
一)生)あり(熊本市町三電七二五)

大久保住吉

君は愛知縣人大久保戸作の三男にして明治十九年三月
を以て生る同四十五年日本專門部法律科正科を卒
業大正二年文官高等試驗に合格同三年中央大學高等研
究科を卒業し神奈川縣屬となり爾來同縣足柄郡長官城
縣理事官地方事務官福島縣書記官同視學官學務部長等
に歴任し昭和四年現職に轉じ家族は尙二女千賀子(大
一、五、三生)二男昭夫(昭四、九)生)兄眞平(昭一、二、一
一)生、現戸主)同妻マツ(同一、四)生、加藤太
三郎長女)及其子女孫あり妹ちよ(同一、五、八)生)
は愛知縣人原田長太二男徳恵に同嫁し(同四、七)生)
は同縣人荒川榮太郎孫菊五郎に嫁したの(同四、一、八
生、兄眞平長女)は同縣人河合幸一に嫁せり(大津市外
膳所町膳所電七三三)

大久保勢輔

君は元熊本縣多額納稅者大久保彦四郎の孫にして明治
二十七年十二月を以て生れ昭和二年家督を相続す祖業
を承けて醸造業を營み大久保醤油會社代表取締役たる
傍ら熊本無盡會社取締役たり家族は尙長女昭(大、六、一
一)生)あり(熊本市町三電七二五)

大久保忠雄

君は元熊本縣多額納稅者大久保彦四郎の孫にして明治
二十七年十二月を以て生れ昭和二年家督を相続す祖業
を承けて醸造業を營み大久保醤油會社代表取締役たる
傍ら熊本無盡會社取締役たり家族は尙長女昭(大、六、一
一)生)あり(熊本市町三電七二五)

大久保忠親

君は高知縣士族大久保策策の六男にして明治十二年二
月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す先是明治三
十七年京都帝國大學法科大學を卒業し日本郵船會社に
入り同社文書課長庶務課長秘書役南館天津各支店長等
に歴任し和歌山高等商業學校に教授を執り現時沼津銀
行頭取にして沼津商工會議所顧問たり義に松崎銀行監
査役沼津商業會議所特別議員たりし、こあり家族は尙
三男洪徳(大、二、八)生)二女比佐子(同六、九)生)四男忠
義(同一、一、八)生)三女千代子(昭二、二)生)五男忠明(同
四、九)生)あり(沼津、三枚橋寺脇電一六七)
參照||依田四郎次郎石田助の項

大久保忠言

君は茨城縣人村松源造の三男にして明治四年五月を以
て生れ大久保忠章の養子となり同三十八年家督を相續
す夙に工手學校を卒業し專賣局技師兼大藏技師を経て
專賣局技師兼管轄管財局技師に任じ現に專賣局經理部
に勤務す家族は尙二男忠大(大、六、二)生)四女富子(同
八、一)生)あり長女あや(昭三、〇、一)生)は茨城縣
人河田綾之助長男に嫁し二女きよ(同四、二、四)生)は
同縣人大河内八十路の養子となり(東京、本郷、駒
込西片町一〇ノ二六號電小石川七〇八九)

大久保忠雄

君は元熊本縣多額納稅者大久保彦四郎の孫にして明治
二十七年十二月を以て生れ昭和二年家督を相続す祖業
を承けて醸造業を營み大久保醤油會社代表取締役たる
傍ら熊本無盡會社取締役たり家族は尙長女昭(大、六、一
一)生)あり(熊本市町三電七二五)

オ(ヲ)之部 大(倉)

大熊 柳三 東京府在籍... 大倉 和親 東京府在籍...

大倉 喜七郎 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

(※印は姻族関係)

大倉 勝治 奈良縣多額納税者... 大倉 喜七郎 東京府在籍...

大倉 喜七郎 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 喜七郎 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 喜七郎 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

オ(ヲ)之部 大(倉)

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

オ(ヲ)之部 大(倉)

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

オ(ヲ)之部 大(倉)

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

オ(ヲ)之部 大(倉)

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

大倉 恒吉 東京府在籍... 大倉 直介 東京府在籍...

陸軍中將仙之助(同三八、一)は東京府人醫學博士横尾守中(同三九、一〇)は岐阜縣人岡田榮一(同四〇、一)は其妻を伴ひ分家し大叔父六郎(同四一、一)は其妻を伴ひ分家し大叔父其二子を伴ひ分家せり(東京市外松澤村上北澤四六三)參照し男爵青山敏貞、大迫尚道、大迫元雄、林仙之助

大迫 武彦 正四位、子爵 東京府華族 明三三、九生、鹿兒島、士、今村 妻 明四一、九生、從五位 男 武 明四三、一〇生、從五位

大迫 尚道 從二位勳一等功二級、陸軍大將 東京府在籍 妻 明四、四生、鹿兒島、士、山本盛 男 勝 明二九、三生、正七位、陸軍砲兵 妻 眞佐子 明三九、八生、長男勝妻、福岡、士、松本健次郎二女 男 明 明四四、七生

大迫 利亮 大迫尚道、富強商事各代表取締役 白山山嶺山嶺取締役 東京府士族 妻 明二九、九生、男爵今枝直規長女 男 吉 明二八、六生

大里 庄治郎 千葉縣參事、千葉縣多額納稅者、日鏡製水冷蔵運送代表取締役 千葉縣在籍 妻 明二九、一〇生、大里敬治長女 男 榮一 明二九、一〇生、大里敬治長女 女 栄一 明二九、一〇生、大里敬治長女

大里 常弘 正七位、日本橋區長 福岡縣在籍 妻 明一九、三生、福岡、藤井武七郎 男 勝 明二九、九生

大里 廣次郎 衆議院議員(福岡縣選出)、飯塚長 政女學校校長、飯塚保健組合病院長 福岡縣在籍 妻 明二九、九生 男 文 明二九、九生、福岡、佐谷賀造 妻 明一五、一〇生、福岡、古藤榮吉

大里 與謝郎 從五位勳五等、檢察、熊本地方裁判所檢察官、熊本區裁判所檢察官 福岡縣士族 妻 明一九、六生、福岡、士、吉武繁 男 敏 明四三、七生

大里 一衛 正五位勳五等、農學博士、農林技術師兼農務試験場技師、豊後局勤務 神奈川縣在籍 妻 明二六、七生、神奈川、矢野時一 男 善太郎 明二六、七生

大里 武八郎 正五位勳四等、臺灣總督府法院判官、臺中地方院長、秋田縣在籍 妻 明一七、二生、福岡、八尋村太郎 男 新太郎 明一七、二生、福岡、八尋村太郎 女 新太郎 明一七、二生、福岡、八尋村太郎

大里 喜市 濱瀬自動車營業取締役、濱瀬商會、日本フォアット自動車、相武自動車各取締役、長野縣在籍 妻 明二一、六生、長野、鹽川義路二 男 幸一 明四三、一〇生

大里 欽治 東京府在籍 妻 明一四、二生、東京、海老原正重 男 新子 明一四、二生、東京、海老原正重 女 新子 明一四、二生、東京、海老原正重

大里 武八郎 正五位勳四等、臺灣總督府法院判官、臺中地方院長、秋田縣在籍 妻 明一七、二生、福岡、八尋村太郎 男 新太郎 明一七、二生、福岡、八尋村太郎 女 新太郎 明一七、二生、福岡、八尋村太郎

大里 衛 從五位勳六等、旅順工科大学豫科教授、豫科主事、香川縣在籍 妻 明二六、九生、新潟、牧野藤一郎 男 敏 明四五、三〇生

大里 欽治 東京府在籍 妻 明一四、二生、東京、海老原正重 男 新子 明一四、二生、東京、海老原正重 女 新子 明一四、二生、東京、海老原正重

大 路 環 三十八銀行監査役
兵庫縣在籍
妻 明元、四生、兵庫、大路安兵衛長女
養子 松 郎 明三三、八生、兵庫、中居豊三郎三男
女 俊 明四四、一生
女 富美子 明四五、二生
女 三重子 大二、八生
女 和子 大八、八生

君は廣島縣人田部香蔵の弟にして同華吉の叔父鹿島房次郎の弟なり明治十三年五月を以て生れ同四十二年先代道の入夫となり家督を相続す現時三十八銀行監査役たり養妹貞(明二五、二生)は分家せりA五五三(神戸、花隈町一〇四ノ一電元町七三〇)

參照 鹿島房次郎、田部華吉、中居豊三郎、鹿島野田文一郎の項

大 島 寛爾 勳四等、武州銀行、武州貯蓄銀行各取締役、埼玉縣在籍
男 卓 爾 明二一、一〇生、林學士、三井合名會社員
妻 貞 明三〇、一二生、長男卓爾妻、東京、若宮貞大養妹
男 泰 平 明四二、六生

君は長崎縣人鷲村龍澤の三男にして嘉永六年十二月を以て生れ明治八年大島家を創立す現に上京し法律を修め辯論士となる現時前記各銀行の重役たり養妹玉子(明三三、八生、東宮、高島泰藏三女)と共に分家し養子大郎(明二七、二生、東京、野口平藏孫)も亦分家し三男勝三(明三七、四生)は埼玉縣人兒玉ますの死跡を相続せり(埼玉、北足立、浦和町)

參照 島田鐵吉、若宮貞夫の項

大 島 久六 福島縣多額納稅者、酒造業
養子 欽四郎 明一六、一〇生、長女キヨ夫、福島縣在籍
女 キヨ 明一七、九生、養子欽四郎妻、福島縣在籍
孫 重 雄 明四一、七生、養子欽四郎養子、栃木、柳哲吉十男

君は栃木縣人大島久兵衛の六男にして元治元年八月を以て生れ後分れて一家を創立す酒造業を營み直接國稅一千四百十四圓を納め福島縣多額納稅者たり養妹白河實業銀行取締役たりし事あり(福島、西白河、白河町)參照 川瀬作兵衛、阿部紀右衛門、久保市三郎、中庄一郎、橋本鐵吉の項

大 島 宇吉 新愛知新聞社社長、日本放送協會東海支部理事、愛知縣在籍
妻 さく 明八、六生
男 藤次郎 明一四、一生、二男藤次郎妻、愛知、藤田平治郎二女
孫 とみ 明三六、九生、二男藤次郎長男、新愛知新聞社理事
孫 一郎 明四二、一〇生、孫一郎妻、男爵小野尊光孫
孫 子 明四三、一生、二男藤次郎五女
孫 子 明四三、一生、二男藤次郎六女
孫 子 明四三、一生、二男藤次郎七女
孫 子 明四三、一生、二男藤次郎八女
孫 子 明四三、一生、二男藤次郎九女

君、愛知縣人大島宇右衛門の三男にして嘉永五年三月を以て生れ先代爲三郎の養子となり明治元年家督を相続す現に新愛知新聞社長にして日本放送協會東海支部理事たり曾て愛知縣會議員に擧げらるる家族は尙孫恒子(大九、一〇生、二男藤次郎八女)あり長男慶次郎(明四、八生)は愛知縣人大島竹三郎に三男三郎(同一二、七生)は同縣人田中傳六に各養子となり孫千代(同一三、九生、二男藤次郎長女)は同縣人大島武三に同あさ(同三四、一生、同二女)は同縣人服部三三に同八重(同三八、七生、同三女)は同縣人大島隆一に養子米

大 島 喜一郎 北海道多額納稅者、製材業
妻 たけ 明二、六生、石川、金田庄次郎二女
男 喜代治 明二二、六生
男 七 明二七、九生、長男喜代治妻、北海道、田付頼太郎孫
女 菜 一 明四一、三生
女 小どり 明四二、六生

君は石川縣人大島喜右衛門の長男にして文久三年八月を以て生れ後家督を相続す製材業を營み北海道多額納稅者たり養妹水電氣會社取締役に擧げらるる家族は尙孫一郎(大五、九生、長男喜代治長男)同誠二(昭

大 島 金藏 定山溪鐵道取締役、酒造業
養子 要次郎 明八、一二生、養子ナチ夫、新潟山下新太郎弟
養子 ナチ 明二二、四生、養子要次郎妻、北海道、三浦平藏二女
孫 信 明二七、一〇生、孫ハツ夫、北海道、橋仁四男
孫 ハツ 明三三、四生、養孫信妻、養子要次郎長女
孫 長太郎 明三三、四生、養子要次郎長男
孫 サダ 明三七、五生、孫長太郎妻、北海道、中山彌作二女
孫 ミツ 明三六、七生、養子要次郎二女
孫 三三 明三六、七生、養子要次郎三女

君は新潟縣人山崎八右衛門の三男にして嘉永五年十月を以て生れ先代キノの入夫となり明治二十四年家督を相続す酒造業を營み現時定山溪鐵道會社取締役たり家族は尙孫要吉(大五、五生、養子要次郎三男)同要三(同一〇、四生、同四男)同ハル(同一三、六生、同五女)曾孫登喜代(同一二、一〇生、養孫信長女)同徳(同一四、二生、同長男)同倫(昭二、五生、同二女)同喜久代(同四、一〇生、同二女)同照喜(大一一、三、三生、孫

大 島 金太郎 從三位勳二等、農學博士、臺灣總督府中央研究所技師兼臺北帝國大學教授、中央研究所農學部長、臺北帝國大學理農學部長、東京府在籍
妻 りやう 明一五、四生、薛馬、原澤文仲二女、女子養學出身
男 一郎 明三八、九生、藥學士
男 良 雄 明四四、一生、東大在學
女 正 子 大四、一二生

君は長野縣人大島金太郎の長男にして明治四年九月を以て生れ同二十六年分れて一家を創立す同二十六年札幌農學校を卒業し同校助教同教授兼北海道農事試験場長東北帝國大學農科大學教授北海道帝國大學農科大學教授兼臺灣總督府技師同中央研究所農學部長兼農學博士等に歴任し現時前記の職に在り明治三十一年より同三十六年迄歐米に留學し同四十年論文を提出し農學博士の學位を受け大正十三年在學に昭和四年爪哇比律賓等に出張を命ぜらるる家族は尙四女直子(大七、一生)あり長女雪子(明四一、一生、女子養學出身)は三重縣人石川正作長男正夫に嫁せり(臺北、佐久間町三ノ一〇電一九二〇)

參照 石川正作の項

大 島 健一 正三位勳一等功三級、陸軍中將、皇族院議員、文政審議會委員、岐阜縣士族
妻 磯 陽 慶應三、三生、愛知、士、清水裕長女
男 浩 明一九、四生、從五位勳三等、陸軍砲兵大佐、砲兵第十聯隊長
男 豐 明三三、一生、長男浩妻、子靜田尻喜通叔母
男 備 明二一、八生、醫學博士、名古屋市立城東病院長
女 静 明三三、四生、二男備妻、岐阜、伊藤警六郎三女
女 適 子 明三三、四生、三輪田高女出身

當家は座光寺氏の後にして濃州岩村藩に仕へ父桂之進に至る君は其長男にして安政五年五月を以て生れ後家督を相続す現に藩校に學び後陸軍士官學校に入り明治十四年砲兵少尉に任ず同二十三年軍事研究の爲獨佛兩國に留學し又日清日露の役に従軍す其の前後に於て士官學校砲工學校各教官同總務部長同長に歴任し中將に昇る大隈寺内各内閣に際し入りて陸軍大臣となりし中將に闖立するに及び出でて青島軍司令官となりしも幾許もなくして辭す嘗て特派大使山縣有朋の隨員として露國皇帝の戴冠式に蒙り閣院官載仁親王殿下の隨員として歐洲御巡行に隨從せり現に貴族院議員にして文政審議會委員たり家族は尙孫備(大一一、六生、二男備長男)同昭(昭二、二生、同二男)あり長女長江(明二二、八生、學習院女學出身)あり男伴作祥一先代後夫に二女貞子(同三三、八生、出身校同上)は山口縣士族佐々木義彦に嫁せり(東京市外淀橋町柏木三六五電四谷六七)

參照 子爵田尻喜通、男爵伴作祥一、佐々木義彦の項

大 島 堅造 味澤興七、星林章八代則彦の項
住友銀行本店支配人
妻 きく 明二三、九生、兵庫、志立金剛養子
男 寛 一 大三、一〇生

君は群馬縣人大島直作の五男にして明治二十年一月を以て生れ大正十一年兄戸一方より分れて一家を創立す明治四十二年東京高等商業學校を卒業し直ちに住友銀行に入り専ら外國爲替事務に當り大正六年紐育支店次席として赴任し同十年本店勤務を命ぜられ歸途歐洲印度を視察し同十一年歸朝もなく外國課長となり大正十四年本店支配人となり現在に至る家族は尙二男欣二(大六、二生)三男秀夫(同一二、二生)長女壽代(同一三、四生)四男輝夫(同一五、五生)ありA一五九一(武庫、兵庫、御影町城ノ前電影五九四)

參照 大島戸一、齋藤洲司、齋藤原英太郎、齋藤尾勘七の項

大 島 次郎 勳七等、新愛知新聞社支配人、愛知縣在籍
妻 つる 安政六、九生、愛知、青井長左衛門二女
男 武 明二四、五生
男 千代 明三二、九生、長男武妻、愛知、大島宇吉孫
男 龍 雄 明四四、一二生

君は愛知縣人大島宇吉の長男にして明治四年八月を以て生れ先代竹三郎の養子となり同二十三年家督を相続す愛知縣立第一中學校出身にして現に新愛知新聞社支配人たり家族は尙孫勉(大七、三生、長男武長男)同正好(同九、一〇生、同二男)同久子(同一二、七生、同長女)同裕(同一四、六生、同三男)同榮一(昭二、五

大 島 源三郎 秩父銀行取締役、秩父自動車監査役、埼玉縣在籍
妻 ちか 慶應二、八生、埼玉、馬場龜吉長女
養子 喜 平 明二一、一生、亡長女たき夫、埼玉、田口傳次郎弟

君は埼玉縣人大島時次郎の長男にして慶應二年六月を以て生れ明治十七年家督を相続す現時前記銀行會社の重役たり妹なか(明四、一〇生)は埼玉縣人逸見八郎治長男喜兵衛に同やう(同一二、三生)は同縣人引間松四郎長男頼作に同やう(同一〇、一生)は同縣人富田善吉長男政吉に嫁せり(埼玉、秩父、皆野村)

大 島 小太郎 唐津銀行、唐津港各縣取締役、豊國メント、東邦電力小松製作所各監査役、佐賀縣士族
妻 ヒサ 安政元、九生、福岡、土、益田與三從妹
男 コマ 慶應二、四生、福岡、土、島當世姉
男 裕 明一九、一〇生
男 鏡 明三五、六生、二男裕妻、東京、淺井銚吉長女
男 三郎 明二七、一生
男 一郎 明三一、六生、四男三郎妻、鹿兒島、奈良崎八郎庶子

て生れ大正七年家督を相続す明治三十四年東京帝國大學工學部電氣工學科を卒業し現時前記各會社の重役たり同十四年大正十三年の兩度歐米を巡遊す家族は尙孫雅子(大正二、八生、養子捨男長女)同淑子(同一四、六生、同二女)同純義(同一五、一〇生、同長男)あり妹操(明二、四生)は法學博士佐々木惣一に嫁し姉妹(同五、六生)は同夫義衛(同四、八生、文學士)と共に弟恒義(同一五、一〇生、醫學博士)は同妻きみ(同一二、五生、三重、和田音五郎長女)と共に弟重義(同一七、三生、工學士)は同妻(同二七年生、岐阜、谷村勝治三女)と共に各分家せりA七八二(兵庫、武庫、住吉村小原田一七、電影二五五七)

大島 廣 從四位勳三等、理學博士、九州帝國大學教授兼東京帝國大學教授、農學部及理學部勤務、石川縣士族

大島 廣

養父 多計比古 安政四、一〇生、現戶主
養母 織 兄 長女 安久元、四生、石川、士、井口濟
妻 春野 明二〇、四生、養父多計比古長女
男 孝 一 大五、一〇生、
君は石川縣人野村成次郎の二男にして明治十八年十一月から以後大島多計比古の養子となる同十四年東京帝國大學理學部動物學科を卒業し大學院に入り大正三年第五高等學校教授に任じ同八年動物學研究の爲英米各國に留學し九州帝國大學助教授に任ぜられ歸朝後同教授に進み現時東京帝國大學教授を兼ね大正十三年理學博士の學位を受く家族は尙二男義二(大九、三生)三男春三(同一、一〇生)長女美代(同一五、三生)あり(福岡市榑木屋町七)

大島 正徳

正五位、東洋大學、日本女子大學校各教授、東京帝國大學文學部講師、神奈川縣在籍
妻 なを 長女 明二、四生、山梨、中澤徳兵衛
男 正和 大三、七生
君は神奈川縣人大島正義の長男にして明治十三年十一月

大島 又彦

從三位勳二等功四級、陸軍中將、佐賀縣士族
妻 トシ 養子 明一七、三生、陸軍少將石原應恒
男 秀彦 明三二、五生

大島 雅太郎

臺灣拓殖製糖取締役、三井生命保險監査役、三井物理事業文書課長、東京府士族
妻 ミツ 明一三、一〇生、東京、揚龍太郎
男 綾 一 明三九、八生、長男綾一妻、石川
女 從子 村上榮樹二女
男 景次 明四一、七生

大島 義清

從四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授兼理學部技術、燃料研究所長、東京府在籍
妻 ユキ 明一八、二生、養父六郎長女
男 幹 明三九、一〇生
女 夏 明四二、七生、女子學習院出身
男 芳 明四五、二生、女子學習院出身
君は兵庫縣人黒澤深正の二男にして明治十五年九月を以て生れ先代六郎の養子となり大正三年家督を相続す明治十四年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し同十四年東京帝國大學工學部教授となり翌九年工學博士の學位を受く同十一年英米各國に出張同十五年萬國石炭會議に列席し昭和五年英獨に出張且萬國動力會議總會に列席す現時同大學教授にして工學部に勤務し内務省燃料研究所長を兼任す家族は尙二男義三(大九、一〇生)三女文(同八、六生)四女久(同一〇、三九)あり(東京市外代々幡町代々木二一電四谷一六)

大島 義脩

從三位勳二等、陸軍歩兵中尉、帝國博物館館長、東京府在籍
妻 綠 明五、六生、京都、大島弘義姉
男 文 明二七、三生、從五位、理學士、姫路高等學校教授
男 須賀子 明三〇、三生、正七位、陸軍砲兵
男 知 明三九、一〇生、二男知義妻、醫學博士岡本松二女
男 昭 明三三、二生、理學士、東京帝國大學助手
男 康 明三六、八生、農學士、臺北帝國大學助手
君は兵庫縣人蘆田源五郎の四男にして明治四年八月を以て生れ同二十五年先代六郎の養子となり家督を相続す同二十七年帝國大學工學部理學科を卒業し第四高等學校教授文部省視學官東京省立學校長第八高等學校長女子學習院長等に歴任し現時帝國博物館館長たり日露

大島 陸太郎

從四位勳三等、子爵、陸軍歩兵大佐、歩兵第四聯隊長、東京府華族
妻 鉦子 明二九、一〇生、子爵藤堂高寬妹
男 義明 大五、九生
女 光代 大四、一〇生
當家は先代義昌より顯る義昌は舊山口藩士にして戊辰の役軍功あり明治四年陸軍少尉に任じ同三十八年陸軍大將に累進す其間仙臺鐵道參謀長士官學校校長第一師團參謀長に歴任し日清戰役には歩兵第九旅團長たり日露戰役には第三師團長として偉功を擧げ功二級を賜り子爵に陞る後關東都督軍事參議官に補せらる君は義昌の二男にして明治十七年十月を以て生れ大正十五年家督を相続し翌年夙に幼年學校陸軍士官學校を卒業して明治三十八年陸軍歩兵少尉に任じ累進して昭和四年同大佐に陞る其間陸軍大學校を卒業し歐洲に留學し大戰中從軍武官となり後從軍武官兼軍事參議院幹事に補せられ現時歩兵第四聯隊長たり家族は尙二女孝子(大正二、一〇生)あり姉ヒツコ(同一四、七生)は東京府士族陸軍軍醫醫學博士本堂恒太郎に嫁し三子(同一二、三、九生)は法學博士長岡春一に嫁し弟義三(同一二、八生、法學士)は東京府士族佐久間マサの養子となり當主たり(東京、四谷、花園町八八電四谷三三〇〇)
參照 子爵藤堂高寬、佐久間義三、長岡春一、矢伯爵大原重明、子爵青山幸直の項

大島 芳三郎

從三位勳二等、陸軍歩兵中尉、帝國博物館館長、東京府在籍
妻 トシ 養子 明一七、三生、陸軍少將石原應恒
男 秀彦 明三二、五生

大島 亮

從五位、農林技術、農務局勤務、愛知縣在籍
妻 秀子 明三一、一〇生、東京、加藤育一妹
父 主計 文久二、七生、現戶主

大島 芳三郎

從三位勳二等、陸軍歩兵中尉、帝國博物館館長、東京府在籍
妻 トシ 養子 明一七、三生、陸軍少將石原應恒
男 秀彦 明三二、五生

大島 義清

從四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授兼理學部技術、燃料研究所長、東京府在籍
妻 ユキ 明一八、二生、養父六郎長女
男 幹 明三九、一〇生
女 夏 明四二、七生、女子學習院出身
男 芳 明四五、二生、女子學習院出身
君は兵庫縣人黒澤深正の二男にして明治十五年九月を以て生れ先代六郎の養子となり大正三年家督を相続す明治十四年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し同十四年東京帝國大學工學部教授となり翌九年工學博士の學位を受く同十一年英米各國に出張同十五年萬國石炭會議に列席し昭和五年英獨に出張且萬國動力會議總會に列席す現時同大學教授にして工學部に勤務し内務省燃料研究所長を兼任す家族は尙二男義三(大九、一〇生)三女文(同八、六生)四女久(同一〇、三九)あり(東京市外代々幡町代々木二一電四谷一六)

大島 陸太郎

從四位勳三等、子爵、陸軍歩兵大佐、歩兵第四聯隊長、東京府華族
妻 鉦子 明二九、一〇生、子爵藤堂高寬妹
男 義明 大五、九生
女 光代 大四、一〇生
當家は先代義昌より顯る義昌は舊山口藩士にして戊辰の役軍功あり明治四年陸軍少尉に任じ同三十八年陸軍大將に累進す其間仙臺鐵道參謀長士官學校校長第一師團參謀長に歴任し日清戰役には歩兵第九旅團長たり日露戰役には第三師團長として偉功を擧げ功二級を賜り子爵に陞る後關東都督軍事參議官に補せらる君は義昌の二男にして明治十七年十月を以て生れ大正十五年家督を相続し翌年夙に幼年學校陸軍士官學校を卒業して明治三十八年陸軍歩兵少尉に任じ累進して昭和四年同大佐に陞る其間陸軍大學校を卒業し歐洲に留學し大戰中從軍武官となり後從軍武官兼軍事參議院幹事に補せられ現時歩兵第四聯隊長たり家族は尙二女孝子(大正二、一〇生)あり姉ヒツコ(同一四、七生)は東京府士族陸軍軍醫醫學博士本堂恒太郎に嫁し三子(同一二、三、九生)は法學博士長岡春一に嫁し弟義三(同一二、八生、法學士)は東京府士族佐久間マサの養子となり當主たり(東京、四谷、花園町八八電四谷三三〇〇)
參照 子爵藤堂高寬、佐久間義三、長岡春一、矢伯爵大原重明、子爵青山幸直の項

大島 亮

從五位、農林技術、農務局勤務、愛知縣在籍
妻 秀子 明三一、一〇生、東京、加藤育一妹
父 主計 文久二、七生、現戶主

大島 義脩

從三位勳二等、陸軍歩兵中尉、帝國博物館館長、東京府在籍
妻 綠 明五、六生、京都、大島弘義姉
男 文 明二七、三生、從五位、理學士、姫路高等學校教授
男 須賀子 明三〇、三生、正七位、陸軍砲兵
男 知 明三九、一〇生、二男知義妻、醫學博士岡本松二女
男 昭 明三三、二生、理學士、東京帝國大學助手
男 康 明三六、八生、農學士、臺北帝國大學助手
君は兵庫縣人蘆田源五郎の四男にして明治四年八月を以て生れ同二十五年先代六郎の養子となり家督を相続す同二十七年帝國大學工學部理學科を卒業し第四高等學校教授文部省視學官東京省立學校長第八高等學校長女子學習院長等に歴任し現時帝國博物館館長たり日露

大島 芳三郎

從三位勳二等、陸軍歩兵中尉、帝國博物館館長、東京府在籍
妻 トシ 養子 明一七、三生、陸軍少將石原應恒
男 秀彦 明三二、五生

大島 亮

從五位、農林技術、農務局勤務、愛知縣在籍
妻 秀子 明三一、一〇生、東京、加藤育一妹
父 主計 文久二、七生、現戶主

大島 義清

從四位勳三等、工學博士、東京帝國大學教授兼理學部技術、燃料研究所長、東京府在籍
妻 ユキ 明一八、二生、養父六郎長女
男 幹 明三九、一〇生
女 夏 明四二、七生、女子學習院出身
男 芳 明四五、二生、女子學習院出身
君は兵庫縣人黒澤深正の二男にして明治十五年九月を以て生れ先代六郎の養子となり大正三年家督を相続す明治十四年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し同十四年東京帝國大學工學部教授となり翌九年工學博士の學位を受く同十一年英米各國に出張同十五年萬國石炭會議に列席し昭和五年英獨に出張且萬國動力會議總會に列席す現時同大學教授にして工學部に勤務し内務省燃料研究所長を兼任す家族は尙二男義三(大九、一〇生)三女文(同八、六生)四女久(同一〇、三九)あり(東京市外代々幡町代々木二一電四谷一六)

大島 陸太郎

從四位勳三等、子爵、陸軍歩兵大佐、歩兵第四聯隊長、東京府華族
妻 鉦子 明二九、一〇生、子爵藤堂高寬妹
男 義明 大五、九生
女 光代 大四、一〇生
當家は先代義昌より顯る義昌は舊山口藩士にして戊辰の役軍功あり明治四年陸軍少尉に任じ同三十八年陸軍大將に累進す其間仙臺鐵道參謀長士官學校校長第一師團參謀長に歴任し日清戰役には歩兵第九旅團長たり日露戰役には第三師團長として偉功を擧げ功二級を賜り子爵に陞る後關東都督軍事參議官に補せらる君は義昌の二男にして明治十七年十月を以て生れ大正十五年家督を相続し翌年夙に幼年學校陸軍士官學校を卒業して明治三十八年陸軍歩兵少尉に任じ累進して昭和四年同大佐に陞る其間陸軍大學校を卒業し歐洲に留學し大戰中從軍武官となり後從軍武官兼軍事參議院幹事に補せられ現時歩兵第四聯隊長たり家族は尙二女孝子(大正二、一〇生)あり姉ヒツコ(同一四、七生)は東京府士族陸軍軍醫醫學博士本堂恒太郎に嫁し三子(同一二、三、九生)は法學博士長岡春一に嫁し弟義三(同一二、八生、法學士)は東京府士族佐久間マサの養子となり當主たり(東京、四谷、花園町八八電四谷三三〇〇)
參照 子爵藤堂高寬、佐久間義三、長岡春一、矢伯爵大原重明、子爵青山幸直の項

大島 亮

從五位、農林技術、農務局勤務、愛知縣在籍
妻 秀子 明三一、一〇生、東京、加藤育一妹
父 主計 文久二、七生、現戶主

中親夫波慈女に二女千枝(同三三、五五)は東京府人留岡幸助三男幸男に三女八重(同三五、二五)は文學博士齋藤阿其長男文根に四女綾子(同三六、九生)は文學博士松井簡治長男龍に五女春江(同三八、四生)は醫學顧問官櫻井鏡二五男幸雄に嫁せり(東京市外落合町下落合葛ヶ谷二四電大塚三七〇)

參照 齋藤阿其、櫻井鏡二、田中波慈女、松井簡治、東京府林權助、岡崎旭の項

大關 晴鳩 住友ビルディング支店長
東京府在籍
妻 マス 明二九、一〇生、神奈川、石渡直道四女
男 和成 昭四、八生
女 住江 大五、五生

君は東京府人、大關克の四男にして明治二十二年二月を以て生れ大正四年明二九方より分れて一家を創立す現時住友ビルディング支店長たり家族は尙三女實枝子(六一、五、八生)ありA二一六(兵庫、武庫、精道村)産屋敷、深三四八電大塚二〇八

參照 京神田治の項

大關 藤吉 大關保全代表社員、越前商店、小麥粉商、東京府在籍
妻 マ 明二四、一〇生、北海道、太刀川善吉妹

君は東京府人先代藤吉の長男にして明治十七年五月を以て生れ大正十年家督相續と共に前名藤次郎を改め襲名す養祖父藤兵衛は夙に小麥粉商を營み今日の基を開く君親業を繼ぎ越前商店と稱し傍ら大關保全會社代表社員たり家族は尙弟康五郎(明三三、八生)あり妹千代(同二二、四生)は東京府人岡崎三郎に嫁し弟誠治(同二九、四生、東京高商出身)同竹三郎(同二三、八生、農學士)は各分家し同龍雄(同二五、八生、法學士)は父の實家大關家の相續人となり(東京、本郷、春木町一ノ一電小石川三八〇〇)

參照 太刀川善吉の項

君は青森縣士族大關鐵益の三男にして明治十四年五月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す同三十九年專修大學經濟科を卒業し現時川崎銀行和泉橋通支店長たり家族は尙二男英夫(大九、九生)三男信夫(同七、四生)四男昌夫(同八、一〇生)六男達夫(同三、一二生)二女文子(昭二、六生)あり(東京、小石川、小日向臺町二ノ一六)

大關 增輝 從三位、子爵
萬野州羽藩
妻 壽子 明一九、七生、侯爵山内豐景妹
男 秀雄 明四三、一〇生
女 輝美子 大元、九生

當家は左大臣丹治島の本葉長房の次男恒房の後なり二代を経て肥後守高清に至り武藏大關村に住し後氏となすそれより九代を経て美作守高增豐臣氏に從ひ本領野州黒羽一萬九千石を安堵す其三男右衛門督資増徳川氏に屬してより十五代を経て先代増勳に至り成辰の役官軍に屬して功あり明治十七年子爵を授けらる君は其長男にして明治十二年四月を以て生れ同三十八年家督を相續し襲爵付けらる家族は尙大舅母貞子(明三三、一〇生)あり姉増子(同八、一〇生)は男爵平野長祥に同嫁す(同二〇、一〇生)は長崎縣人西嶺藏に妹榮子(同二三、八生)は男爵三浦英太郎に同嫁す(同二二、一〇生)は同上英太郎弟正太郎に同嫁す(同二五、一〇生)は伯爵渡邊昭叔父鹿兒島に同嫁す(同三〇、四生)は東京府人城岡恒人に同嫁す(同三三、八生)は神奈川縣人岡野助三男健三に大舅母貞子(同五、五生)は男爵大沼清雄に嫁し大舅父貞(同七、五生)同妻ミサ(同二〇、九生、東京、神原伊三郎長女)は共に分家し其二男忠敏(同四三、八生)は青山子爵家を相續し弟春雄(同二〇、二生)も亦分家し大舅父寛(同三、四生)は陸軍大將一戸兵衛の養子となり(東京市外澁橋町柏木三九七)

參照 侯爵山内豐景、伯爵渡邊昭、子爵青山忠敏、男爵大沼清雄、男爵平野長祥、男爵三浦英太郎、一戸兵衛、岡野健三、子爵山内豐健、男爵山内豐靜の項

君は山口縣人大田孝介の四男にして明治十八年九月を以て生れ同四十四年分れて一家を創立す同四十二年東京帝國大學工學科大學土木工學科を卒業し鐵道院技手となり鐵道院技師名古屋鐵道局工務課長等に歷任大正十五年歐米に出張を命ぜられ歸朝後鐵道省千葉改良事務所長鐵道局技師東京鐵道局改良課長を経て昭和三年現職に轉ず家族は尙長女文子(六一、一〇生)二男恭(同三三、二生)三男耕(同四一、一二生)あり(東京市外中野町上ノ原八電中野三五二五)

大田 朝敷 首里市長
神樂縣士族
妻 サ 明一六、七生、神樂、新垣龜良二女
女 春子 大四、三三

君は神樂縣士族大田朝明の長男にして慶應元年四月を以て生れ明治十九年家督を相續す現時首里市長たり(首里市)

大田 爲吉 從四位勳三等、特命全權公使、西班牙國駐劄兼葡萄牙國駐劄
鳥取縣在籍
妻 ウ 明一七、二生、東京、大田勝次郎二女

君は鳥取縣人大田伊三郎の二男にして明治十三年十一月を以て生れ大正十四年明幸太郎方より分れて一家を創立す夙に法學を修め明治三十六年文官高等試驗同四十年外交官及領事官試驗に合格す同年領事官補に任ぜられ次で關東都府事務官に轉じ更に領事官補として紐育に在勤爾來大使館三等書記官公使館二等書記官總領

事大使館參事官等に歷任し米亞支加各國に在勤す大正十四年特命全權公使に任ぜられ西班牙國駐劄兼葡萄牙國駐劄を兼り現在に至る(在西班牙國日本公使館)

大田 春二 石川縣多額納稅者、松任倉庫運輸
妻 つる 明二二、四生、石川、藤田與三兵衛三女

君は石川縣人小堀由三の長男にして明治十九年十月を以て生れ先代五右衛門の養子となり同三十七年家督を相續す金融業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國稅二千二百八十圓を納め縣下の多額納稅者たり(石川、福留村)

大田 黒静生 芝浦製作所藤鶴見工場長
妻 長 明二五、九生、熊本、土、宮宗平長女

君は熊本縣士族大田黒一貫の六男にして元檢事長大田黒英記の弟なり明治十三年十月を以て生れ大正七年兄哲堂方より分れて一家を創立す現時芝浦製作所藤鶴見工場長たり家族は尙三男昌生(大八、五生)三女美恵子(同二四、五生)四男和生(昭三、六生)あり(東京市外入新井町不入斗五四二電大森二六六〇)

參照 大田黒英記の項

大田 黒重五郎 九州電氣軌道社長、枕立川水力
妻 元 明二六、三三、長男元重妻、兵庫
男 ちづ 廣田達治妹、東京音樂學校聲樂科出身

君は靜岡縣士族小牧辰雄の二男にして慶應二年六月を以て生れ先代惟信の養子なり明治三十四年家督を相續す同十三年官費を以て外國留學校露語學生となり高等商業學校を卒業す大阪商品陳列所に入り幹事の職に就き同二十七年三井物産會社に轉じ後芝浦製作所專務取締役に擧げらる現時前記會社の重役たり家族は尙孫鈴子(大八、一〇生、長男元重長女)同鞠子(生年同上、同二女)あり(東京市外入新井町新井山王二

五八〇電大森五〇六)
參照 派田中作次郎の項

大田 黒英記 正三位勳二等、辯護士
妻 ナ 明元、一〇生、愛媛、土、藤井萬隆妹
男 英 明二二、一〇生
女 ヨシノ 岡本富三郎二女

君は熊本縣士族大田黒一貫の二男同靜生の兄にして慶應二年八月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す明治二十四年東京法學院英語法學科を卒業し辯護士試験に合格同三十年判事に任じ佐賀地方武雄區佐賀區長崎地方各裁判所判事長崎裁判所地方裁判所所長を経て同四十二年檢事に任じ爾來東京地方裁判所所長横濱大阪東京各地方裁判所所長東京大阪各控訴院檢事長に歴補せしが昭和四年退職辯護士を開業す家族は尙孫英年(大九、四生、長男英穂長男)同千穂子(同一五、五生、同長女)ありA二七九(大阪、天王寺、堂ヶ芝町一〇五電南一五二五)

參照 大田黒静生の項

大田 原鏡清 從四位、子爵
妻 ハナ 階堂智行三女
男 尚 大六、一〇生
女 清子 大五、四生

當家は左大臣丹治島の本葉大儀備前守忠清の後なり三世を経て資清に至り姓を大田原と改む其孫備前守晴清豊臣氏に從ひ野州大田原一萬二千石の本領を安堵すそれより九代を経て先代一清に至り明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に列す君は一清の長男にして生れ大正十二年家督を相續し襲爵す學習院に學び牧畜養蜂に興味を有す家族は尙二男正良(大八、四生)妹輝子(明四〇、一〇生)あり弟秀(同二〇、八生)同鐵男(同三二、六生)は各分家し妹幸子(同二七、四生)は三重縣人香川千藏弟翠殿に同嫁す(同三〇、一〇生)は岡山縣人金光大陣三男家邦に同嫁す(同三四、五生)は兵庫縣人大森貫一に嫁せり(東京市外代々幡町代々木西原九一八)

參照 子爵九鬼隆治、子爵九鬼隆輝、子爵建部秀隆、派子爵一柳末幸、派男爵津島公照、派野崎彦左衛門の項

大田 爲新輔 正四位勳二等功三級、陸軍中將
妻 フ 嘉永五、六生、山口、土、中村半右衛門長女
男 顯 明三〇、五生、慶大文學部出身
女 君 明三八、一〇生、長男顯妻、東京
男 義 明三七、八生、法學士
男 勝 明四〇、二生、經濟學士
女 延 明四四、五生、東京府立第三高女出身

君は山口藩士大田爲義の長男にして明治十二年十一月を以て生れ大正二年家督を相續す明治二十三年陸軍士官學校を卒業し同二十四年陸軍歩兵少尉に任じ大正九年陸軍中將に擧進す其間歩兵第一聯隊附戶山學校教官陸軍省軍務局課員歩兵第二十二聯隊長歩兵第二十六旅團長浦潮派遺軍兵站部長等に歴補し大正十二年豫備役に編入す家族は尙五男忠夫(大五、四生)孫慎彦(昭二、一〇生、長男顯長男)同利女(昭三、三三、同長女)同正子(同五、一〇生)あり二女志津(明四二、一〇生、成女高女出身)は東京府人佐渡鎮次郎に嫁し弟作太(同一九、二生)同妻つる(同二八、三三、靜岡、伊東宗作妹)は絶家前田氏を再興せり(東京市外代々幡町代々木一二二)

大高 準太郎 福島縣農工銀行支店長
妻 梅 明一三、一〇生、東京、雨森良平姉
女 花子 大四、四生

君は東京府士族大高致廣の長男にして明治元年九月を以て生れ同四十一年家督を相續す同三十年日本大學法學科を卒業し現時福島縣農工銀行支店長たり家族は尙妹そと(明六、八生)同てふ(同二二、五生)弟辰三(同二五、二生)あり同精(同九、八生)は分家せり(福島市曾根田宮下一)

七、三生)三男和夫(同一〇、一生)八女榮子(同一三、一生)ありA二八六五(熊本市南新井町七二電二〇七二)

大谷 五平

北條村長、福島縣多額納税者、東行運輸取締役、酒造業、福島縣在籍
安政二、一生、曾祖父五平長女
母 イト 明一八、一生、福島、橋本久七郎
妻 マニ 明二三、一生、福島、齋藤多三郎長女

れ昭和二年前名昭を改む眞宗本願寺派管長たり家族は尙高富子(大三、五生)同正子(同一三、九生)叔父登由(同一九、八生、貴族院議員)同妻泰子(同一五、八生)子(明小出英延妹)及其子再從兄良依(同一四、八生)伯從父登實(長男)再從妹(同一四、一生、同長女)再從妹(同一三、〇生)は愛媛縣人廣瀬千秋に嫁し叔父孝慈(同一四、四生)は男爵木邊家の當主たり(東京、赤坂、青山高樹町二ノ一六電青山二六二)

浦基次叔母)叔從父勝實(同一八、三生、亡叔父勝實長男)同妻夏子(同一二六、六生、子爵稻垣太祥長女)は各分家し姉素子(同一三、〇生、米國ナショナルカスイドルスクール出身)は大阪府人森平藏嗣子重雄に妹忠子(同一三八、九生、女子學院出身)は東京府人小田久太郎二男隆二に叔母恵子(同一九、一生)は公費九條道實に同嶺子(同一七、〇生)は大阪府人海上尊融に同嶺子(同一二〇、九生)は伯從正親町公和に同芳子(同一四、六生)は石川縣人飯具登辰に同久子(同一三、一生)は大阪府人和田久左衛門に叔從母朝子(同一三、一生)は福井縣人二條秀曉に嫁せり(京都、下京、烏丸通七條上ル常葉町電下二九三)

大谷 光

伯從、眞宗本願寺派管長
祖母 枝子 安政五、九生、大谷光威長女
父 光 明 明一八、四生、祖父光輝男
母 紅子 明二六、三生、祖父九條道實妹

大谷 光暢 正五位、伯從、眞宗大谷派管長
父 光 演 明八、二生、正四位
母 章子 明三九、九生、公費三條公輝姉
妻 智子 明二九、九生、久通宮邦彦三女
男 光 紹 大一二、四生、三子

大谷 幸四郎 從三位勳一等功五級、海軍中將
妻 喜 歡 明一一、一生、高知、樟敷繼妹
母 稲 穂 明三四、三生、長女伸子夫、高知
女 伸子 明四〇、八生、養子稻穂妻、神奈川縣立第一高女出身

大谷 光昭

眞宗本願寺派管長
君は福島縣人先代五平の長男にして明治二十四年七月を以て生れ大正四年家督を相續し前名五一郎を改め襲名す酒造業を營み前記銀行會社の重役にして縣下の多額納税者に列し選ばれて五箇村長たり家族は尙二男謙也(大七、六生)長女夫巳(同九、八生)二女禮子(同一一、一生)三男昭三(同一四、九生)弟軍一(明三七、六生)妹チエ(同四〇、三生)同慶子(同一二、三生)弟忠之丞(同四四、六生)同博(同四四、八生)あり叔父福次郎(明九、四生)同妻ヨネ(同一二、〇生)福島、鈴木喜一郎長女)は其一女を伴ひ分家し叔父美智雄(同三〇、三生)も亦分家せりA一六一〇(福島、西白河、五箇村)

當家は眞宗の開祖親鸞上人の後裔なり親鸞新一向宗を起し眞大師と諡せらる八世を経て兼壽に至る兼壽は運如上人と稱し中興の祖にして諡して慧燈大師といふ夫より三世を経て光佐(顯如)に至り大僧となり門跡號を許さる長子光壽(致如)は別に東本願寺の祖となり光昭(明如)の父の後を繼ぎ更に八世を経て先々代光輝(明如)に至り明治五年華族に列し同二十九年伯從を授けらる光輝其後を襲ぎ西本願寺住職となり眞宗本願寺派管長を命ぜらる慶應にして博學足跡歐亞に遍し君は光輝の法孫にして光昭の長男なり明治四十四年十一月を以て生れ大正三年家督を相續し襲爵仰付けら

君は高知縣人大谷猪太郎の二男にして明治五年七月を以て生れ先代彦左衛門の養子となり同十四年家督を相續す同二十九年海軍兵學校を卒業し同三十一年海軍少尉に任じ海軍中將に累進す其間英國に出張し日露戰役に水雷艦隊長として從軍し功五級金鷄勳章を賜ふ爾來筑摩副司令官兼參謀第三驅逐隊司令官第三水雷隊司令官兼第一水雷隊司令官兼大津要港部司令官兼海軍水雷學校校長兼海軍大學校長兼海軍要港部司令官第二艦隊司令官兼吳鎮守府司令官兼海軍軍令部出仕等に歴補し昭和五年豫備役に編入せらるる家族は尙孫典子(昭三、一

大谷 順作

正五位勳四等、豐國火災保險會社
長、大福海上火災保險會社、單式印刷各總取締役、日本揮發油總發售會代表者、高知縣在籍
大阪株式取引所理事、大阪經濟會代表者、高知縣在籍
明一六、二生、東京、住友清吉妹
男 光 夫 明三三、八生
妻 淑子 明四二、四生、長男光夫妻、福岡中村厚次郎長女

大谷 誠夫 都新聞社顧問
妻 忠 順 明三三、一〇生
男 忠 順 明三八、一生、長男忠順妻、東京松浦喬妹
女 信子 明四三、二生
女 富美子 大五、二生

大谷 藤四郎 丸は大谷商會代表取締役、日用品雜貨物問屋業、大阪府在籍
妻 マチ 明一九、二生、大阪、米田長五郎長女
男 泰 造 大五、三生
女 さと 明四四、一生

大谷 昭道

本願寺住職
兵庫縣在籍
妻 ヒナ 明三七、三生、鹿兒島、橋口敏吉二女

大谷 專造 昭和銀行青森支店長
妻 きみ 明二八、五生、東京、清川彌助姉
男 愛 人 大二三、四生

大谷 友右衛門 明石屋、歌舞伎俳優
妻 うら 明二、一生、神奈川、松本フミ子二女
母 とも 明二四、一〇生、東京、楠木金五郎四女

大谷 勝眞

從五位、京城帝國大學教授、法文學部勤務、附屬圖書館長、東京府在籍
妻 夏子 明二六、六生、子爵稻垣太祥長女

大谷 竹次郎

京都府多額納税者、東京商工會議所議員、歌舞伎座、常盤興行各種取締役會長、帝都興業、松竹キネマ、明治座、新富座各種社長、邦樂座、新歌舞伎座各種代表取締役、松竹興業、札幌松竹座、松竹土地建物興業各種取締役、京都府在籍

養子 關 治 明三七、五生、東京、坂上伊次郎君は東京府人青木喜之助(中村寛助)の長男にして明治二十年十二月を以て生れ同三十七年家督を相続す本名を青木八重太郎と改め大谷右衛門を名に改め同三十七年家督を相続す幼名を大谷右衛門の門に學び明治二十六年津波に於て散兵衛と名乗り「手習鑑」の「菅秀才」に初舞臺を踏み備前中堅歌舞伎の大立物として知らるゝに至り「寺小屋」の松王「加賀見山」の岩藤「近八」の和田兵衛等の當り役ありA一二七(東京、下谷、御徒町二ノ三九電下谷五六八五)

大谷 仁兵衛

京都府多額納税者、帝國地方行政學會、行政學會印刷所各務社長、地方興業總取締役、帝國地方行政學會代表者、京都府在籍

任し同十二年事務取締役に進み現に同社社長に擧げらる此間倫敦開辦萬國商業會議所聯合會萬國船主協會等に本邦側委員として出席し又國際労働會議に關する海事委員會の巴里集會倫敦瑞典等に於て開催せられたる萬國海法會議に臨時日本委員として列席す現時前記諸會社の重役を兼ねる家族は尙二男嘉雄(大六、一、二生)長女清子(同六、三、三)三女光子(同七、八、八)三女輝子(同八、一、一)三男秀雄(同八、一、一)三男あり(東京市外大崎町上大崎二七五電高輪一五八三)

大谷 登

京都府多額納税者、帝國地方行政學會、行政學會印刷所各務社長、地方興業總取締役、帝國地方行政學會代表者、京都府在籍

大谷 兵太郎 佐の重商店、ドリール機械工具商 大阪府在籍

大谷 登

日本郵船總取締役、近海郵船、日清汽船各總取締役、海外興業、横濱船渠各總監査役、東京府在籍

大谷 藤 大谷商事社員、金融業 大阪府在籍

大谷 正信 從四位勳三等、廣島高等學校教授 廣島府在籍

大谷 登

君は舊福井藩士大谷誠の長男にして明治七年三月を以て生れ同十四年家督を相続す同二十九年東京高等商業學校を卒業し日本郵船會社に入り爾來倫敦香港兩地支店に勤務大正元年新嘉坡駐在員となり其間印度佛領印度各地遠くは遠洲南阿諸地方を遍く歴遊し大正五年カマカツ支店長となり尋て紐倫倫敦各支店長に歴參照井田耕治の項

君は兵庫縣人松尾勝治郎の兄にして明治十五年十月を以て生れ先代大谷の養子となり大正十五年家督を相続す佐の重商店と稱しドリール機械工具商を營む家族は尙三男正三(大六、二、四)四男忠郎(同四、七、七)長女芳枝(同八、二、二)姉と(同八、三、三)あり(大阪、南、順慶町四ノ八二電船場九二六)

大谷 龍造 從五位勳六等、海軍豫備艦少佐 地方海員審判所審判官兼選信局技師 大阪府在籍

大谷 正博

日興證券總大阪支店支配人 福島縣在籍

君は福島縣人現戸主大谷文之助の二男にして同正之助の弟なり明治三十四年七月を以て生れ大正三年東京高等商業學校を卒業し現時日興證券總大阪支店支配人たり家族は尙二男正哉(大四、五、五)長女裕子(昭三、一、一)ありA一二(兵庫、武庫、御影町字村一一二四ノ二電御影三六一八)

大谷 亮吉 從四位勳四等、大阪高等學校教授 兼京都帝國大學教授、學術研究會 議員、兵庫縣在籍

大谷 茂吉

千代田火災保險總福岡支店長 三重縣在籍

君は三重縣人大谷宮吉の長男にして明治二十一年七月を以て生れ大正七年家督を相続す同三十七年慶應義塾理財科を卒業し直ちに千代田火災保險會社に入り仙臺支店勤務を経て現時同支店支店長たり家族は尙二男正彦(大九、一、一)二女イヅ子(同五、一、一)三女博子(昭四、六、六)弟定次郎(明二五、一、一)同妻つじの(同三一、八、八、三、重、青木久次郎二女)及其子女あり姉なか(同八、八、八)は三重縣人板谷泰太郎に嫁せりA一一八(福岡市須崎町五七電三七二五)

大谷 彌吉 一畑電氣鐵道社長 鳥根縣在籍

大谷 彬亮

醫學博士、濟生會病院長、北里研究所部長、慶應義塾大學醫學部講師、東京府在籍

君は鳥根縣人先代彌吉の二男にして明治十九年一月を以て生れ同三十八年家督を相続し前名寛三を改め襲名す現時一畑電氣鐵道社長たり家族は尙二男昌行(大三、一、一)四女麗子(同六、一、一)三男義郎(同九、三、一)あり

大谷 喜次郎 大阪株式取引所取引員 大阪府在籍

大塚 寛治 日本製鍊、磐城電氣、東洋電氣工業、木戸川水力電氣、鐵興社各取締役、東京府在籍
 妻 廣子 明三、七生、工學博士桐橋實五郎長女
 男 東男 大八、九生
 君は東京府人、大塚柳吉の五男にして明治二十一年二月を以て生れ、大正六年分れて一家を創立す。明治四十四年東京帝國大學理學部星學科を卒業し、更に大正三年同大學工學部電氣工學科を卒業す。現時前記諸會社の重役たり。家族は尙長女明子(大七、三三)あり(東京、本郷、駒込東片町一〇)電小石川四六八六) 參照桐橋實五郎の項

大塚 喜一郎 城東電氣軌道取締役、中喜商店正興公司各種監査役、東京府在籍
 男 四郎 大九、五生
 女 さつき 大六、五生
 當家は永祿の昔より三百六十餘年間連綿として絶えず舊家にして代々名主を勤め又大地主として近郷に重きを成せり。君は東京府人、大塚信信の長男にして慶應三年十月を以て生れ、後迎へられて宗家の養子となり。明治二十六年養父伊置の後を襲ひ家督を相続す。夙に實業界に入り、現時前記各會社の重役にして、兼に瑞江村長、東京府農工銀行監査役等に擧げらる。長女愛子(明二八、七二)は東京府人、山口吉兵衛二男哲之助に三女美津(同三二、一一)生、龜町高女出身)は福井縣人、寺木喜三次に四女百合子(同三五、一一)生、中村高女出身)は山形縣人、白田彌次右衛門六男六郎に妹のふ(同三一、一一)生)は東京府人、中川喜四郎先代喜三郎に同(同六一、二二)生)は同府人、田邊正助長男繁太郎に同(同九九、六六)生)は山梨縣人、内田吉雄に同(同八八、一一)生)は東京府人、玉置藤次郎の養子となり同(同八二、一一)生)は東京府人、坊野宗兵衛の母たりA一八四(東京、南葛飾、瑞江村下今井一三九) 參照中川喜四郎、坊野宗兵衛、山口吉兵衛の項

大塚 吉太郎 中央電氣軌道取締役、新潟縣在籍
 妻 初菫 明九、八生、新潟、鈴木文太庶子
 男 吉郎 明四、二生
 女 シゲ 大五、一、二生
 君は新潟縣人、大塚長吉の長男にして元治元年一月を以て生れ、大正六年家督を相続す。現時中央電氣軌道取締役にして、兼に關川電力會社取締役を兼ねし。事あり家族は尙二男琢治(明四五、五五)三男文榮(大三、七)あり五女アヒ(明三三、五五)は新潟縣人、松岡鐵太郎長男源司に六女ハル(同三六、一一)生)は同縣人、丸山藤七繼子達治に嫁せり(新潟、中頸城、新井町)

大塚 專吉 安政三、九生、新潟、土、藤田又夫三男、現戶主
 妻 シノ 明二七、六生、山口、土、笹村吉郎長女
 男 新一 大九、八生
 女 松枝 大四、五生
 君は新潟縣土族、大塚專吉の長男にして明治十八年一月を以て生れ、同四十二年東京帝國大學法政學科を卒業し、文官高等試験に合格す。爾來農商務省山林事務官、補同事務官、製鐵所參事、臨時米穀管理事務官、農務官、事務官、同事務官、専任農商務書記官、大阪鐵務局長、農商務書記官、同書記官等に歴任し、昭和二年特許局事務官、同局抗告審判官に任じ、審判部長を経て同五年保險事務官に任じ、現に保險部長たり。兼に命ぜられて支那に出張す。家族は尙二女春子(大六、一)生)三女喜久子(同七、一一)生)二男隆(同一一、一〇)生)の外、兄弟三女(同七、一一)生)二男(同二五、一一)生、新潟、齋藤太右衛門三女)及其二子亡弟三男吉長男忠雄(大八、五五)あり(東京、市外高田町巢鴨三五七)電大塚三九五五) 參照笹村吉郎の項

大塚 菊雄 從七位、陸軍歩兵中尉、大塚商店主、靴靴具製造販賣業、東京府在籍
 妻 照世 明二七、六生、千葉、櫻井茂三郎二女、跡見女學校出身
 男 一也 大九、一、二生、東京、土、濱島和通二女
 女 明二七、六生、千葉、櫻井茂三郎二女、跡見女學校出身

大塚 健治 正五位勳四等、保險事務官、保險部、新潟縣土族
 妻 義子 明七、一〇生、岡山、戸田生一妹
 女 千代 明三三、二生、養子、藤妻
 君は新潟縣人、大塚政三郎の長男にして明治六年六月を以て生れ、同三十九年家督を相続す。現時前記會社の重役たり。家族は尙孫長六(大八、一〇)生、養子、藤妻長男)あり養子貞子(明三八、三三)は岡山縣人、戸田卓に嫁せりA三七二B一五六(岡山、後月、高屋村)

大塚 堅之助 正五位勳三等功五級、陸軍少將、近衛歩兵第一旅團長、愛、縣土族
 妻 八重 明六、六生、愛知、水谷重治四女
 男 秀一 大九、一〇生
 君は愛知縣土族、池田重治の三男にして明治十五年七月を以て生れ、先代秀形の養子となり、大正二年家督を相続す。明治三十五年陸軍士官學校を卒業し、翌年陸軍歩兵少尉に任じ、昭和五年陸軍少將に擧げられ、其間日露戰役に從軍し、朝鮮駐劄軍參謀司令部附第十二師團參謀、戶山學校教育部長、歩兵第三十三聯隊第一師團參謀、歩兵第十六旅團長等に歴任し、昭和六年現職に補せらる。家族は尙二男堅治(大七、三三)三男良三(同二〇、一〇)生)二女芳子(同一一、八)生)四男仁志(明三三、一一)生)あり長女千代子(明四一、三三)は兵庫縣人、河村常造長男秀吉に嫁せり(近衛歩兵第一旅團司令部)

大塚 五郎右衛門 東京府在籍
 妻 安政二、三三、倉橋市郎兵衛長女
 男 泰之助 明三五、四生
 女 隆一 明三七、五生
 君は愛知縣人、大塚素吉の二男にして明治九年一月を以て生れ、大正十年分れて一家を創立す。明治三十七年東京帝國大學法政學科を卒業し、夙に日本銀行に入り、累進して検査役となり、秋田新潟岡山京都各支店長を歴任し、現時同行同業局長たり。家族は尙二男祐之(大四、一)生)三男進雄(同六、六)生)ありA一〇三六(東京、牛込、中町八電牛込二七八六)

大塚 四郎 熱田合同運送專務取締役、静岡縣在籍
 妻 亥子 明二〇、一、一生、静岡、松下忠正
 男 義正 大九、七生
 君は静岡縣人、大塚忠平の四男にして明治十四年四月を以て生れ、現時前記會社の重役たり。家族は尙三男信正(大一一、一〇)生)四男素正(同二二、一〇)生)六男季正(同二四、一〇)生)七男昭正(同三三、七)生)兄七平(明九、一一)生、現戶主)同妻(同一一、一〇)生、静岡、植田九左衛門二女)及其子女あり姪、(同三五、九)生、兄七平長女)は静岡縣人、板倉永男に同(同三九、一)生、同二女)は同縣人、山脇透に同(同四一、一)生、同三女)は同縣人、中山定雄に嫁せり(名古屋、南、熱田、東町電南三八五四)

大塚 尙一 岡山縣多額納稅者、大塚織布、笠岡酒造各取締役、織物商、岡山縣在籍
 妻 和子 嘉永四、一〇生、岡山、渡邊保五郎從弟、現戶主
 男 幸 嘉永三、七生、養祖父安藏二女
 女 勢 明一六、三三、養父和三郎長女
 君は岡山縣人、東森利一の三男にして明治十二年七月を以て生れ、同三十三年大塚和三郎の養子となる。織物商を營み、尙前記各會社の重役にして、縣下の多額納稅者に列し、直接國稅千五百四十七圓を納む。家族は尙四男四郎(大二、三三)五男信治(同六、八)生)孫彰一(明二二、一一)生、長男幸一(長男)あり、養妹嘉代(明二三、九)生)同夫妻(同二七、一一)生、岡山、重見惣兵衛)は其子女を伴ひ分家せり(岡山、小田、笠岡町)

大塚 権次郎 本所區會議員、北産運轉取締役、鋼鐵商、東京府在籍
 妻 明二七、九生、千葉、沼崎勝之助長女
 君は東京府人、大塚字八の二男にして明治十八年九月を以て生れ、同四十一年先代母みつの後を襲ひ家督を相続す。鋼鐵商を營み、尙前記會社の重役にして、本所區會議員たり。現時大塚権次郎商店專務取締役、東洋建築工業會社取締役たり。ことあり、妹は(明二二、一一)生)は分家せり(東京、本所、入江町四二電本所三六四一)

大塚 治三郎 麗水電氣軌道社長、高瀬農場專務取締役、滋賀縣在籍
 妻 しか 明二四、一、一生、滋賀、大塚傳吉長女
 男 治一郎 大九、二生
 君は滋賀縣人、大塚八十治の二男にして明治十五年四月を以て生れ、大正九年分れて一家を創立す。現時麗水電氣會社社長にして、前記會社の重役たり。家族は尙二男治郎(大六、一〇)生)長女貞(同九、九)生)二女和(同二二、一一)生)三男信行(同二五、八)生)四男昭四郎(昭四、三)生)あり(朝鮮、全羅南、麗水西町)

大塚 清次 日本治金、池田商店、東神土地興業各取締役、内國食品各種監査役、鈴木商店支店配人、鈴木支店配人、兵庫縣在籍
 妻 ひで 明二一、三三、兵庫、楠英三郎三女
 君は岡山縣人、大塚清一の三男にして明治十二年七月を以て生れ、同三十三年大塚和三郎の養子となる。織物商を營み、尙前記各會社の重役にして、縣下の多額納稅者に列し、直接國稅千五百四十七圓を納む。家族は尙四男四郎(大二、三三)五男信治(同六、八)生)孫彰一(明二二、一一)生、長男幸一(長男)あり、養妹嘉代(明二三、九)生)同夫妻(同二七、一一)生、岡山、重見惣兵衛)は其子女を伴ひ分家せり(岡山、小田、笠岡町)

大塚 笹一 高屋織物専務社長、中備織物整理、岡山縣在籍
 妻 明二七、九生、千葉、沼崎勝之助長女
 君は東京府人、大塚字八の二男にして明治十八年九月を以て生れ、同四十一年先代母みつの後を襲ひ家督を相続す。鋼鐵商を營み、尙前記會社の重役にして、本所區會議員たり。現時大塚権次郎商店專務取締役、東洋建築工業會社取締役たり。ことあり、妹は(明二二、一一)生)は分家せり(東京、本所、入江町四二電本所三六四一)

大塚 尙 筑波高速電氣鐵道專務取締役、福島縣土族、大正監査官、各種監査役、福島縣在籍
 妻 明二七、一、二生、東京、土、下坂明太郎妹
 君は筑波縣人、大塚八十治の二男にして明治十五年四月を以て生れ、大正九年分れて一家を創立す。現時麗水電氣會社社長にして、前記會社の重役たり。家族は尙二男治郎(大六、一〇)生)長女貞(同九、九)生)二女和(同二二、一一)生)三男信行(同二五、八)生)四男昭四郎(昭四、三)生)あり(朝鮮、全羅南、麗水西町)

大塚 清次 日本治金、池田商店、東神土地興業各取締役、内國食品各種監査役、鈴木商店支店配人、鈴木支店配人、兵庫縣在籍
 妻 明二一、三三、兵庫、楠英三郎三女
 君は岡山縣人、大塚清一の三男にして明治十二年七月を以て生れ、同三十三年大塚和三郎の養子となる。織物商を營み、尙前記各會社の重役にして、縣下の多額納稅者に列し、直接國稅千五百四十七圓を納む。家族は尙四男四郎(大二、三三)五男信治(同六、八)生)孫彰一(明二二、一一)生、長男幸一(長男)あり、養妹嘉代(明二三、九)生)同夫妻(同二七、一一)生、岡山、重見惣兵衛)は其子女を伴ひ分家せり(岡山、小田、笠岡町)

助、廣川長八、山口政治の項

大塚茂十郎

兵庫縣多額納税者、辰馬本家酒造... 大塚茂十郎、辰馬本家酒造...

大塚彌吉

三枝商店監査役、大塚、大塚相... 大塚彌吉、三枝商店監査役...

大塚安治郎

米穀商、群馬縣在籍... 大塚安治郎、米穀商、群馬縣在籍...

大月義平二

正五位勳四等、検事、甲府地方裁... 大月義平二、正五位勳四等、検事...

大槻 式

薬學博士、大阪薬學専門學校長... 大槻 式、薬學博士、大阪薬學専門學校長...

商み替む父久右衛門は上毛實業銀行前橋倉庫會社前橋... 大塚芳太郎、大塚名代表社員、水塊販賣冷蔵業...

大塚芳太郎

大塚名代表社員、水塊販賣冷蔵業... 大塚芳太郎、大塚名代表社員、水塊販賣冷蔵業...

大塚力治

秋田屋材木店社長... 大塚力治、秋田屋材木店社長...

大槻榮三郎

三菱銀行理事、名古屋支店長... 大槻榮三郎、三菱銀行理事、名古屋支店長...

大槻 嘉造

臺灣銀行臺北頭取、検査課長... 大槻 嘉造、臺灣銀行臺北頭取、検査課長...

大槻 喬

從五位勳六等、東京工業大學助教... 大槻 喬、從五位勳六等、東京工業大學助教...

兄方太郎(同二三、四生)は北海道入水永政之丞の養子... 大塚良治、川崎信託事務取締役兼支配人...

大塚良治

川崎信託事務取締役兼支配人... 大塚良治、川崎信託事務取締役兼支配人...

大塚和三郎

大塚三郎、大塚源次郎... 大塚和三郎、大塚三郎、大塚源次郎...

大槻 信治

從五位勳五等、鐵道書記官兼鐵道... 大槻 信治、從五位勳五等、鐵道書記官兼鐵道...

大槻 信治

宮城縣銀行... 大槻 信治、宮城縣銀行...

大槻 爲八

益根炭礦、日本モーター各廠取... 大槻 爲八、益根炭礦、日本モーター各廠取...